

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【提出先】	関東財務局長 殿
【提出日】	平成30年5月31日提出
【計算期間】	第13特定期間 (自 平成29年9月8日 至 平成30年3月7日)
【ファンド名】	ダイワ米国株ストラテジー (通貨選択型) - トリプルリターンズ - 日本円・コース (毎月分配型) ダイワ米国株ストラテジー (通貨選択型) - トリプルリターンズ - 豪ドル・コース (毎月分配型) ダイワ米国株ストラテジー (通貨選択型) - トリプルリターンズ - ブラジル・リアル・コース (毎月分配型) ダイワ米国株ストラテジー (通貨選択型) - トリプルリターンズ - 米ドル・コース (毎月分配型) ダイワ米国株ストラテジー (通貨選択型) - トリプルリターンズ - 通貨セレクト・コース (毎月分配型) (総称を「ダイワ米国株ストラテジー (通貨選択型) - トリプルリターンズ - 」とします。)
【発行者名】	大和証券投資信託委託株式会社
【代表者の役職氏名】	取締役社長 岩本 信之
【本店の所在の場所】	東京都千代田区丸の内一丁目9番1号
【事務連絡者氏名】	高橋 慎
【連絡場所】	東京都千代田区丸の内一丁目9番1号
【電話番号】	03-5555-3431
【縦覧に供する場所】	該当ありません。

第一部 【ファンド情報】

第1 【ファンドの状況】

1 【ファンドの性格】

(1) 【ファンドの目的及び基本的性格】

当ファンドは、割安と判断される米国の株式とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略を構築し、信託財産の成長をめざして運用を行ないます。一般社団法人投資信託協会による商品分類・属性区分は、次のとおりです。

ダイワ米国株ストラテジー（通貨選択型） - トリプルリターンズ - 日本円・コース（毎月分配型）

商品分類	単位型投信・追加型投信	追加型投信
	投資対象地域	海外
	投資対象資産(収益の源泉)	株式
属性区分	投資対象資産	その他資産（投資信託証券（その他資産））
	決算頻度	年12回（毎月）
	投資対象地域	北米
	投資形態	ファンド・オブ・ファンズ
	為替ヘッジ	為替ヘッジあり（フルヘッジ）

ダイワ米国株ストラテジー（通貨選択型） - トリプルリターンズ - 豪ドル・コース（毎月分配型）

ダイワ米国株ストラテジー（通貨選択型） - トリプルリターンズ - ブラジル・リアル・コース（毎月分配型）

ダイワ米国株ストラテジー（通貨選択型） - トリプルリターンズ - 米ドル・コース（毎月分配型）

ダイワ米国株ストラテジー（通貨選択型） - トリプルリターンズ - 通貨セレクト・コース（毎月分配型）

商品分類	単位型投信・追加型投信	追加型投信
	投資対象地域	海外
	投資対象資産(収益の源泉)	株式
属性区分	投資対象資産	その他資産（投資信託証券（その他資産））
	決算頻度	年12回（毎月）
	投資対象地域	北米
	投資形態	ファンド・オブ・ファンズ
	為替ヘッジ	為替ヘッジなし

属性区分に記載している「為替ヘッジ」は、対円での為替リスクに対するヘッジの有無を記載しております。

（注1）商品分類の定義

- ・「追加型投信」...一度設定されたファンドであってもその後追加設定が行なわれ従来の信託財産とともに運用されるファンド
- ・「海外」...目論見書または投資信託約款（以下「目論見書等」といいます。）において、組入資産による主たる投資収益が実質的に海外の資産を源泉とする旨の記載があるもの
- ・「株式」...目論見書等において、組入資産による主たる投資収益が実質的に株式を源泉とする旨の記載があるもの

（注2）属性区分の定義

- ・「その他資産」...組入れている資産
- ・「年12回（毎月）」...目論見書等において、年12回（毎月）決算する旨の記載があるもの
- ・「北米」...目論見書等において、組入資産による投資収益が北米地域の資産を源泉とする旨の記載があるもの
- ・「ファンド・オブ・ファンズ」...「投資信託等の運用に関する規則」第2条に規定するファンド・オブ・ファンズ
- ・「為替ヘッジあり」...目論見書等において、為替のフルヘッジまたは一部の資産に為替のヘッジを行なう旨の記載があるもの
- ・「為替ヘッジなし」...目論見書等において、為替のヘッジを行なわない旨の記載があるものまたは為替のヘッジを行なう旨の記載がないもの

商品分類表

- 〈ダイワ米国株ストラテジーα（通貨選択型）－トリプルリターンズ－日本円・コース（毎月分配型）〉
 〈ダイワ米国株ストラテジーα（通貨選択型）－トリプルリターンズ－豪ドル・コース（毎月分配型）〉
 〈ダイワ米国株ストラテジーα（通貨選択型）－トリプルリターンズ－ブラジル・リアル・コース（毎月分配型）〉
 〈ダイワ米国株ストラテジーα（通貨選択型）－トリプルリターンズ－米ドル・コース（毎月分配型）〉
 〈ダイワ米国株ストラテジーα（通貨選択型）－トリプルリターンズ－通貨セレクト・コース（毎月分配型）〉

単位型投信・追加型投信	投資対象地域	投資対象資産（収益の源泉）
単位型投信	国内	株式
追加型投信	海外	債券
	内外	不動産投信
		その他資産 ()
		資産複合

(注) 当ファンドが該当する商品分類を網掛け表示しています。

属性区分表

- 〈ダイワ米国株ストラテジーα（通貨選択型）－トリプルリターンズ－日本円・コース（毎月分配型）〉

投資対象資産	決算頻度	投資対象地域	投資形態	為替ヘッジ
株式		グローバル (含む日本)		
一般	年1回			
大型株				
中小型株	年2回	日本		
債券				
一般	年4回	北米	ファミリー ファンド	あり (フルヘッジ)
公債		欧州		
社債	年6回 (隔月)	アジア		
その他債券		オセアニア		
クレジット属性 ()				
不動産投信	年12回 (毎月)	中南米		
その他資産 (投資信託証券) (その他資産)	日々	アフリカ	ファンド・オブ・ ファンズ	なし
資産複合 ()	その他	中近東 (中東)		
資産配分固定型	()	エマージング		
資産配分変更型				

(注) 当ファンドが該当する属性区分を網掛け表示しています。

属性区分表

〈ダイワ米国株ストラテジーα（通貨選択型）－トリプルリターンズ－豪ドル・コース（毎月分配型）〉

〈ダイワ米国株ストラテジーα（通貨選択型）－トリプルリターンズ－ブラジル・リアル・コース（毎月分配型）〉

〈ダイワ米国株ストラテジーα（通貨選択型）－トリプルリターンズ－米ドル・コース（毎月分配型）〉

〈ダイワ米国株ストラテジーα（通貨選択型）－トリプルリターンズ－通貨セレクト・コース（毎月分配型）〉

投資対象資産	決算頻度	投資対象地域	投資形態	為替ヘッジ
株式 一般 大型株 中小型株	年1回	グローバル (含む日本)		
債券 一般 公債 社債 その他債券 クレジット属性 ()	年2回	日本		
	年4回	北米	ファミリー ファンド	あり ()
	年6回 (隔月)	欧州		
	年12回 (毎月)	アジア		
不動産投信		オセアニア		
その他資産 (投資信託証券) (その他資産)	日々	中南米	ファンド・オブ・ ファンズ	なし
資産複合 ()	その他 ()	アフリカ		
資産配分固定型 資産配分変更型		中近東 (中東)		
		エマージング		

(注) 当ファンドが該当する属性区分を網掛け表示しています。

商品分類・属性区分の定義について、くわしくは、一般社団法人投資信託協会のホームページ（アドレス <http://www.toushin.or.jp/>）をご参照下さい。

< 信託金の限度額 >

- ・委託会社は、受託会社と合意のうえ、各ファンドについて8,000億円を限度として信託金を追加することができます。
- ・委託会社は、受託会社と合意のうえ、限度額を変更することができます。

< ファンドの特色 >

1. 割安と判断される米国の株式とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略を構築します。

- ◆投資対象銘柄はS&P500種株価指数構成銘柄の時価総額上位半数程度の銘柄から金融セクターに属する銘柄を除いた銘柄とします。
- ◆ドイツ銀行グループが独自に開発した株式分析手法「クロッキーモデル」を用い、会計データを重点分析し、割安と判断される40銘柄を選定します。
- ◆選定時における各銘柄の構成比率は概ね均等とします。また、銘柄の見直しは約1か月ごとに行ないます。
- ◆個別銘柄ごとにコール・オプションを売却することでカバードコール戦略を構築します。コール・オプションの満期日は、原則として売却から約1か月後とします。

2. 為替取引を活用します。

- ◆当ファンドには次の5つのコースがあり、「米ドル・コース」を除き、米ドル建ての資産に対して米ドル売り／対象通貨買いの為替取引を行ないます。



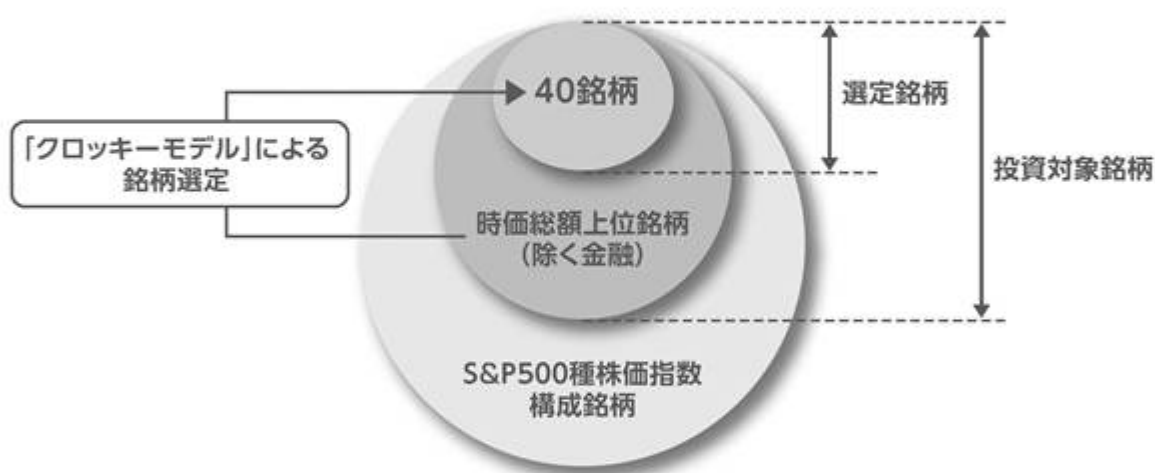
(注) 5つのコースの間でスイッチング(乗換え)を行なうことができます。

3. 毎月7日(休業日の場合翌営業日)に決算を行ない、収益分配方針に基づいて収益の分配を行ないます。

① 割安と判断される米国の株式とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略を構築します。

- ◆投資対象銘柄はS&P500種株価指数構成銘柄の時価総額上位半数程度の銘柄から金融セクターに属する銘柄を除いた銘柄とします。
- ◆ドイツ銀行グループが独自に開発した株式分析手法「クロッキーモデル」を用い、会計データを重点分析し、割安と判断される40銘柄を選定します。
- ◆選定時における各銘柄の構成比率は概ね均等とします。また、銘柄の見直しは約1か月ごとに行ないます。

銘柄選定のイメージ



※S&P500種株価指数は、米国の上場・店頭登録株式のうち、S&Pグローバル・レーティング(S&P)が選定する代表的な500銘柄で構成される株価指数です。

「クロッキーモデル」とは

- クロッキーモデルは、ドイツ銀行グループが1995年から1996年にかけて開発した株式分析手法で、世界の機関投資家に利用されています。
- クロッキーモデルは、開発以来一貫した手法で国・業種を超えて株式投資をするために、統一した投資尺度を提供しています。
- 世界の大型株を対象として、企業が開示している会計データを徹底的に分析することで企業の本質的価値を算出しています。

※ドイツ銀行グループは、1870年にベルリンで創業されたドイツ銀行を中心とする世界最大級の総合金融グループです。世界各国で事業を展開し、幅広い金融サービスを提供しています。

◆個別銘柄ごとにコール・オプションを売却することでカバードコール戦略を構築します。

カバードコール戦略とは

- 株式を保有しつつ、株式のコール・オプション（買う権利）を売却する戦略です。
- 株価の上昇／下落にかかわらず、オプションプレミアムを獲得することができます。
- 一方で、株価の上昇による利益は一定の水準までに限定されます。

ケース①	株価が上昇したが、満期日に 権利行使価格に到達しなかった場合	➡	株価の上昇による利益が 発生します。
ケース②	株価が下落し、満期日に 当初株価を下回った場合	➡	株価の下落による損失が 発生します。
ケース③	株価が上昇し、満期日に 権利行使価格以上となった場合	➡	株価の上昇による利益が 発生しますが、 権利行使価格を上回る 上昇による利益は受取れません。

※上記は、投資成果を示唆または保証するものではありません。

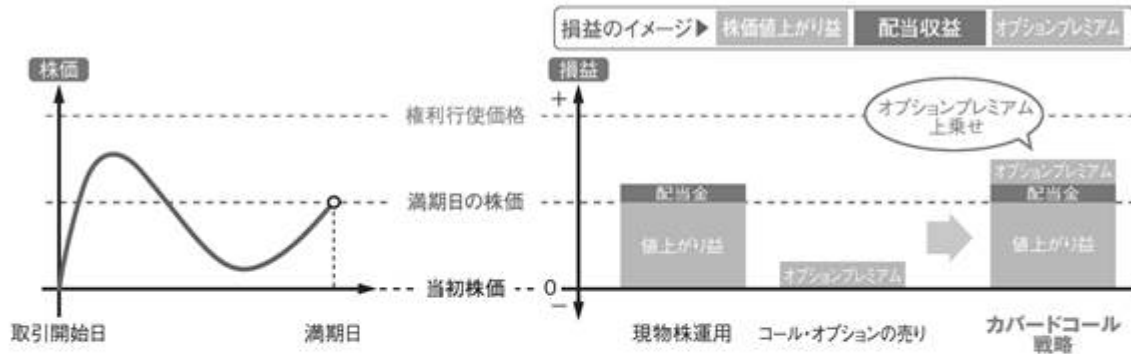
- ・「オプションプレミアム」とは、オプションの買い手が売り手に支払う対価をいいます。
- ・「権利行使価格」とは、オプションの権利行使の基準となる株価をいいます。

当ファンドにおけるカバードコール戦略について

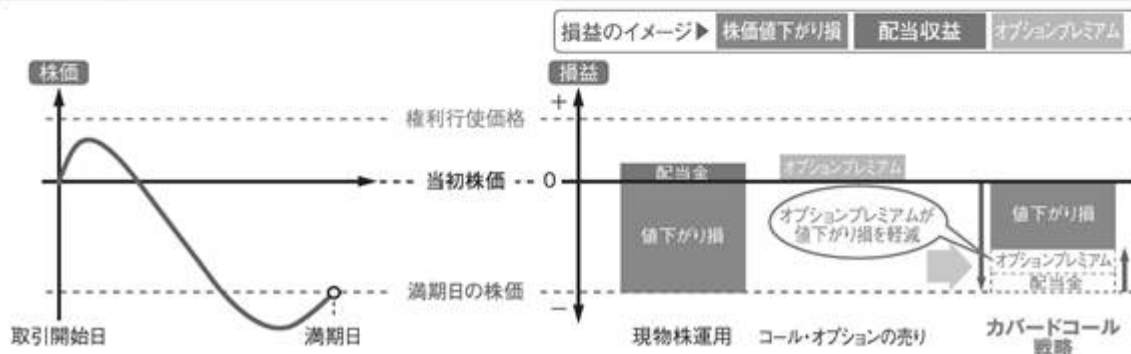
- コール・オプションの満期日は、原則として売却から約1か月後とします。
- 原則として、コール・オプションが満期を迎えるごとに、銘柄を見直すとともに新たにコール・オプションを売却することで、カバードコール戦略を再構築します。
- 権利行使が満期日のみに限定されているオプションを利用します。

カバードコール戦略の満期日における損益イメージ

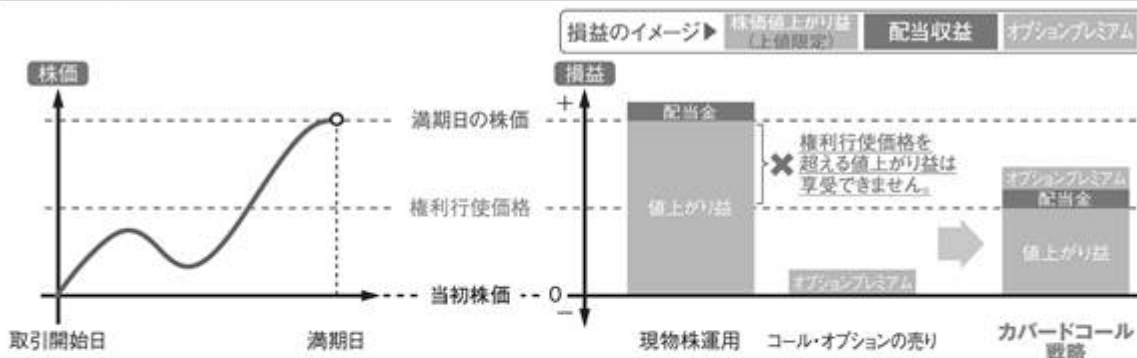
ケース① 株価は上昇したが、満期日に権利行使価格に到達しなかった場合



ケース② 株価が下落し、満期日に当初株価を下回った場合








ケース③ 株価が上昇し、満期日に権利行使価格以上となった場合



- ※上記は配当金の支払いがあった場合の損益イメージを表したものです。
- ※当ファンドにおいて、カバードコール戦略の損益は毎営業日時価評価され、基準価額に反映されます。
- ※当ファンドにおけるカバードコール戦略の損益は、対象となる株式の銘柄ごとに異なります。
- ※上記は当ファンドの損益を示したものではありません。
- ※上記はイメージであり、実際の株価、配当金、オプションプレミアムとは異なります。
- ※上記は投資成果を示唆または保証するものではありません。

2 為替取引を活用します。

- ◆当ファンドには次の5つのコースがあり、「米ドル・コース」を除き、米ドル建ての資産に対して米ドル売り／対象通貨買いの為替取引を行ないます。

コース名	為替取引の内容	取引対象通貨
 日本円・コース	米ドル建ての資産に対して 米ドル売り／日本円買い	日本円
 豪ドル・コース	米ドル建ての資産に対して 米ドル売り／豪ドル買い	豪ドル
 ブラジル・リアル・コース	米ドル建ての資産に対して 米ドル売り／ブラジル・リアル買い	ブラジル・リアル
 米ドル・コース	—————	—————
 通貨セレクト・コース	米ドル建ての資産に対して 米ドル売り／選定通貨買い	選定通貨

※5つのコースの間でスイッチング(乗換え)を行なうことができます。

- ◆「米ドル・コース」以外の各コースでは、為替取引を行なうことにより、「為替取引によるプレミアム(金利差相当分の収益)／コスト(金利差相当分の費用)」が生じます。
- ◆「日本円・コース」では、為替変動リスクの低減を図ります。ただし、為替変動リスクを完全に排除できるものではありません。
- ◆「日本円・コース」以外の各コースでは、為替取引の対象通貨の対円レートの上昇(円安)／下落(円高)により、為替差益／為替差損が生じます。
- ◆「通貨セレクト・コース」において、選定通貨とは、以下の<通貨の運用方針>により、為替取引の対象通貨として選定された通貨をいいます。

<通貨の運用方針>

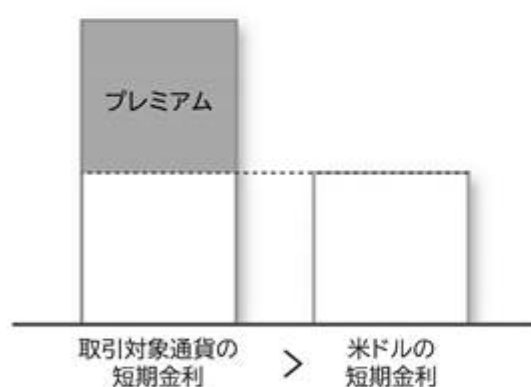
- 原則として、「FTSE世界国債インデックス」および「JPモルガン ガバメント・ボンド・インデックス－エマージング・マーケットズ ブロード」の構成国の通貨の中から、金利水準、リスク水準、ファンダメンタルズ、流動性等を考慮し、6つの通貨を選定します。
※上記指数構成国の通貨以外の通貨を選定する場合があります。
- 選定通貨の投資比率は、金利水準、リスク水準等を考慮して決定します。
- 選定通貨および投資比率は、原則、毎月見直します。

為替取引によるプレミアム（金利差相当分の収益）／コスト（金利差相当分の費用）について

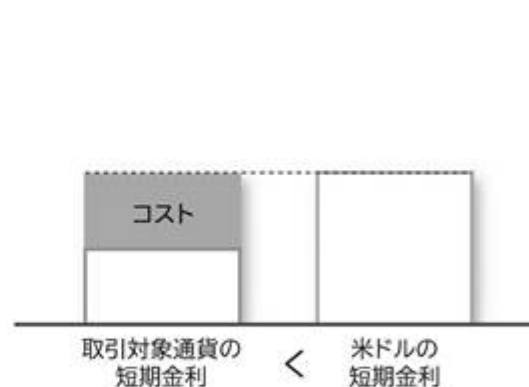
- 為替取引の対象通貨の短期金利が、米ドルの短期金利よりも高い場合、「プレミアム（金利差相当分の収益）」が期待できます。
- 為替取引の対象通貨の短期金利が、米ドルの短期金利よりも低い場合、「コスト（金利差相当分の費用）」が生じます。

$$\text{プレミアム／コスト（金利差相当分の収益／費用）} \doteq \begin{array}{c} \text{取引対象通貨の短期金利} \\ \text{◆日本円 ◆豪ドル} \\ \text{◆ブラジル・レアル ◆選定通貨} \end{array} - \text{米ドルの短期金利}$$

●プレミアムが期待できるケース



●コストが生じるケース



※上記はイメージであり、実際のプレミアム／コストとは異なります。

※上記は投資成果を示唆、保証するものではありません。

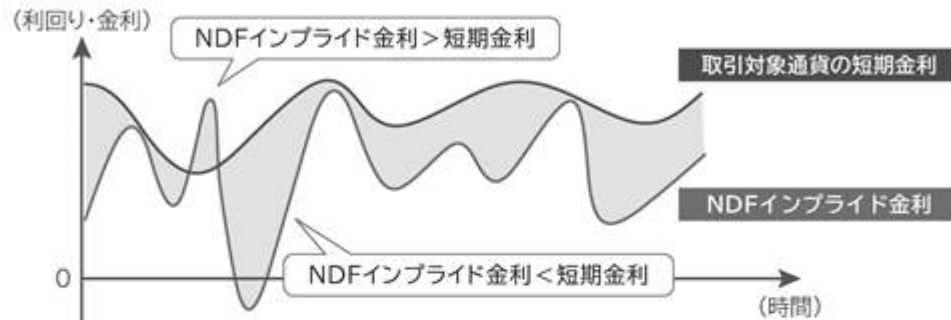
※実際の為替取引によるプレミアム／コストの水準は、需給要因等によって金利差相当分とは異なる水準となり、プレミアムの縮小、コストの拡大が生じることがあります。

※取引対象通貨が新興国通貨の場合、為替取引を行なう際にNDF（ノン・デリバラブル・フォワード）取引を利用することがあります。NDF取引を用いて為替取引を行なう際、プレミアム／コストは、需給や規制等の影響により、金利差から期待される水準と大きく異なる場合があります。

NDF取引とは

- ◆取引対象通貨を用いた受け渡しは行わず、米ドル等の主要通貨による差金決済を相対で行なう取引です。
- ◆NDF取引価格から算出される“NDFインプライド金利”は、市場の流動性が低く、割高や割安を是正する動き（裁定）が働きにくいことから、市場参加者の期待や需給などの要因により、取引対象通貨の短期金利の水準から大きく乖離する場合があります。

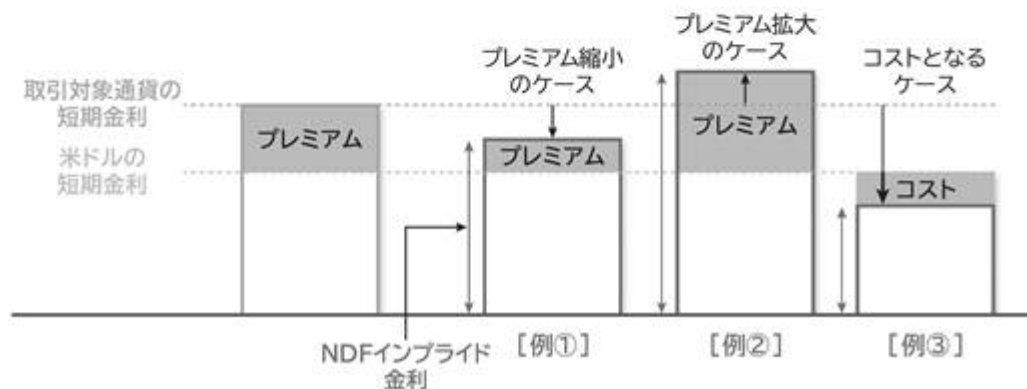
NDFインプライド金利と取引対象通貨の短期金利が乖離するイメージ



※上記はイメージであり、当ファンドのパフォーマンスとは異なります。

NDFインプライド金利の変動の影響

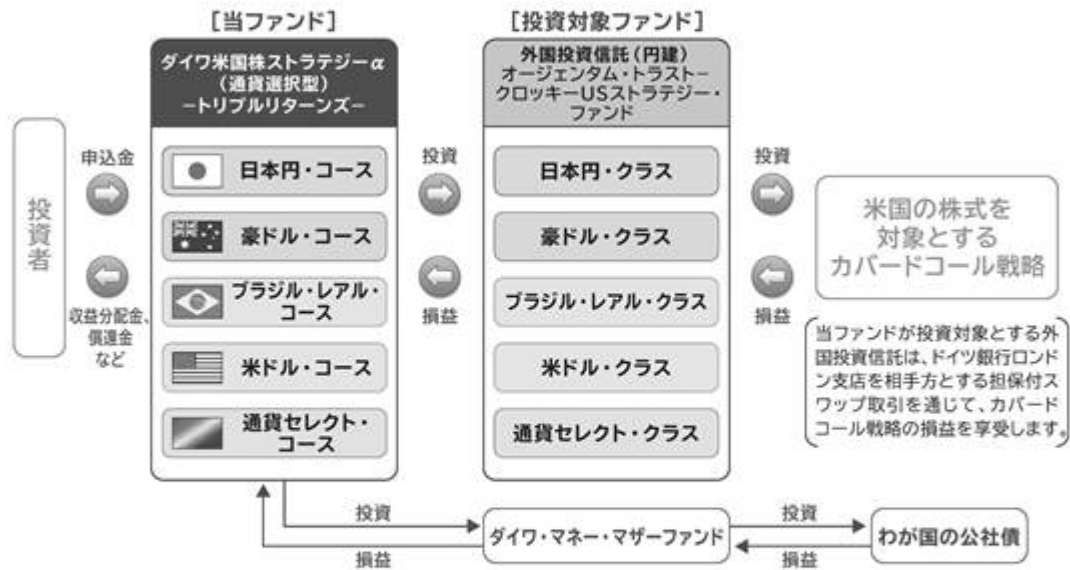
- ◆市場参加者の通貨上昇（下落）期待や需給などにより、NDFインプライド金利は低く（高く）なる可能性があります。NDFインプライド金利が取引対象通貨の短期金利より低く（高く）なると、為替取引によるプレミアム（金利差相当分の収益）が縮小【例①】（拡大【例②】）し、場合によっては為替取引によるコスト（金利差相当分の費用）となるケース【例③】もあります。



※上記はイメージであり、実際のプレミアム／コストとは異なります。
※上記は投資成果を示唆、保証するものではありません。

ファンドの仕組み

- ◆当ファンドは、複数の投資信託証券に投資する「ファンド・オブ・ファンズ」です。
- ◆外国投資信託の受益証券を通じて、米国の株式とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略を構築するとともに、「米ドル・コース」を除き、米ドル建ての資産に対して為替取引を行いません。
- ◆当ファンドが投資対象とする外国投資信託では、直接株式への投資やオプション取引を行わず、担保付スワップ取引を通じて、米国の株式とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略の損益を享受します。



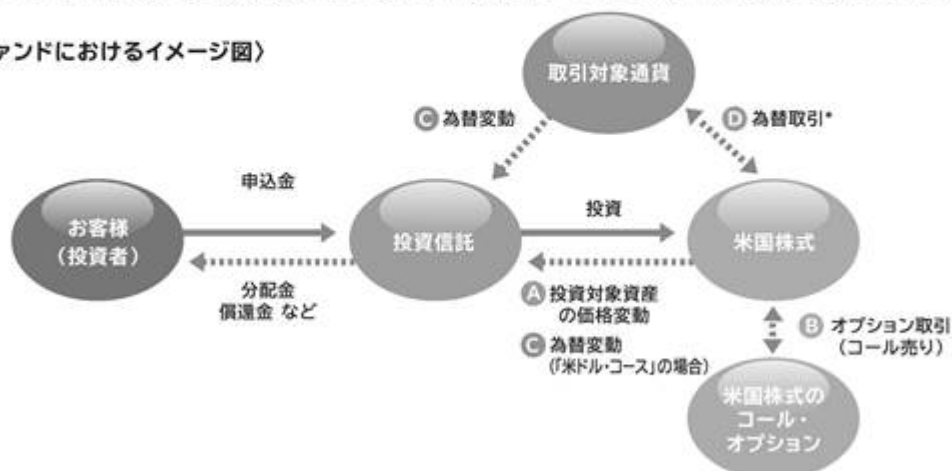
- 当ファンドは、通常の状態では、投資対象とする外国投資信託への投資割合を高位に維持することを基本とします。

- 大量の追加設定または解約が発生したとき、市況の急激な変化が予想されるとき、償還の準備に入ったとき等ならびに信託財産の規模によっては、ファンドの特色1、および2、の運用が行なわれないことがあります。

通貨選択型ファンドの収益のイメージ

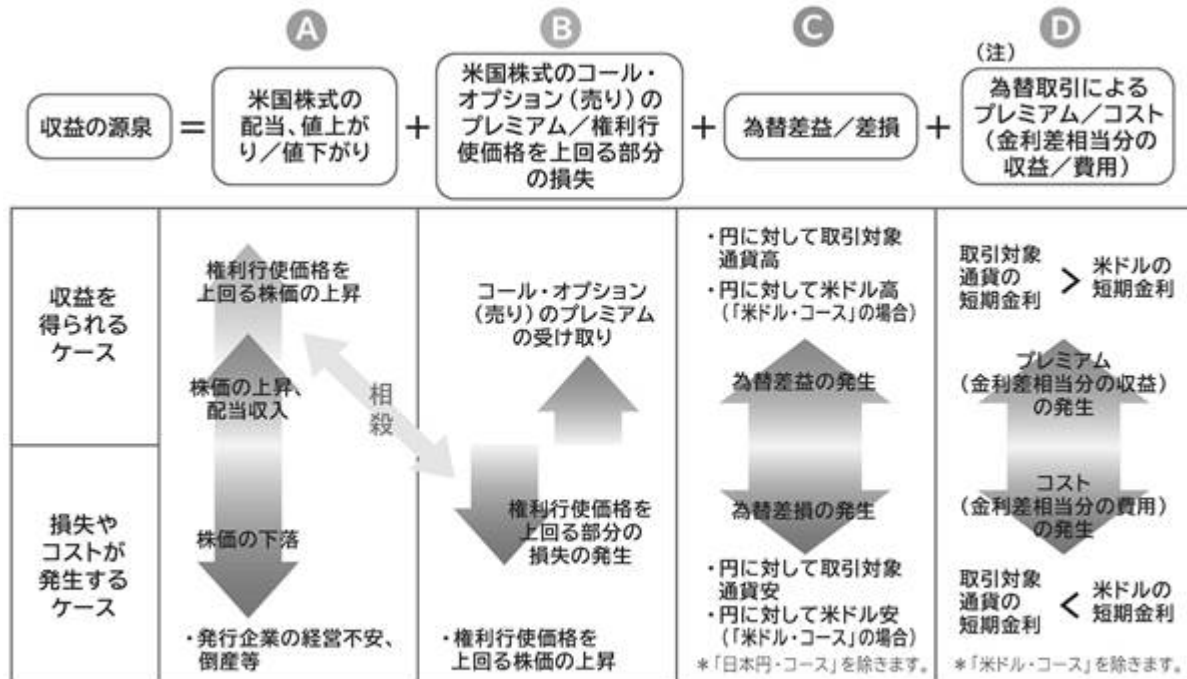
- 通貨選択型の投資信託は、株式や債券などといった投資対象資産に加えて、為替取引の対象となる円以外の通貨も選択することができるよう設計された投資信託です。
- 当ファンドでは、米国の株式に投資するとともに、個別株オプション取引および為替取引を活用します。

〈当ファンドにおけるイメージ図〉



*取引対象通貨が円以外の場合には、当該取引対象通貨の対円での為替リスクが発生することに留意が必要です。

- 当ファンドの収益源としては、以下の要素が挙げられます。
これらの収益源に相応してリスクが内在していることに注意が必要です。



(注) 為替取引を行なう際にNDF取引を利用することがあります。

NDF取引を用いて為替取引を行なう際、為替取引によるプレミアム/コスト(金利差相当分の収益/費用)は、金利差から期待される水準と大きく異なる場合があります。

※上記はイメージであり、実際の投資成果を示唆、保証するものではありません。

③ 毎月7日(休業日の場合翌営業日)に決算を行ない、収益分配方針に基づいて収益の分配を行ないます。

分配方針

- ① 分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益(評価益を含みます。)等とします。
- ② 原則として、継続的な分配を行なうことを目標に、基準価額の水準を勘案して分配金額を決定します。
ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないことがあります。

収益分配のイメージ



※上記はイメージ図であり、将来の分配金の支払いおよびその金額について示唆、保証するものではありません。

※分配金額は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

※ファンドの基準価額は変動します。投資元本、利回りが保証されているものではありません。

FTSE世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。

【収益分配金に関する留意事項】

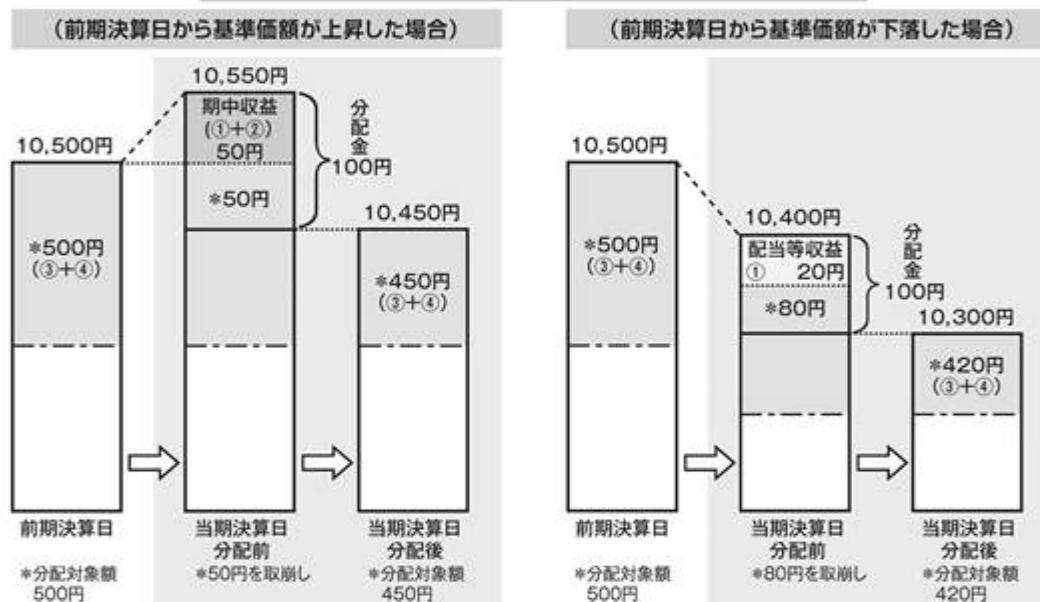
- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

投資信託で分配金が支払われるイメージ



- 分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

（計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合）



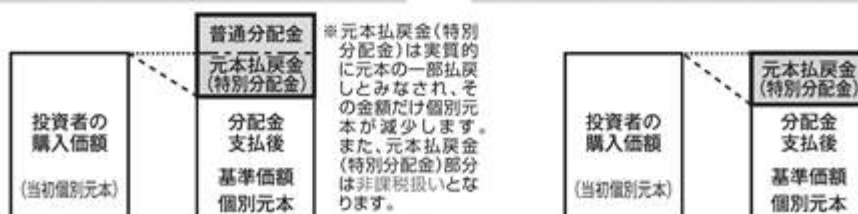
（注）分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。

※上記はイメージであり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではありませんのでご留意下さい。

- 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。

（分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合）

（分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合）



普通分配金 … 個別元本(投資者のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。

元本払戻金 … 個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者の個別元本は、元本払戻金(特別分配金)の額だけ減少します。

（注）普通分配金に対する課税については、「4 手数料等及び税金 (5) 課税上の取扱い」をご参照下さい。

ケイマン籍の外国投資信託「オージェンタム・トラスト-クロッキーUSストラテジー・ファンド(日本円・クラス)」、「同(豪ドル・クラス)」、「同(ブラジル・リアル・クラス)」、「同(米ドル・クラス)」、「同(通貨セレクト・クラス)」について

形態 / 表示通貨	ケイマン籍の外国投資信託 / 円建
運用の基本方針	<p>「米ドル・クラス」以外</p> <p>主として、担保付スワップ取引を通じて、割安と判断される米国の株式とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略を構築するとともに、米ドル建ての資産に対して為替取引を行ない、信託財産の成長をめざします。</p> <p>「米ドル・クラス」</p> <p>主として、担保付スワップ取引を通じて、割安と判断される米国の株式とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略を構築し、信託財産の成長をめざします。</p>
主要投資対象	担保付スワップ取引

運用方針

1.主として、担保付スワップ取引を通じて、割安と判断される米国の株式とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略の投資成果を享受します。

・担保付スワップ取引の相手方は、ドイツ銀行ロンドン支店です。

2.カバードコール戦略の構築にあたっては、以下の点に留意します。

・投資対象銘柄はS&P500種株価指数構成銘柄の時価総額上位半数程度の銘柄から世界産業分類基準(GICS)の金融セクターに属する銘柄を除いた銘柄とします。

・ドイツ銀行グループが独自に開発した株式分析手法「クロッキーモデル」を用い、会計データを重点分析し、割安と判断される40銘柄を選定します。

・選定時における各銘柄の構成比率は概ね均等とします。

・個別銘柄ごとに、当該株式を原資産とするヨーロピアン・コール・オプションを売却することでカバードコール戦略を構築します。

銘柄の見直しは約1か月ごとに行ないます。

コール・オプションの満期日は、原則として売却から約1か月後とします。

原則として、コール・オプションが満期を迎えるごとに、銘柄を見直すとともに新たにコール・オプションを売却することでカバードコール戦略を再構築します。

3.「米ドル・クラス」以外

原則として、米ドル建ての資産に対して、外国為替予約取引およびNDF取引等を活用し、以下の為替取引を行ないます。

(シェアクラス) (ポジションの内容)

日本円・クラス：米ドル売り/日本円買い

豪ドル・クラス：米ドル売り/豪ドル買い

ブラジル・リアル・クラス：米ドル売り/ブラジル・リアル買い

通貨セレクト・クラス：米ドル売り/選定通貨買い

「通貨セレクト・クラス」について

・選定通貨とは、通貨運用助言会社の助言に基づき決定した複数の通貨をいいます。

・大和証券投資信託委託株式会社が通貨の選定および配分比率について助言を行ないます。

<通貨の運用方針>

・原則として、FTSE世界国債インデックスおよびJPモルガン ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケットズ ブロードの構成国の通貨の中から、金利水準、リスク水準、ファンダメンタルズ、流動性等を考慮し、6つの通貨を選定します。

上記指数構成国の通貨以外の通貨を選定する場合があります。

・選定通貨の投資比率は、金利水準、リスク水準等を考慮して決定します。

	<p>・選定通貨および投資比率は、原則、毎月見直します。</p> <p>「米ドル・クラス」 為替変動リスクを回避するための為替ヘッジは原則として行ないません。</p> <p>4.大量の追加設定または解約が発生したとき、市況の急激な変化が予想されるとき、償還の準備に入ったとき等ならびに信託財産の規模によっては、上記の運用が行なわれないことがあります。</p>
設定日	「通貨セレクト・クラス」以外：2011年9月22日 「通貨セレクト・クラス」：2013年5月31日
信託期間	無期限
決算日	2月末日
収益分配	原則として、毎月分配を行ないます。
管理報酬等	「通貨セレクト・クラス」以外：純資産総額に対して年率0.18%程度 「通貨セレクト・クラス」：純資産総額に対して年率0.33%程度 ただしその他、監査費用、弁護士費用、有価証券売買委託手数料等、ファンドの運営に必要な各種経費等がかかります。
担保付スワップにかかる費用	・クロッキーの指数計算報酬としてスワップ取引の評価額に対して年率0.5%がかかります。 ・その他、担保付スワップ取引に必要な経費等がかかります。
申込手数料	かかりません。
管理会社	ムーア・マネジメント（バミューダ）リミテッド
備考	当外国投資信託は、担保付スワップ取引の相手方にカバードコール戦略の構築に必要な現金を支払い、当該戦略等の評価額に相当する米国の国債や株式などを担保として受け入れます。担保付スワップ取引の相手方は、日々の担保付スワップ取引の評価を行っており、担保も洗い替えされます。担保付スワップ取引の評価には、株式等へ投資する場合にかかるコストや税金等が反映されます。

ムーア・マネジメント（バミューダ）リミテッドについて

ムーア・マネジメント（バミューダ）リミテッドは、ムーア・グループの一部を形成しています。ムーア・グループは、1996年の設立で、世界の主要金融センターの大手投資銀行から専門のオルタナティブ投資運用会社にわたる広範囲の企業や機関投資家に、ファンドの運営・管理事務やコーポレート・サービスを提供している専門サービスプロバイダーです。

「ダイワ・マネー・マザーファンド」について

形態 / 表示通貨	国内籍の証券投資信託 / 円建
運用の基本方針	主としてわが国の公社債への投資により、利息収入の確保をめざして運用を行ないます。
主要投資対象	本邦通貨表示の公社債

投資態度	わが国の公社債を中心に安定運用を行ないます。 邦貨建資産の組入れにあたっては、取得時に第二位（A - 2格相当）以上の短期格付であり、かつ残存期間が1年未満の短期債、コマーシャル・ペーパーに投資することを基本とします。 当初設定日直後、大量の追加設定または解約が発生したとき、市況の急激な変化が予想されるとき、償還の準備に入ったとき等ならびに信託財産の規模によっては、上記の運用が行なわれないことがあります。
設定日	2004年12月10日
信託期間	無期限
決算日	毎年12月9日（休業日の場合翌営業日）
運用管理費用 （信託報酬）	かかりません。
委託会社	大和証券投資信託委託株式会社
受託会社	三井住友信託銀行株式会社

(2) 【ファンドの沿革】

< 「日本円・コース」「豪ドル・コース」「ブラジル・リアル・コース」「米ドル・コース」 >
2011年9月22日 信託契約締結、当初設定、運用開始
2015年6月3日 信託期間終了日を2021年9月7日に変更（当初は2016年9月7日）

< 「通貨セレクト・コース」 >
2013年5月31日 信託契約締結、当初自己設定、運用開始
2015年6月3日 信託期間終了日を2021年9月7日に変更（当初は2016年9月7日）

(3) 【ファンドの仕組み】

受益者	お申込者		
	収益分配金（注）、償還金など お申込金（ 3 ）		
お取扱窓口	<table border="1"> <tr> <td style="text-align: center;">販売会社</td> <td> <p>受益権の募集・販売の取扱い等に関する委託会社との契約（ 1 ）に基づき、次の業務を行ないます。</p> <p>受益権の募集の取扱い 一部解約請求に関する事務 収益分配金、償還金、一部解約金の支払い に関する事務 など</p> </td> </tr> </table>	販売会社	<p>受益権の募集・販売の取扱い等に関する委託会社との契約（ 1 ）に基づき、次の業務を行ないます。</p> <p>受益権の募集の取扱い 一部解約請求に関する事務 収益分配金、償還金、一部解約金の支払い に関する事務 など</p>
販売会社	<p>受益権の募集・販売の取扱い等に関する委託会社との契約（ 1 ）に基づき、次の業務を行ないます。</p> <p>受益権の募集の取扱い 一部解約請求に関する事務 収益分配金、償還金、一部解約金の支払い に関する事務 など</p>		
1	収益分配金、償還金など お申込金（ 3 ）		

委託会社	大和証券投資信託委託株式会社	当ファンドにかかる証券投資信託契約(以下「信託契約」といいます。)(2)の委託者であり、次の業務を行ないます。 受益権の募集・発行 信託財産の運用指図 信託財産の計算 運用報告書の作成 など
運用指図	2	損益 信託金(3)
受託会社	三井住友信託銀行株式会社 再信託受託会社： 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	信託契約(2)の受託者であり、次の業務を行ないます。なお、信託事務の一部につき日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社に委託することができます。また、外国における資産の保管は、その業務を行なうに十分な能力を有すると認められる外国の金融機関が行なう場合があります。 委託会社の指図に基づく信託財産の管理・処分 信託財産の計算 など
		損益 投資
投資対象	投資対象ファンドの受益証券 など	

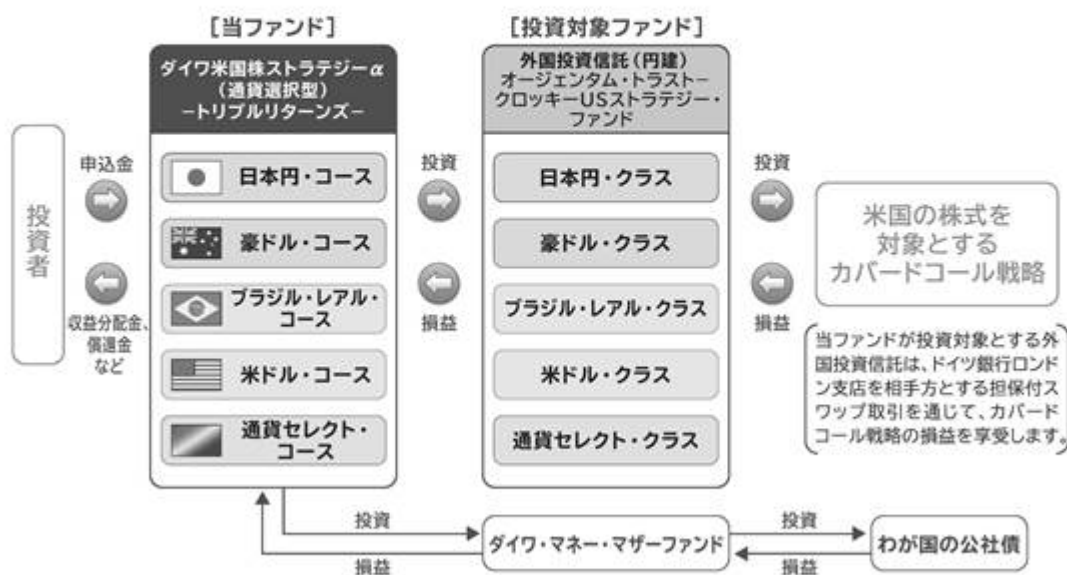
(注)「分配金再投資コース」の場合、収益分配金は自動的に再投資されます。

- 1: 受益権の募集の取扱い、一部解約請求に関する事務、収益分配金、償還金、一部解約金の支払いに関する事務の内容等が規定されています。
- 2: 「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づいて、あらかじめ監督官庁に届け出られた信託約款の内容に基づき締結されます。証券投資信託の運営に関する事項(運用方針、委託会社および受託会社の業務、受益者の権利、信託報酬、信託期間等)が規定されています。
- 3: 販売会社は、各取得申込受付日における取得申込金額の総額に相当する金額を、追加信託が行なわれる日に、委託会社の指定する口座を経由して、受託会社の指定するファンド口座に払込みます。

委託会社および受託会社は、それぞれの業務に対する報酬を信託財産から収受します。また、販売会社には、委託会社から業務に対する代行手数料が支払われます。

ファンドの仕組み

- ◆当ファンドは、複数の投資信託証券に投資する「ファンド・オブ・ファンズ」です。
- ◆外国投資信託の受益証券を通じて、米国の株式とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略を構築するとともに、「米ドル・コース」を除き、米ドル建ての資産に対して為替取引を行いません。
- ◆当ファンドが投資対象とする外国投資信託では、直接株式への投資やオプション取引を行わず、担保付スワップ取引を通じて、米国の株式とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略の損益を享受します。



< 委託会社の概況（2018年3月末日現在） >

・資本金の額 151億7,427万2,500円

・沿革

- 1959年12月12日 設立登記
- 1960年 2月17日 「証券投資信託法」に基づく証券投資信託の委託会社の免許取得
- 1960年 4月 1日 営業開始
- 1985年11月 8日 投資助言・情報提供業務に関する兼業承認を受ける。
- 1995年 5月31日 「有価証券に係る投資顧問業の規制等に関する法律」に基づき投資顧問業の登録を受ける。
- 1995年 9月14日 「有価証券に係る投資顧問業の規制等に関する法律」に基づく投資一任契約にかかる業務の認可を受ける。
- 2007年 9月30日 「金融商品取引法」の施行に伴い、同法第29条の登録を受けたものとみなされる。
(金融商品取引業者登録番号：関東財務局長（金商）第352号)

・大株主の状況

名称	住所	所有 株式数	比率
株式会社大和証券グループ本社	東京都千代田区丸の内一丁目9番1号	株 2,608,525	% 100.00

2 【投資方針】

(1) 【投資方針】

<日本円・コース>

主要投資対象

次の有価証券を主要投資対象とします。

1. ケイマン籍の外国投資信託「オージェンタム・トラスト・クロッキーUSストラテジー・ファンド（日本円・クラス）」（以下「クロッキーUSストラテジー・ファンド（日本円・クラス）」といいます。）の受益証券（円建）
2. ダイワ・マネー・マザーファンドの受益証券

投資態度

- イ．主として、クロッキーUSストラテジー・ファンド（日本円・クラス）の受益証券を通じて、割安と判断される米国の株式とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略を構築するとともに、米ドル建ての資産に対して為替ヘッジを行ない、信託財産の成長をめざします。
- ロ．当ファンドは、クロッキーUSストラテジー・ファンド（日本円・クラス）とダイワ・マネー・マザーファンドに投資するファンド・オブ・ファンズです。通常の状態、クロッキーUSストラテジー・ファンド（日本円・クラス）への投資割合を高位に維持することを基本とします。
- ハ．クロッキーUSストラテジー・ファンド（日本円・クラス）では、米ドル建ての資産に対して米ドル売り／日本円買いの為替ヘッジを行ないません。
- ニ．当初設定日直後、大量の追加設定または解約が発生したとき、市況の急激な変化が予想されるとき、償還の準備に入ったとき等ならびに信託財産の規模によっては、上記の運用が行なわれないことがあります。

<豪ドル・コース>

主要投資対象

次の有価証券を主要投資対象とします。

1. ケイマン籍の外国投資信託「オージェンタム・トラスト・クロッキーUSストラテジー・ファンド（豪ドル・クラス）」（以下「クロッキーUSストラテジー・ファンド（豪ドル・クラス）」といいます。）の受益証券（円建）
2. ダイワ・マネー・マザーファンドの受益証券

投資態度

- イ．主として、クロッキーUSストラテジー・ファンド（豪ドル・クラス）の受益証券を通じて、割安と判断される米国の株式とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略を構築するとともに、米ドル建ての資産に対して為替取引を行ない、信託財産の成長をめざします。
- ロ．当ファンドは、クロッキーUSストラテジー・ファンド（豪ドル・クラス）とダイワ・マネー・マザーファンドに投資するファンド・オブ・ファンズです。通常の状態、クロッキーUSストラテジー・ファンド（豪ドル・クラス）への投資割合を高位に維持することを基本とします。
- ハ．クロッキーUSストラテジー・ファンド（豪ドル・クラス）では、米ドル建ての資産に対して米ドル売り／豪ドル買いの為替取引を行ないません。

二．当初設定日直後、大量の追加設定または解約が発生したとき、市況の急激な変化が予想されるとき、償還の準備に入ったとき等ならびに信託財産の規模によっては、上記の運用が行なわれないことがあります。

<ブラジル・リアル・コース>

主要投資対象

次の有価証券を主要投資対象とします。

- 1．ケイマン籍の外国投資信託「オージェンタム・トラスト・クロッキーUSストラテジー・ファンド（ブラジル・リアル・クラス）」（以下「クロッキーUSストラテジー・ファンド（ブラジル・リアル・クラス）」といいます。）の受益証券（円建）
- 2．ダイワ・マネー・マザーファンドの受益証券

投資態度

- イ．主として、クロッキーUSストラテジー・ファンド（ブラジル・リアル・クラス）の受益証券を通じて、割安と判断される米国の株式とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略を構築するとともに、米ドル建ての資産に対して為替取引を行ない、信託財産の成長をめざします。
- ロ．当ファンドは、クロッキーUSストラテジー・ファンド（ブラジル・リアル・クラス）とダイワ・マネー・マザーファンドに投資するファンド・オブ・ファンズです。通常の状態、クロッキーUSストラテジー・ファンド（ブラジル・リアル・クラス）への投資割合を高位に維持することを基本とします。
- ハ．クロッキーUSストラテジー・ファンド（ブラジル・リアル・クラス）では、米ドル建ての資産に対して米ドル売り／ブラジル・リアル買いの為替取引を行ないません。
- 二．当初設定日直後、大量の追加設定または解約が発生したとき、市況の急激な変化が予想されるとき、償還の準備に入ったとき等ならびに信託財産の規模によっては、上記の運用が行なわれないことがあります。

<米ドル・コース>

主要投資対象

次の有価証券を主要投資対象とします。

- 1．ケイマン籍の外国投資信託「オージェンタム・トラスト・クロッキーUSストラテジー・ファンド（米ドル・クラス）」（以下「クロッキーUSストラテジー・ファンド（米ドル・クラス）」といいます。）の受益証券（円建）
- 2．ダイワ・マネー・マザーファンドの受益証券

投資態度

- イ．主として、クロッキーUSストラテジー・ファンド（米ドル・クラス）の受益証券を通じて、割安と判断される米国の株式とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略を構築し、信託財産の成長をめざします。
- ロ．当ファンドは、クロッキーUSストラテジー・ファンド（米ドル・クラス）とダイワ・マネー・マザーファンドに投資するファンド・オブ・ファンズです。通常の状態、クロッキーUSストラテジー・ファンド（米ドル・クラス）への投資割合を高位に維持することを基本とします。
- ハ．クロッキーUSストラテジー・ファンド（米ドル・クラス）では、為替変動リスクを回避するための為替ヘッジは原則として行ないません。

二．当初設定日直後、大量の追加設定または解約が発生したとき、市況の急激な変化が予想されるとき、償還の準備に入ったとき等ならびに信託財産の規模によっては、上記の運用が行なわれないことがあります。

<通貨セレクト・コース>

主要投資対象

次の有価証券を主要投資対象とします。

1. ケイマン籍の外国投資信託「オージェンタム・トラスト・クロッキーUSストラテジー・ファンド（通貨セレクト・クラス）」（以下「クロッキーUSストラテジー・ファンド（通貨セレクト・クラス）」といいます。）の受益証券（円建）
2. ダイワ・マネー・マザーファンドの受益証券

投資態度

イ．主として、クロッキーUSストラテジー・ファンド（通貨セレクト・クラス）の受益証券を通じて、割安と判断される米国の株式とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略を構築するとともに、米ドル建ての資産に対して為替取引を行ない、信託財産の成長をめざします。

ロ．当ファンドは、クロッキーUSストラテジー・ファンド（通貨セレクト・クラス）とダイワ・マネー・マザーファンドに投資するファンド・オブ・ファンズです。通常の状態、クロッキーUSストラテジー・ファンド（通貨セレクト・クラス）への投資割合を高位に維持することを基本とします。

ハ．クロッキーUSストラテジー・ファンド（通貨セレクト・クラス）では、米ドル建ての資産に対して米ドル売り／選定通貨買いの為替取引を行ないます。

当ファンドにおいて、選定通貨とは、クロッキーUSストラテジー・ファンド（通貨セレクト・クラス）の通貨運用助言会社の助言に基づき決定した複数の通貨をいいます。

二．当初設定日直後、大量の追加設定または解約が発生したとき、市況の急激な変化が予想されるとき、償還の準備に入ったとき等ならびに信託財産の規模によっては、上記の運用が行なわれないことがあります。

<投資先ファンドについて>

投資先ファンドの選定の方針は次のとおりです。

1. 日本円・コース

投資先ファンドの名称	オージェンタム・トラスト・クロッキーUSストラテジー・ファンド（日本円・クラス）
選定の方針	主として、担保付スワップ取引を通じて、割安と判断される米国の株式とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略を構築するとともに、米ドル建ての資産に対して米ドル売り／日本円買いの為替ヘッジを行ない、信託財産の成長をめざして運用を行なうファンドである。

2. 豪ドル・コース

投資先ファンドの名称	オージェンタム・トラスト・クロッキーUSストラテジー・ファンド（豪ドル・クラス）
------------	--

選定の方針	主として、担保付スワップ取引を通じて、割安と判断される米国の株式とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略を構築するとともに、米ドル建ての資産に対して米ドル売り／豪ドル買いの為替取引を行ない、信託財産の成長をめざして運用を行なうファンドである。
-------	---

3. ブラジル・リアル・コース

投資先ファンドの名称	オージェンタム・トラスト・クロッキーUSストラテジー・ファンド（ブラジル・リアル・クラス）
選定の方針	主として、担保付スワップ取引を通じて、割安と判断される米国の株式とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略を構築するとともに、米ドル建ての資産に対して米ドル売り／ブラジル・リアル買いの為替取引を行ない、信託財産の成長をめざして運用を行なうファンドである。

4. 米ドル・コース

投資先ファンドの名称	オージェンタム・トラスト・クロッキーUSストラテジー・ファンド（米ドル・クラス）
選定の方針	主として、担保付スワップ取引を通じて、割安と判断される米国の株式とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略を構築し、信託財産の成長をめざして運用を行なうファンドである。

5. 通貨セレクト・コース

投資先ファンドの名称	オージェンタム・トラスト・クロッキーUSストラテジー・ファンド（通貨セレクト・クラス）
選定の方針	主として、担保付スワップ取引を通じて、割安と判断される米国の株式とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略を構築するとともに、米ドル建ての資産に対して米ドル売り／選定通貨買いの為替取引を行ない、信託財産の成長をめざして運用を行なうファンドである。

くわしくは「1 ファンドの性格 (1) ファンドの目的及び基本的性格 <ファンドの特色>」をご参照下さい。

(2) 【投資対象】

<日本円・コース>

当ファンドにおいて投資の対象とする資産（本邦通貨表示のものに限ります。）の種類は、次に掲げるものとします。

1. 次に掲げる特定資産（投資信託及び投資法人に関する法律施行令第3条に掲げるものをいいます。以下同じ。）

イ．有価証券

ロ．約束手形

ハ．金銭債権のうち、投資信託及び投資法人に関する法律施行規則第22条第1項第6号に掲げるもの

2. 次に掲げる特定資産以外の資産

イ．為替手形

委託会社は、信託金を、主として、大和証券投資信託委託株式会社を委託者とし三井住友信託銀行株式会社を受託者として締結された次の1．に掲げる親投資信託（以下「マザーファンド」といいます。）の受益証券、次の2．に掲げる外国投資信託（以下「組入外国投資信託」といいます。）の受益証券、ならびに次の3．から5．までに掲げる有価証券（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除きます。）に投資することを指図することができます。

1. ダイワ・マネー・マザーファンドの受益証券
2. ケイマン籍の外国投資信託「オージェンタム・トラスト・クロッキーUSストラテジー・ファンド（日本円・クラス）」の受益証券（円建）
3. コマーシャル・ペーパーおよび短期社債等
4. 外国または外国の者の発行する証券または証書で、前3.の証券の性質を有するもの
5. 指定金銭信託の受益証券（金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に限ります。）

なお、前1.に掲げる投資信託の受益証券および前2.に掲げる外国投資信託の受益証券を「投資信託証券」といいます。

委託会社は、信託金を、前 に掲げる有価証券のほか、次に掲げる金融商品（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を含みます。）により運用することを指図することができます。

1. 預金
2. 指定金銭信託（金融商品取引法第2条第1項第14号に規定する受益証券発行信託を除きます。）
3. コール・ローン
4. 手形割引市場において売買される手形

<豪ドル・コース>

（日本円・コースと同規定）

委託会社は、信託金を、主として、大和証券投資信託委託株式会社を委託者とし三井住友信託銀行株式会社を受託者として締結された次の1．に掲げる親投資信託（以下「マザーファンド」といいます。）の受益証券、次の2．に掲げる外国投資信託（以下「組入外国投資信託」といいます。）の受益証券、ならびに次の3．から5．までに掲げる有価証券（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除きます。）に投資することを指図することができます。

1. ダイワ・マネー・マザーファンドの受益証券
2. ケイマン籍の外国投資信託「オージェンタム・トラスト・クロッキーUSストラテジー・ファンド（豪ドル・クラス）」の受益証券（円建）
3. コマーシャル・ペーパーおよび短期社債等
4. 外国または外国の者の発行する証券または証書で、前3.の証券の性質を有するもの
5. 指定金銭信託の受益証券（金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に限ります。）

なお、前1.に掲げる投資信託の受益証券および前2.に掲げる外国投資信託の受益証券を「投資信託証券」といいます。

（日本円・コースと同規定）

<ブラジル・リアル・コース>

（日本円・コースと同規定）

委託会社は、信託金を、主として、大和証券投資信託委託株式会社を委託者とし三井住友信託銀行株式会社を受託者として締結された次の1．に掲げる親投資信託（以下「マザーファンド」といいます。）の受益証券、次の2．に掲げる外国投資信託（以下「組入外国投資信託」といいます。）の受益証券、ならびに次の3．から5．までに掲げる有価証券（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除きます。）に投資することを指図することができます。

1. ダイワ・マネー・マザーファンドの受益証券
2. ケイマン籍の外国投資信託「オージェンタム・トラスト・クロッキーUSストラテジー・ファンド（ブラジル・リアル・クラス）」の受益証券（円建）
3. コマーシャル・ペーパーおよび短期社債等
4. 外国または外国の者の発行する証券または証書で、前3.の証券の性質を有するもの
5. 指定金銭信託の受益証券（金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に限ります。）

なお、前1.に掲げる投資信託の受益証券および前2.に掲げる外国投資信託の受益証券を「投資信託証券」といいます。

（日本円・コースと同規定）

<米ドル・コース>

（日本円・コースと同規定）

委託会社は、信託金を、主として、大和証券投資信託委託株式会社を委託者とし三井住友信託銀行株式会社を受託者として締結された次の1．に掲げる親投資信託（以下「マザーファンド」といいます。）の受益証券、次の2．に掲げる外国投資信託（以下「組入外国投資信託」といいます。）の受益証券、ならびに次の3．から5．までに掲げる有価証券（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除きます。）に投資することを指図することができます。

1. ダイワ・マネー・マザーファンドの受益証券
2. ケイマン籍の外国投資信託「オージェンタム・トラスト・クロッキーUSストラテジー・ファンド（米ドル・クラス）」の受益証券（円建）
3. コマーシャル・ペーパーおよび短期社債等
4. 外国または外国の者の発行する証券または証書で、前3.の証券の性質を有するもの
5. 指定金銭信託の受益証券（金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に限ります。）

なお、前1.に掲げる投資信託の受益証券および前2.に掲げる外国投資信託の受益証券を「投資信託証券」といいます。

（日本円・コースと同規定）

<通貨セレクト・コース>

（日本円・コースと同規定）

委託会社は、信託金を、主として、大和証券投資信託委託株式会社を委託者とし三井住友信託銀行株式会社を受託者として締結された次の1. に掲げる親投資信託（以下「マザーファンド」といいます。）の受益証券、次の2. に掲げる外国投資信託（以下「組入外国投資信託」といいます。）の受益証券、ならびに次の3. から5. までに掲げる有価証券（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除きます。）に投資することを指図することができます。

1. ダイワ・マネー・マザーファンドの受益証券
2. ケイマン籍の外国投資信託「オージェンタム・トラスト・クロッキーUSストラテジー・ファンド（通貨セレクト・クラス）」の受益証券（円建）
3. コマーシャル・ペーパーおよび短期社債等
4. 外国または外国の者の発行する証券または証書で、前3. の証券の性質を有するもの
5. 指定金銭信託の受益証券（金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に限ります。）

なお、前1. に掲げる投資信託の受益証券および前2. に掲げる外国投資信託の受益証券を「投資信託証券」といいます。

（日本円・コースと同規定）

< 投資先ファンドについて >

ファンドの純資産総額の10%を超えて投資する可能性がある投資先ファンドの内容は次のとおりです。

1. 日本円・コース

投資先ファンドの名称	オージェンタム・トラスト・クロッキーUSストラテジー・ファンド（日本円・クラス）
運用の基本方針	主として、担保付スワップ取引を通じて、割安と判断される米国の株式とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略を構築するとともに、米ドル建ての資産に対して米ドル売り / 日本円買いの為替ヘッジを行ない、信託財産の成長をめざして運用を行なう。
主要な投資対象	担保付スワップ取引
委託会社等の名称	管理会社：ムーア・マネジメント（バミューダ）リミテッド

2. 豪ドル・コース

投資先ファンドの名称	オージェンタム・トラスト・クロッキーUSストラテジー・ファンド（豪ドル・クラス）
運用の基本方針	主として、担保付スワップ取引を通じて、割安と判断される米国の株式とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略を構築するとともに、米ドル建ての資産に対して米ドル売り / 豪ドル買いの為替取引を行ない、信託財産の成長をめざして運用を行なう。
主要な投資対象	担保付スワップ取引
委託会社等の名称	管理会社：ムーア・マネジメント（バミューダ）リミテッド

3. ブラジル・リアル・コース

投資先ファンドの名称	オージェンタム・トラスト・クロッキーUSストラテジー・ファンド（ブラジル・リアル・クラス）
------------	---

運用の基本方針	主として、担保付スワップ取引を通じて、割安と判断される米国の株式とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略を構築するとともに、米ドル建ての資産に対して米ドル売り/ブラジル・レアル買いの為替取引を行ない、信託財産の成長をめざして運用を行なう。
主要な投資対象	担保付スワップ取引
委託会社等の名称	管理会社：ムーア・マネジメント（バミューダ）リミテッド

4. 米ドル・コース

投資先ファンドの名称	オージェンタム・トラスト・クロッキーUSストラテジー・ファンド（米ドル・クラス）
運用の基本方針	主として、担保付スワップ取引を通じて、割安と判断される米国の株式とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略を構築し、信託財産の成長をめざして運用を行なう。
主要な投資対象	担保付スワップ取引
委託会社等の名称	管理会社：ムーア・マネジメント（バミューダ）リミテッド

5. 通貨セレクト・コース

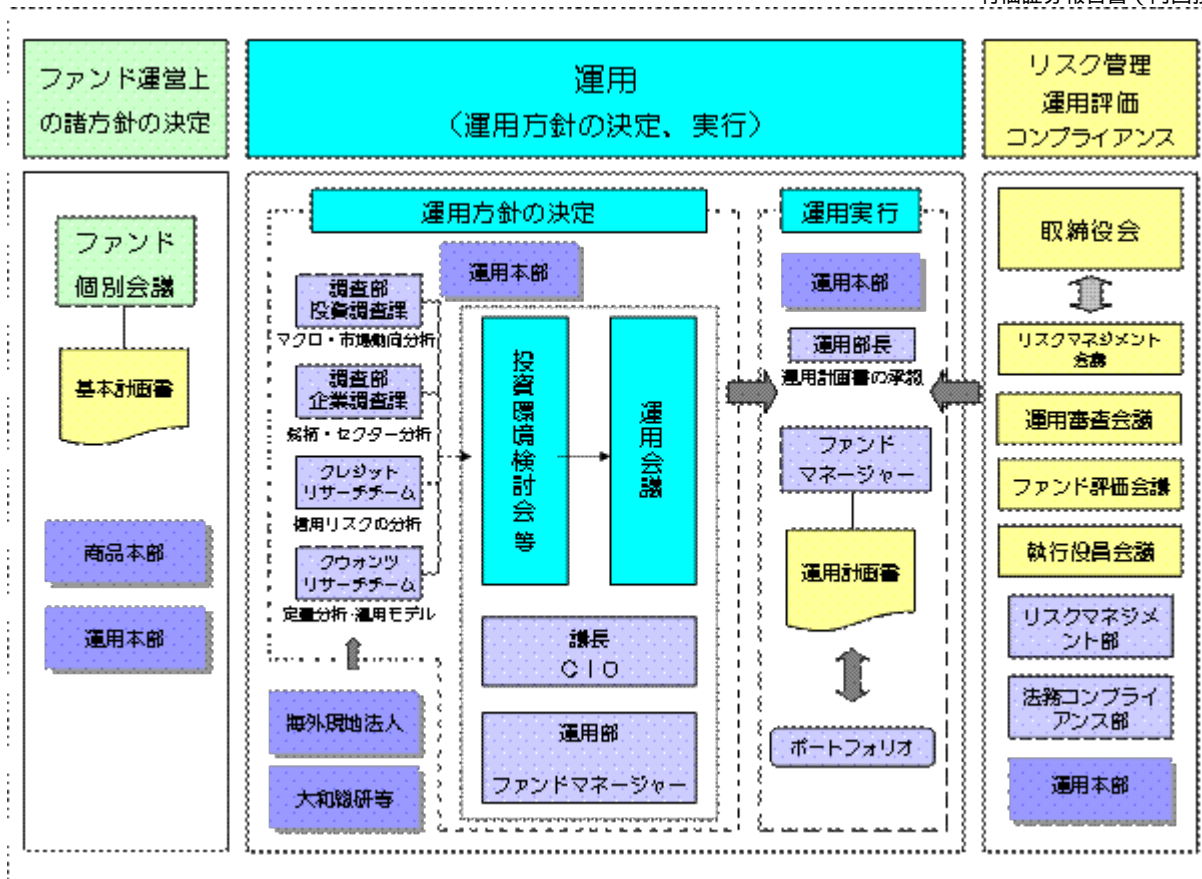
投資先ファンドの名称	オージェンタム・トラスト・クロッキーUSストラテジー・ファンド（通貨セレクト・クラス）
運用の基本方針	主として、担保付スワップ取引を通じて、割安と判断される米国の株式とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略を構築するとともに、米ドル建ての資産に対して米ドル売り/選定通貨買いの為替取引を行ない、信託財産の成長をめざして運用を行なう。
主要な投資対象	担保付スワップ取引
委託会社等の名称	管理会社：ムーア・マネジメント（バミューダ）リミテッド

くわしくは「1 ファンドの性格 (1) ファンドの目的及び基本的性格 <ファンドの特色>」をご参照下さい。

(3) 【運用体制】

運用体制

ファンドの運用体制は、以下のとおりとなっています。



運用方針の決定にかかる過程

運用方針は次の過程を経て決定しております。

イ．基本計画書の策定

ファンド運営上の諸方針を記載した基本計画書を経営会議の分科会であるファンド個別会議において審議・決定します。

ロ．投資環境の検討

運用最高責任者であるCIO（Chief Investment Officer）が議長となり、原則として月1回投資環境検討会を開催し、投資環境について検討します。

ハ．基本的な運用方針の決定

CIOが議長となり、原則として月1回運用会議を開催し、基本的な運用方針を決定します。

ニ．運用計画書の作成・承認

ファンドマネージャーは、基本計画書に定められた各ファンドの諸方針と運用会議で決定された基本的な運用方針にしたがって運用計画書を作成します。運用部長は、ファンドマネージャーから提示を受けた運用計画書について、基本計画書および運用会議の決定事項との整合性等を確認し、承認します。

職務権限

ファンド運用の意思決定機能を担う運用本部において、各職位の主たる職務権限は、社内規則によって、次のように定められています。

イ．CIO（Chief Investment Officer）（1名）

運用最高責任者として、次の職務を遂行します。

- ・ファンド運用に関する組織運営
- ・ファンドマネージャーの任命・変更

- ・運用会議の議長として、基本的な運用方針の決定
- ・各ファンドの分配政策の決定
- ・代表取締役に対する随時的確な状況報告
- ・その他ファンドの運用に関する重要事項の決定

ロ．Deputy-CIO（0～5名程度）

CIOを補佐し、その指揮を受け、職務を遂行します。

ハ．インベストメント・オフィサー（0～5名程度）

CIOおよびDeputy-CIOを補佐し、その指揮を受け、職務を遂行します。

ニ．運用部長（各運用部に1名）

ファンドマネージャーが策定する運用計画を承認します。

ホ．ファンドマネージャー

ファンドの運用計画を策定して、これに沿ってポートフォリオを構築します。

ファンド評価会議、運用審査会議、リスクマネジメント会議および執行役員会議

次のとおり各会議体において必要な報告・審議等を行なっています。これら会議体の事務局となる内部管理関連部門の人員は30～40名程度です。

イ．ファンド評価会議

運用実績・運用リスクの状況について、分析・検討を行ない、運用部にフィードバックします。

ロ．運用審査会議

経営会議の分科会として、ファンドの運用実績の状況についての報告を行ない、必要事項を審議・決定します。

ハ．リスクマネジメント会議

経営会議の分科会として、ファンドの運用リスクの状況・運用リスク管理等の状況についての報告を行ない、必要事項を審議・決定します。

ニ．執行役員会議

経営会議の分科会として、法令等の遵守状況についての報告を行ない、必要事項を審議・決定します。

受託会社に対する管理体制

受託会社に対しては、日々の純資産照合、月次の勘定残高照合などを行なっています。また、受託会社より内部統制の整備および運用状況の報告書を受け取っています。

上記の運用体制は2018年3月末日現在のものであり、変更となる場合があります。

(4) 【分配方針】

<各ファンド共通>

分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等とします。

原則として、継続的な分配を行なうことを目標に、基準価額の水準を勘案して分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないことがあります。また、「通貨セレクト・コース」について、第1計算期末には、収益の分配は行ないません。

留保益は、前(1)に基づいて運用します。

(5) 【投資制限】

<各ファンド共通>

株式（信託約款）

株式への直接投資は、行ないません。

投資信託証券（信託約款）

投資信託証券への投資割合には、制限を設けません。

外貨建資産（信託約款）

外貨建資産への直接投資は、行ないません。

資金の借入れ（信託約款）

イ．委託会社は、信託財産の効率的な運用ならびに運用の安定性に資するため、一部解約に伴う支払資金の手当て（一部解約に伴う支払資金の手当てのために借入れた資金の返済を含みます。）を目的として、または再投資にかかる収益分配金の支払資金の手当てを目的として、資金借入れ（コール市場を通じる場合を含みます。）の指図をすることができます。なお、当該借入金をもって有価証券等の運用は行なわないものとします。

ロ．一部解約に伴う支払資金の手当てにかかる借入期間は、受益者への解約代金支払開始日から、信託財産で保有する有価証券等の売却代金の受渡日までの間、または解約代金の入金日までの間、もしくは償還金の入金日までの期間が5営業日以内である場合の当該期間とし、資金借入額は当該有価証券等の売却代金、解約代金および償還金の合計額を限度とします。ただし、資金借入額は、借入指図を行なう日における信託財産の純資産総額の10%を超えないこととします。

ハ．収益分配金の再投資にかかる借入期間は、信託財産から収益分配金が支弁される日からその翌営業日までとし、資金借入額は収益分配金の再投資額を限度とします。

ニ．借入金の利息は信託財産中から支弁します。

<参考> 投資対象ファンドについて

1. クロッキーUSストラテジー・ファンド（日本円・クラス）、同（豪ドル・クラス）、同（ブラジル・リアル・クラス）、同（米ドル・クラス）、同（通貨セレクト・クラス）

「1 ファンドの性格 (1) ファンドの目的及び基本的性格 <ファンドの特色>」をご参照下さい。

2. ダイワ・マネー・マザーファンド

下記以外の項目（「基本方針」、「投資態度」、「運用管理費用（信託報酬）」等）については、「1 ファンドの性格 (1) ファンドの目的及び基本的性格 <ファンドの特色>」をご参照下さい。

主な投資制限	<p>株式への投資は、転換社債の転換および新株予約権（新株予約権付社債のうち会社法第236条第1項第3号の財産が当該新株予約権付社債についての社債であって当該社債と当該新株予約権がそれぞれ単独で存在し得ないことをあらかじめ明確にしているもの（以下会社法施行前の旧商法第341条ノ3第1項第7号および第8号の定めがある新株予約権付社債を含め「転換社債型新株予約権付社債」といいます。）の新株予約権に限ります。）の行使等により取得したものに限りします。</p> <p>株式への投資割合は、信託財産の純資産総額の30%以下とします。</p> <p>投資信託証券への投資は、行ないません。</p> <p>同一銘柄の株式への投資割合は、取得時において信託財産の純資産総額の10%以下とします。</p> <p>同一銘柄の転換社債および転換社債型新株予約権付社債への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。</p> <p>外貨建資産への投資は、行ないません。</p>
償還条項	<p>信託契約を解約することが受益者のため有利であると認めるときまたはやむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意のうえ、信託契約を解約し、信託を終了させることができます。</p>

3 【投資リスク】

(1) 価額変動リスク

当ファンドは、投資信託証券への投資を通じて、株式とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略を構築しますので、基準価額は大きく変動します。したがって、投資元本が保証されているものではなく、これを割込むことがあります。委託会社の指図に基づく行為により信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。

投資信託は預貯金とは異なります。

投資者のみなさまにおかれましては、当ファンドの内容・リスクを十分ご理解のうえお申込み下さいますよう、よろしくお願い申し上げます。

基準価額の主な変動要因については、次のとおりです。

株式の価格変動（価格変動リスク・信用リスク）

株価は、政治・経済情勢、発行企業の業績、市場の需給等を反映して変動します。株価は、短期的または長期的に大きく下落することがあります（発行企業が経営不安、倒産等に陥った場合には、投資資金が回収できなくなることもあります。）。選定銘柄の株価が下落した場合には、基準価額が下落する要因となり、投資元本を割込むことがあります。

当ファンドは、銘柄数を絞り込んだ運用を行なうため、市場動向にかかわらず基準価額の変動が大きくなる可能性があります。

カバードコール戦略の利用に伴うリスク

オプションプレミアムの水準は、オプション売却時の株価水準、権利行使価格、株価変動率（ボラティリティ）、満期日までの期間、金利水準、配当金額、需給等により決定されます。想定したオプションプレミアムが確保できない場合もあります。

株価水準や株価変動率の変動等によりコール・オプションの評価値が変動し、損失を被る場合があります。

カバードコール戦略では、株価が上昇した場合の値上がり益が限定されるため、株式のみに投資した場合に対して投資成果が劣化する可能性があります。戦略再構築を重ねた場合、株価が下落しその後当初の水準程度まで回復しても、基準価額の回復は株価に比べて緩やかになる可能性があります。

当ファンドでは個別銘柄ごとにカバードコール戦略を構築するため、株価上昇時の値上がり益が個別銘柄ごとに限定される結果、投資成果が株式市場全体の動きに対して劣化する可能性があります。

外国証券への投資に伴うリスク

イ．為替リスク

（日本円・コース）

為替変動リスクの低減を図ります。ただし、為替変動リスクを完全に排除できるものではありません。

為替ヘッジを行なう際、日本円の金利が米ドルの金利より低いときには、金利差相当分がコストとなり、需給要因等によっては、さらにコストが拡大することもあります。

（豪ドル・コース、ブラジル・リアル・コース、通貨セレクト・コース）

〈為替変動のイメージ図〉



※上図はイメージ図であり、当ファンドの運用成果を表すものではありません。

対象通貨の為替レートが円高方向に進んだ場合には、基準価額が下落する要因となり、投資元本を割込むことがあります。新興国通貨の為替レートは短期間に大幅に変動することがあり、先進国通貨と比較して、相対的に高い為替変動リスクがあります。

投資対象資産の通貨である米ドルの為替変動リスクを完全に排除することはできませんので、基準価額は円に対する米ドルの為替変動の影響を受ける場合があります。また、取引対象通貨の金利が米ドルの金利より低いときには、金利差相当分がコストとなり、需給要因等によっては、さらにコストが拡大することもあります。

（米ドル・コース）

組入外貨建資産について、米ドルが円に対して米ドル安の方向に進んだ場合には、基準価額が下落する要因となり、投資元本を割込むことがあります。

各ファンドの投資対象である外国投資信託において、NDF取引を用いて為替取引を行なう場合、コストは需給や規制等の影響により、金利差から期待される水準と大きく異なる場合があります。

ロ．カンントリー・リスク

投資対象国・地域において、政治・経済情勢の変化等により市場に混乱が生じた場合、または取引に対して新たな規制が設けられた場合には、基準価額が予想外に下落したり、方針に沿った運用が困難となることがあります。

スワップ取引の利用に伴うリスク

スワップ取引の相手方に債務不履行や倒産その他の事態が生じた場合、カバードコール戦略の投資成果を享受することができず、ファンドの運用の継続が困難となり、予想外の損失を被る可能性があります。また、スワップ取引の相手方から受入れた担保を想定した価格で処分できない場合があることから損失を被る可能性があります。

当ファンドが投資対象とする外国投資信託は、スワップ取引の相手方が取引する株式やオプションについて何ら権利を有しません。

その他

イ．解約資金を手当てするためカバードコール戦略を解消（株式の売却およびオプションの買戻し）する際、市場規模や市場動向によっては当初期待される価格で解消できないこともあります。この場合、基準価額が下落する要因となります。

ロ．ファンド資産をコール・ローン、譲渡性預金証書等の短期金融資産で運用する場合、債務不履行により損失が発生することがあります（信用リスク）。この場合、基準価額が下落する要因となります。

(2) 換金性等が制限される場合

通常と異なる状況において、お買付け・ご換金に制限を設けることがあります。

金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止その他やむを得ない事情があるときは、お買付け、ご換金の申込みの受け付けを中止することがあります。

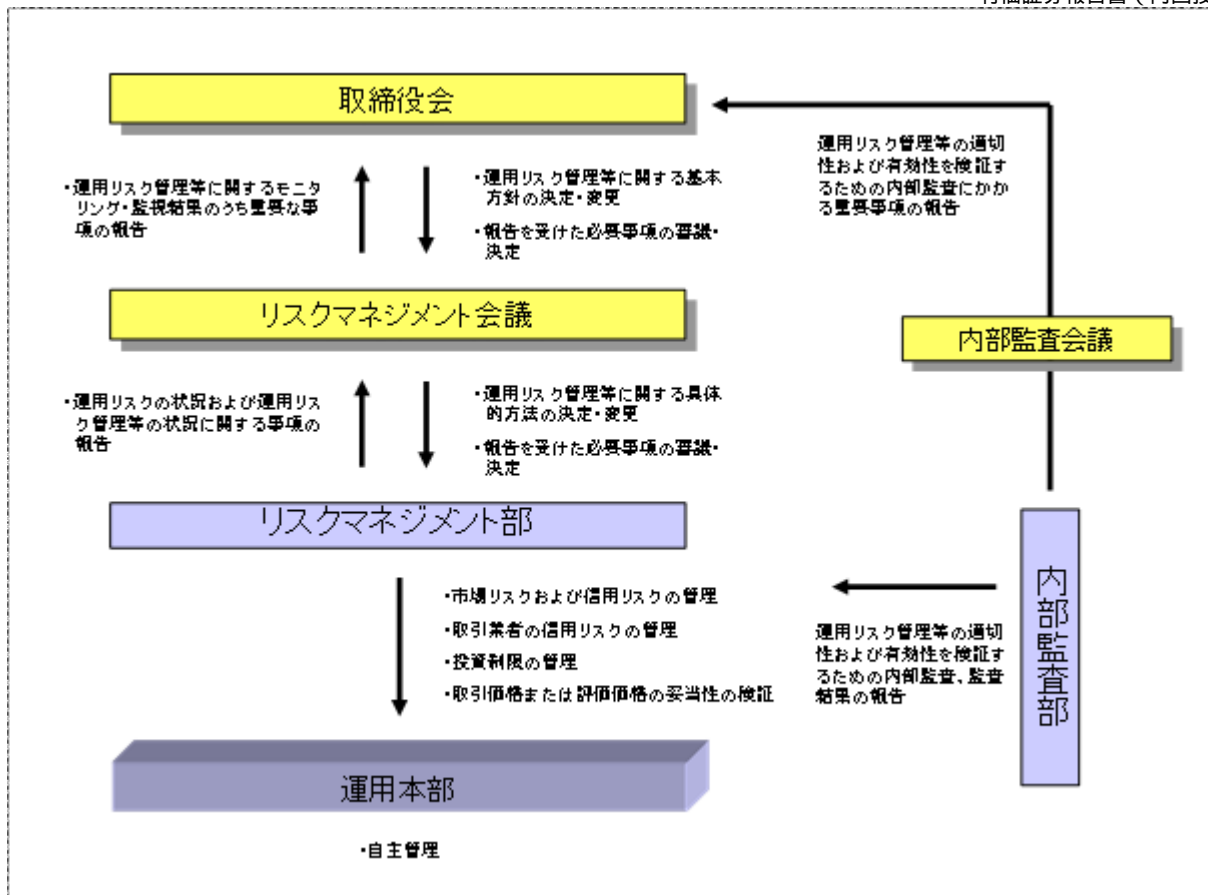
ご換金の申込みの受け付けが中止された場合には、受益者は当該受付中止以前に行なった当日のご換金の申込みを撤回することができます。ただし、受益者がそのご換金の申込みを撤回しない場合には、当該受付中止を解除した後の最初の基準価額の計算日にご換金の申込みを受け付けたものとして取扱います。

(3) その他の留意点

当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。

(4) リスク管理体制

運用リスク管理体制（ ）は、以下のとおりとなっています。



流動性リスクに対する管理体制

当社では、運用リスクのうち、大量の解約・換金によって必要となる資金の確保のために合理的な条件での取引が困難となるリスク、および市場の混乱、取引所における休業、取引の停止等により市場において取引ができないまたは合理的な条件での取引が困難となるリスクを「流動性リスク」とし、当社の運用する信託財産における流動性リスクの防止および流動性リスク発生時における円滑な事務遂行を目的とした事前対策、ならびに流動性リスク発生時における対応策（コンティンジェンシー・プラン）を定めています。

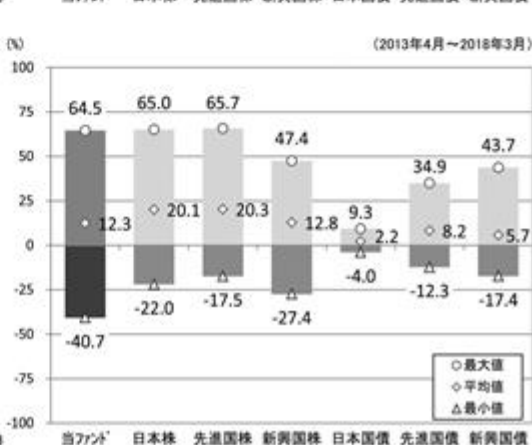
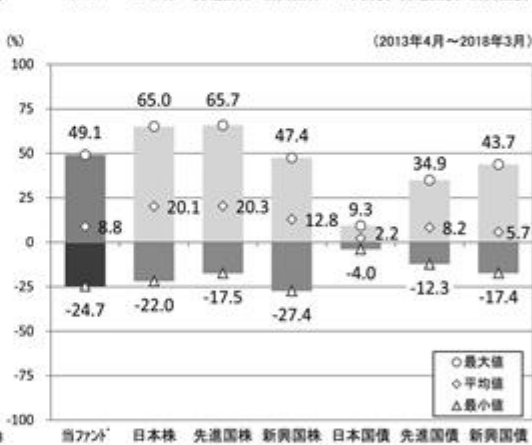
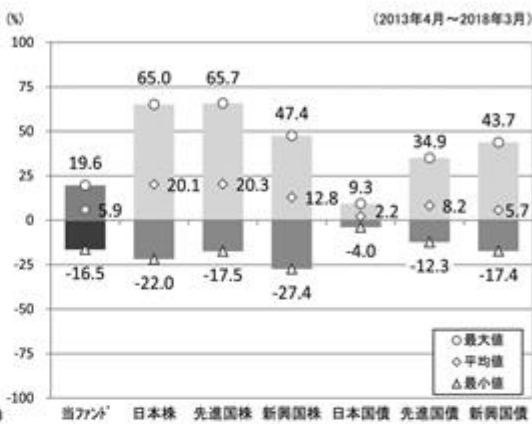
■ 参考情報

- 下記のグラフは、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。
右のグラフは過去5年間に於ける年間騰落率(各月末における直近1年間の騰落率)の平均・最大・最小を、ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示しています。また左のグラフはファンドの過去5年間に於ける年間騰落率の推移を表示しています。

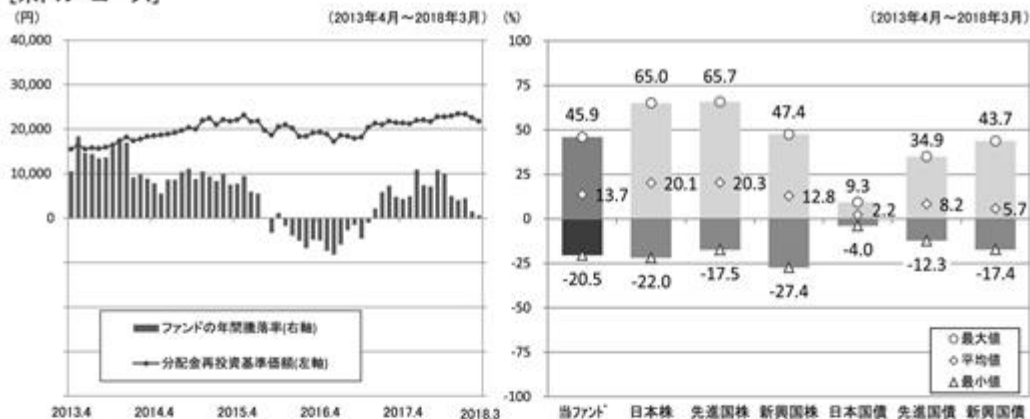
ファンドの年間騰落率と分配金再投資基準価額の推移



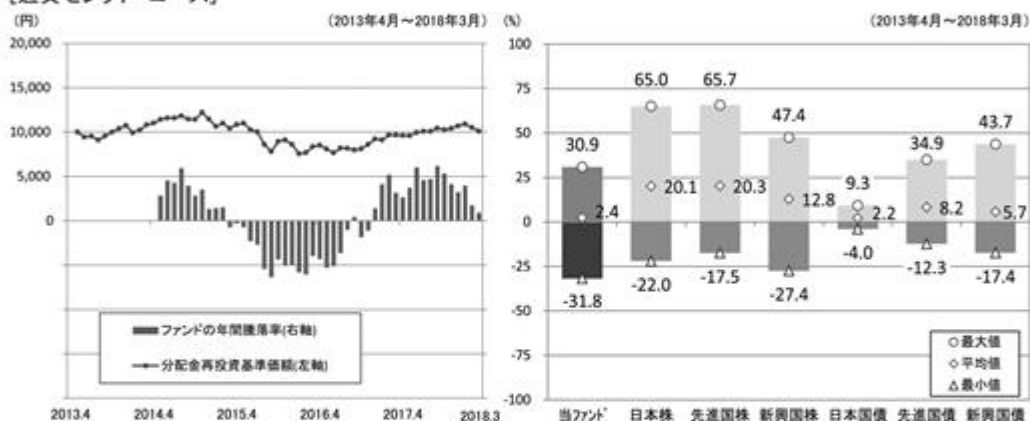
他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較



【米ドル・コース】



【通貨セレクト・コース】



※各資産クラスは、ファンドの投資対象を表しているものではありません。

※ファンドの年間騰落率は、分配金（税引前）を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

※ファンドの年間騰落率において、過去5年間分のデータが算出できない場合は以下のルールで表示しています。

- ①年間騰落率に該当するデータがない場合には表示されません。
- ②年間騰落率が算出できない期間がある場合には、算出可能な期間についてのみ表示しています。
- ③インデックスファンドにおいて、①②に該当する場合には、当該期間についてベンチマークの年間騰落率で代替して表示します。

※資産クラスについて

日本株：東証株価指数（TOPIX）（配当込み）
 先進国株：MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）
 新興国株：MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）
 日本国債：NOMURA-BPI国債
 先進国債：FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）
 新興国債：JPモルガン ガバメント・ボンド・インデックスー エマージング・マーケットズ グローバル ダイバーシファイド（円ベース）

※指数について

●TOPIXは東証が算出・公表し、指数値、商標など一切の権利は株式会社東京証券取引所が所有しています。●MSCIコクサイ・インデックスおよびMSCIエマージング・マーケット・インデックスは、MSCI Inc.が開発した指数です。同指数に対する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。またMSCI Inc.は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。●NOMURA-BPI国債は、野村證券株式会社が公表する国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表す投資収益指数で、一定の組み入れ基準に基づいて構成された国債ポートフォリオのパフォーマンスをもとに算出されます。NOMURA-BPI国債の知的財産権とその他一切の権利は野村證券株式会社に帰属しています。また、同社は当該指数の正確性、完全性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。●FTSE世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。●JPモルガン ガバメント・ボンド・インデックスー エマージング・マーケットズ グローバル ダイバーシファイドは、信頼性が高いとみなす情報に基づき作成していますが、J.P. Morganはその完全性・正確性を保証するものではありません。本指数は許諾を受けて使用しています。J.P. Morganからの書面による事前承認なしに本指数を複製・使用・頒布することは認められていません。Copyright 2016. J.P. Morgan Chase & Co. All rights reserved.

4 【手数料等及び税金】

(1) 【申込手数料】

販売会社におけるお買付時の申込手数料の料率の上限は、3.24%（税抜3.0%）となっています。具体的な手数料の料率等については、販売会社または委託会社にお問合わせ下さい。

- ・お電話によるお問合わせ先（委託会社）

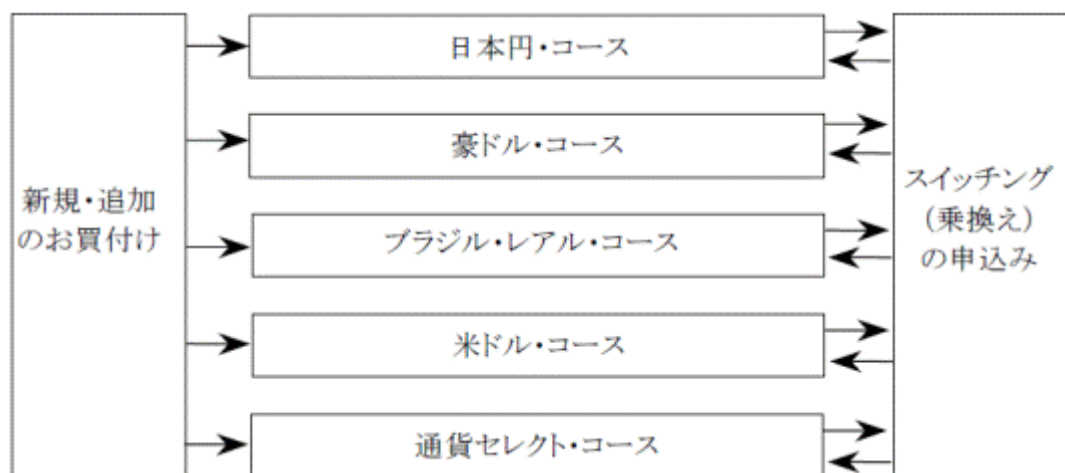
電話番号（コールセンター） 0120-106212

（営業日の9:00～17:00）

<スイッチング（乗換え）について>

- ・「ダイワ米国株ストラテジー（通貨選択型）-トリプルリターンズ-」を構成する各ファンドの受益者が、保有する受益権を換金した手取金をもって、他の構成ファンドの受益権の取得申込みを行なうことをいいます。
- ・スイッチング（乗換え）の申込みの際には、換金の申込みを行なうファンドと、取得の申込みを行なうファンドをご指示下さい。
- ・スイッチング（乗換え）にかかる申込手数料および当該申込手数料にかかる消費税等に相当する金額は、スイッチング（乗換え）の金額から差引かせていただきます。

（「ダイワ米国株ストラテジー（通貨選択型）-トリプルリターンズ-」の構成）



申込手数料には、消費税等が課されます。

「分配金再投資コース」の収益分配金の再投資の際には、申込手数料はかかりません。

申込手数料は、お買付時の商品説明または商品情報の提供、投資情報の提供、取引執行等の対価です。くわしくは販売会社にお問合わせ下さい。

(2) 【換金(解約)手数料】

換金手数料

ありません。

信託財産留保額

信託終了前の解約の際に1万口当たり一部解約の実行の請求受付日の翌営業日の基準価額の0.5%を信託財産留保額としてご負担いただきます。

(3) 【信託報酬等】

信託報酬の総額は、計算期間を通じて毎日、信託財産の純資産総額に年率1.323%（税抜1.225%）を乗じて得た額とします。信託報酬は、毎計算期末または信託終了のときに信託財産中から支弁します。

信託報酬にかかる消費税等に相当する金額を、信託報酬支弁のときに信託財産中から支弁します。

信託報酬にかかる委託会社、販売会社、受託会社への配分については、純資産総額に対し次のとおりです。

委託会社	販売会社	受託会社
年率0.40% （税抜）	年率0.80% （税抜）	年率0.025% （税抜）

上記の信託報酬の配分には、別途消費税率を乗じた額がかかります。

前 の販売会社への配分は、販売会社の行なう業務に対する代行手数料であり、委託会社が一旦信託財産から収受した後、販売会社に支払われます。

当ファンドの信託報酬等のほかに、投資対象ファンドに関しても信託報酬等がかかります。当ファンドの信託報酬に投資対象ファンドの信託報酬等（クロッキーの指数計算報酬を含みます。）を加えた、投資者が実質的に負担する信託報酬率は、「通貨セレクト・コース」以外については年率2.003%（税込）程度、「通貨セレクト・コース」については年率2.153%（税込）程度です。

ただし、投資対象ファンドの信託報酬等に下限金額が設定されているため、純資産総額によって、実質的な信託報酬率が「通貨セレクト・コース」以外については年率2.003%（税込）、「通貨セレクト・コース」については年率2.153%（税込）を上回ることがあります。

（注）投資対象ファンドの信託報酬等については、「1 ファンドの性格（1）ファンドの目的及び基本的性格 <ファンドの特色>」の「投資対象ファンドの概要」をご参照下さい。

信託報酬を対価とする役務の内容は、配分先に応じて、それぞれ以下のとおりです。

委託会社：ファンドの運用と調査、受託会社への運用指図、基準価額の計算、目論見書・運用報告書の作成等の対価

販売会社：運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価

受託会社：運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価

(4) 【その他の手数料等】

信託財産において資金借入れを行なった場合、当該借入金の利息は信託財産中より支弁します。

信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、受託会社の立替えた立替金の利息および信託財産にかかる監査報酬ならびに当該監査報酬にかかる消費税等に相当する金額は、受益者の負担とし、信託財産中から支弁します。

信託財産に属する有価証券等に関連して発生した訴訟係争物たる権利その他の権利に基づいて益金が生じた場合、当該支払いに際して特別に必要となる費用（データ処理費用、郵送料等）は、受益者の負担とし、当該益金から支弁します。

信託財産で有価証券の売買を行なう際に発生する売買委託手数料、当該売買委託手数料にかかる消費税等に相当する金額、信託財産に属する資産を外国で保管する場合の費用は、信託財産中より支弁します。

（ ）「その他の手数料等」については、運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。

手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

< 投資対象ファンドより支弁する手数料等 >

各ファンドの投資対象等に応じて、信託財産に関する租税、有価証券売買時の売買委託手数料、先物取引・オプション取引等に要する費用、資産を外国で保管する場合の費用等を支弁します。その他、マザーファンドを除く投資対象ファンドからは監査報酬を支弁します。

(5) 【課税上の取扱い】

課税上は株式投資信託として取扱われます。

個人の投資者に対する課税

イ．収益分配金に対する課税

収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金については、配当所得として課税され、20%（所得税15%および地方税5%）の税率による源泉徴収が行なわれ、申告不要制度が適用されます。なお、確定申告を行ない、申告分離課税または総合課税（配当控除の適用はありません。）を選択することもできます。ただし、2037年12月31日まで基準所得税額に2.1%の税率を乗じた復興特別所得税が課され、税率は20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%および地方税5%）となります。

ロ．解約金および償還金に対する課税

一部解約時および償還時の差益（解約価額および償還価額から取得費用（申込手数料（税込）を含む）を控除した利益）については、譲渡所得とみなされ、20%（所得税15%および地方税5%）の税率により、申告分離課税が適用されます。ただし、2037年12月31日まで基準所得税額に2.1%の税率を乗じた復興特別所得税が課され、税率は20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%および地方税5%）となります。

ハ．損益通算について

一部解約時および償還時の損失については、確定申告により、上場株式等（特定公社債、公募公社債投資信託を含みます。）の譲渡益および償還差益と相殺することができ、申告分離課税を選択した上場株式等の配当所得および利子所得との損益通算も可能となります。また、翌年以後3年間、上場株式等の譲渡益・償還差益および配当等・利子から繰越控除することができます。一部解約時および償還時の差益については、他の上場株式等の譲渡損および償還差損との相殺が可能となります。

なお、特定口座にかかる課税上の取扱いにつきましては、販売会社にお問合わせ下さい。

少額投資非課税制度「愛称：N I S A（ニーサ）」をご利用の場合

公募株式投資信託は、税法上、少額投資非課税制度「N I S A（ニーサ）」の適用対象です。満20歳以上の方を対象としたN I S Aをご利用の場合、毎年、年間120万円の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得および譲渡所得が5年間非課税となります（他の口座で生じた配当所得や譲渡所得との損益通算はできません。）。また、20歳未満の方を対象とした非課税制度「ジュニアN I S A」をご利用の場合、毎年、年間80万円の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得および譲渡所得が5年間非課税となります（他の口座で生じた配当所得や譲渡所得との損益通算はできません。）。

ご利用になれるのは、販売会社で非課税口座を開設するなど、一定の条件に該当する方となります。当ファンドの非課税口座における取扱いは販売会社により異なる場合があります。くわしくは、販売会社にお問合わせ下さい。

法人の投資者に対する課税

法人の投資者が支払いを受ける収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金ならびに一部解約時および償還時の個別元本超過額については配当所得として課税され、15%（所得税15%）の税率で源泉徴収され法人の受取額となります。地方税の源泉徴収はありません。収益分配金のうち所得税法上課税対象となるのは普通分配金のみであり、元本払戻金（特別分配金）には課税されません。ただし、2037年12月31日まで基準所得税額に2.1%の税率を乗じた復興特別所得税が課され、税率は15.315%（所得税15%および復興特別所得税0.315%）となります。なお、益金不算入制度の適用はありません。

源泉徴収された税金は法人税額から控除されます。

<注1> 個別元本について

投資者ごとの信託時の受益権の価額等（申込手数料および当該申込手数料にかかる消費税等に相当する金額は含まれません。）が当該投資者の元本（個別元本）にあたります。

投資者が同一ファンドの受益権を複数回取得した場合、個別元本は、当該投資者が追加信託を行なうつど当該投資者の受益権口数で加重平均することにより算出されます。

ただし、個別元本は、複数支店で同一ファンドをお申込みの場合などにより把握方法が異なる場合がありますので、販売会社にお問合わせ下さい。

投資者が元本払戻金（特別分配金）を受取った場合、収益分配金発生時にその個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の当該投資者の個別元本となります。

<注2> 収益分配金の課税について

追加型株式投資信託の収益分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金（特別分配金）」（投資者ごとの元本の一部払戻しに相当する部分）の区分があります。

投資者が収益分配金を受取る際、イ．当該収益分配金落ち後の基準価額が当該投資者の個別元本と同額の場合または当該投資者の個別元本を上回っている場合には、当該収益分配金の全額が普通分配金となり、ロ．当該収益分配金落ち後の基準価額が当該投資者の個別元本を下回っている場合には、その下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）となり、当該収益分配金から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が普通分配金となります。

（ ）上記は、2018年3月末現在のものですので、税法が改正された場合等には、上記の内容が変更になることがあります。

（ ）課税上の取扱いの詳細につきましては、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

5 【運用状況】

【ダイワ米国株ストラテジー（通貨選択型） - トリプルリターンズ - 日本円・コース（毎月分配型）】

(1) 【投資状況】（平成30年3月30日現在）

投資状況

投資資産の種類	時価(円)	投資比率(%)
投資信託受益証券	728,210,578	98.76
内 ケイマン諸島	728,210,578	98.76
親投資信託受益証券	135,226	0.02
内 日本	135,226	0.02
コール・ローン、その他の資産(負債控除後)	8,971,223	1.22
純資産総額	737,317,027	100.00

(注1) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

(注2) 投資資産の内書きの時価および投資比率は、当該資産の地域別の内訳です。

(2) 【投資資産】（平成30年3月30日現在）

【投資有価証券の主要銘柄】

イ．主要銘柄の明細

	銘柄名	地域	種類	株数、口数	簿価単価 簿価 (円)	評価単価 時価 (円)	投資 比率 (%)
				また は 額面金額			
1	CROCI US STRATEGY FUND JPY CLASS	ケイマン諸島	投資信託受益証券	8,381,508.21	89.64 751,357,295	86.88 728,210,578	98.76
2	ダイワ・マネー・マザーファンド	日本	親投資信託受益証券	132,757	1.0187 135,239	1.0186 135,226	0.02

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の時価の比率です。

ロ．投資有価証券の種類別投資比率

投資有価証券の種類	投資比率
投資信託受益証券	98.76%
親投資信託受益証券	0.02%
合計	98.78%

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該有価証券の時価の比率です。

八．投資株式の業種別投資比率

該当事項はありません。

【投資不動産物件】

該当事項はありません。

【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

(3) 【運用実績】

【純資産の推移】

	純資産総額 (分配落) (円)	純資産総額 (分配付) (円)	1口当たりの 純資産額 (分配落)(円)	1口当たりの 純資産額 (分配付)(円)
第1特定期間末 (平成24年3月7日)	163,005,053	164,333,943	1.1040	1.1130
第2特定期間末 (平成24年9月7日)	857,255,925	864,533,321	1.0602	1.0692
第3特定期間末 (平成25年3月7日)	5,514,978,175	5,562,380,326	1.0471	1.0561
第4特定期間末 (平成25年9月9日)	4,752,419,242	4,794,344,585	1.0202	1.0292
第5特定期間末 (平成26年3月7日)	3,629,599,819	3,660,515,673	1.0566	1.0656
第6特定期間末 (平成26年9月8日)	3,046,737,648	3,071,910,405	1.0893	1.0983
第7特定期間末 (平成27年3月9日)	2,408,738,710	2,430,887,623	0.9788	0.9878
第8特定期間末 (平成27年9月7日)	1,852,603,524	1,873,086,173	0.8140	0.8230
第9特定期間末 (平成28年3月7日)	1,849,564,494	1,870,784,978	0.7844	0.7934
第10特定期間末 (平成28年9月7日)	1,502,791,975	1,519,912,371	0.7900	0.7990
第11特定期間末 (平成29年3月7日)	1,187,499,522	1,201,042,433	0.7892	0.7982
平成29年3月末日	1,103,173,807	-	0.7852	-

4月末日	1,038,213,661	-	0.7745	-
5月末日	972,257,559	-	0.7598	-
6月末日	967,547,507	-	0.7649	-
7月末日	960,522,876	-	0.7699	-
8月末日	903,719,866	-	0.7524	-
第12特定期間末 (平成29年9月7日)	898,587,279	909,397,511	0.7481	0.7571
9月末日	878,110,522	-	0.7623	-
10月末日	814,550,265	-	0.7492	-
11月末日	837,785,254	-	0.7523	-
12月末日	839,799,902	-	0.7503	-
平成30年1月末日	842,684,890	-	0.7637	-
2月末日	791,703,942	-	0.7384	-
第13特定期間末 (平成30年3月7日)	784,049,330	790,485,230	0.7309	0.7369
3月末日	737,317,027	-	0.7134	-

【分配の推移】

	1口当たり分配金(円)
第1特定期間	0.0390
第2特定期間	0.0540
第3特定期間	0.0540
第4特定期間	0.0540
第5特定期間	0.0540
第6特定期間	0.0540
第7特定期間	0.0540
第8特定期間	0.0540
第9特定期間	0.0540
第10特定期間	0.0540
第11特定期間	0.0540
第12特定期間	0.0540
第13特定期間	0.0480

【収益率の推移】

	収益率(%)
第1特定期間	14.3
第2特定期間	0.9

第3特定期間	3.9
第4特定期間	2.6
第5特定期間	8.9
第6特定期間	8.2
第7特定期間	5.2
第8特定期間	11.3
第9特定期間	3.0
第10特定期間	7.6
第11特定期間	6.7
第12特定期間	1.6
第13特定期間	4.1

(4) 【設定及び解約の実績】

	設定数量(口)	解約数量(口)
第1特定期間	134,047,602	121,791,714
第2特定期間	771,128,016	110,182,969
第3特定期間	6,240,858,939	1,782,552,809
第4特定期間	1,981,117,366	2,589,651,544
第5特定期間	1,156,924,579	2,380,201,190
第6特定期間	443,502,778	1,081,624,676
第7特定期間	582,052,190	918,034,832
第8特定期間	390,246,307	575,386,710
第9特定期間	701,930,918	619,949,253
第10特定期間	230,595,055	686,160,354
第11特定期間	214,573,001	612,071,383
第12特定期間	73,640,669	377,271,639
第13特定期間	169,957,573	298,444,428

(注) 当初設定数量は135,398,633口です。

(参考) マザーファンド

ダイワ・マネー・マザーファンド

(1) 投資状況（平成30年3月30日現在）

投資状況

投資資産の種類	時価(円)	投資比率(%)
コール・ローン、その他の資産(負債控除後)	69,322,588,964	100.00
純資産総額	69,322,588,964	100.00

(注1) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

(注2) 投資資産の内書きの時価および投資比率は、当該資産の地域別の内訳です。

(2) 投資資産（平成30年3月30日現在）

投資有価証券の主要銘柄

イ．主要銘柄の明細

該当事項はありません。

ロ．投資有価証券の種類別投資比率

該当事項はありません。

ハ．投資株式の業種別投資比率

該当事項はありません。

投資不動産物件

該当事項はありません。

その他投資資産の主要なもの

該当事項はありません。

(参考情報) 運用実績

●ダイワ米国株ストラテジーα（通貨選択型）－トリプルリターンズ－日本円・コース（毎月分配型）

2018年3月30日現在

※過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

基準価額・純資産の推移

基準価額	7,134円
純資産総額	7.3億円



基準価額の騰落率	
期間	ファンド
1カ月間	-2.6%
3カ月間	-2.2%
6カ月間	-0.2%
1年間	4.0%
3年間	8.4%
5年間	23.2%
設定来	49.9%

※上記の「基準価額の騰落率」は、「分配金再投資基準価額」の騰落率です。

※「分配金再投資基準価額」は、分配金(税引前)を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。※基準価額の計算において実質的な運用管理費用(信託報酬)は控除しています。

分配の推移（10,000口当たり、税引前）

直近1年間分配金合計額： 1,020円 設定来分配金合計額： 6,810円

決算期	第66期	第67期	第68期	第69期	第70期	第71期	第72期	第73期	第74期	第75期	第76期	第77期
	17年4月	17年5月	17年6月	17年7月	17年8月	17年9月	17年10月	17年11月	17年12月	18年1月	18年2月	18年3月
分配金	90円	90円	90円	90円	90円	90円	90円	90円	90円	90円	60円	60円

※分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

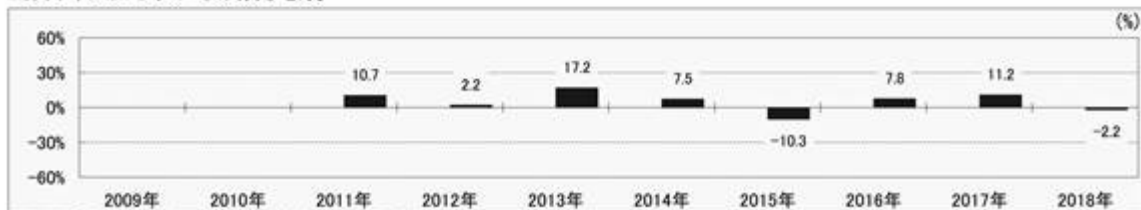
主要な資産の状況

※比率は、純資産総額に対するものです。

組入上位10ファンド		
運用会社名	ファンド名	比率
ムーア・マネジメント(バミューダ)リミテッド	クロッキーUSストラテジー・ファンド(日本円・クラス)	98.8%
大和証券投資信託委託	ダイワ・マネー・マザーファンド	0.0%
合計		98.8%

年間収益率の推移

当ファンドにはベンチマークはありません。



・ファンドの「年間収益率」は、「分配金再投資基準価額」の騰落率です。

・2011年は設定日(9月22日)から年末、2018年は3月30日までの騰落率を表しています。

最新の運用実績は、委託会社のホームページ、または販売会社でご確認いただけます。

【ダイワ米国株ストラテジー（通貨選択型）－トリプルリターンズ－豪ドル・コース（毎月分配型）】

(1) 【投資状況】（平成30年3月30日現在）

投資状況

投資資産の種類	時価(円)	投資比率(%)
投資信託受益証券	3,272,550,113	99.02
内 ケイマン諸島	3,272,550,113	99.02
親投資信託受益証券	655,094	0.02
内 日本	655,094	0.02
コール・ローン、その他の資産(負債控除後)	31,591,085	0.96
純資産総額	3,304,796,292	100.00

(注1) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

(注2) 投資資産の内書きの時価および投資比率は、当該資産の地域別の内訳です。

(2) 【投資資産】（平成30年3月30日現在）

【投資有価証券の主要銘柄】

イ．主要銘柄の明細

	銘柄名	地域	種類	株数、口数	簿価単価 簿価 (円)	評価単価 時価 (円)	投資 比率 (%)
				また は 額面金額			
1	CROCI US STRATEGY FUND AUD CLASS	ケイマン 諸島	投資信 託受益 証券	36,007,197.07	95.48 3,438,192,340	90.88 3,272,550,113	99.02
2	ダイワ・マネー・マザーファンド	日本	親投資 信託受 益証券	643,132	1.0187 655,158	1.0186 655,094	0.02

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の時価の比率です。

ロ．投資有価証券の種類別投資比率

投資有価証券の種類	投資比率
投資信託受益証券	99.02%
親投資信託受益証券	0.02%
合計	99.04%

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該有価証券の時価の比率です。

ハ．投資株式の業種別投資比率

該当事項はありません。

【投資不動産物件】

該当事項はありません。

【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

(3) 【運用実績】

【純資産の推移】

	純資産総額 (分配落) (円)	純資産総額 (分配付) (円)	1口当たりの 純資産額 (分配落)(円)	1口当たりの 純資産額 (分配付)(円)
第1特定期間末 (平成24年3月7日)	363,698,810	368,086,736	1.2433	1.2583
第2特定期間末 (平成24年9月7日)	3,507,381,053	3,553,517,284	1.1403	1.1553
第3特定期間末 (平成25年3月7日)	14,419,200,598	14,639,672,929	1.3080	1.3280
第4特定期間末 (平成25年9月9日)	13,784,607,204	14,021,628,317	1.1632	1.1832
第5特定期間末 (平成26年3月7日)	15,042,001,087	15,295,561,845	1.1865	1.2065
第6特定期間末 (平成26年9月8日)	16,877,443,658	17,150,666,295	1.2354	1.2554
第7特定期間末 (平成27年3月9日)	14,587,254,944	14,873,404,432	1.0196	1.0396
第8特定期間末 (平成27年9月7日)	9,910,182,189	10,193,323,913	0.7000	0.7200
第9特定期間末 (平成28年3月7日)	8,632,836,859	8,832,147,071	0.6497	0.6647
第10特定期間末 (平成28年9月7日)	6,046,893,088	6,150,836,269	0.5817	0.5917
第11特定期間末 (平成29年3月7日)	5,569,292,168	5,658,246,418	0.6261	0.6361
平成29年3月末日	5,375,285,711	-	0.6169	-
4月末日	5,034,245,090	-	0.5877	-
5月末日	4,825,156,415	-	0.5734	-
6月末日	4,957,312,402	-	0.5990	-
7月末日	4,935,200,243	-	0.6156	-
8月末日	4,633,749,131	-	0.5895	-

第12特定期間末 (平成29年9月7日)	4,457,860,280	4,534,469,126	0.5819	0.5919
9月末日	4,581,697,748	-	0.6029	-
10月末日	4,130,681,342	-	0.5803	-
11月末日	3,995,283,204	-	0.5674	-
12月末日	4,081,351,741	-	0.5852	-
平成30年1月末日	4,073,193,459	-	0.5935	-
2月末日	3,633,345,537	-	0.5465	-
第13特定期間末 (平成30年3月7日)	3,511,724,207	3,557,938,131	0.5319	0.5389
3月末日	3,304,796,292	-	0.5105	-

【分配の推移】

	1口当たり分配金(円)
第1特定期間	0.0590
第2特定期間	0.0900
第3特定期間	0.1000
第4特定期間	0.1200
第5特定期間	0.1200
第6特定期間	0.1200
第7特定期間	0.1200
第8特定期間	0.1200
第9特定期間	0.0900
第10特定期間	0.0700
第11特定期間	0.0600
第12特定期間	0.0600
第13特定期間	0.0540

【収益率の推移】

	収益率(%)
第1特定期間	30.2
第2特定期間	1.0
第3特定期間	23.5
第4特定期間	1.9
第5特定期間	12.3
第6特定期間	14.2
第7特定期間	7.8

第8特定期間	19.6
第9特定期間	5.7
第10特定期間	0.3
第11特定期間	17.9
第12特定期間	2.5
第13特定期間	0.7

(4) 【設定及び解約の実績】

	設定数量(口)	解約数量(口)
第1特定期間	371,949,463	733,695,488
第2特定期間	2,986,397,596	203,177,266
第3特定期間	11,873,406,417	3,925,538,603
第4特定期間	5,229,720,859	4,402,281,785
第5特定期間	2,913,357,693	2,086,375,408
第6特定期間	3,366,070,677	2,382,976,745
第7特定期間	2,927,843,659	2,281,501,101
第8特定期間	3,058,342,395	3,208,730,611
第9特定期間	1,330,181,964	2,199,920,653
第10特定期間	461,840,735	3,354,870,112
第11特定期間	601,889,661	2,100,782,802
第12特定期間	364,344,818	1,598,885,222
第13特定期間	328,414,527	1,387,309,967

(注) 当初設定数量は654,274,459口です。

(参考) マザーファンド

ダイワ・マネー・マザーファンド

前記「ダイワ米国株ストラテジー（通貨選択型） - トリプルリターンズ - 日本円・コース（毎月分配型）」の記載と同じ。

（参考情報）運用実績

●ダイワ米国株ストラテジーα（通貨選択型）－トリプルリターンズ－豪ドル・コース（毎月分配型）

2018年3月30日現在

※過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

基準価額・純資産の推移

基準価額	5,105円
純資産総額	33億円



基準価額の騰落率	
期間	ファンド
1カ月間	-5.4%
3カ月間	-9.0%
6カ月間	-6.9%
1年間	0.7%
3年間	0.3%
5年間	10.9%
設定来	84.8%

※上記の「基準価額の騰落率」は、「分配金再投資基準価額」の騰落率です。

※「分配金再投資基準価額」は、分配金(税引前)を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。※基準価額の計算において実質的な運用管理費用(信託報酬)は控除しています。

分配の推移（10,000口当たり、税引前）

直近1年間分配金合計額： 1,140円 設定来分配金合計額： 11,830円

決算期	第66期	第67期	第68期	第69期	第70期	第71期	第72期	第73期	第74期	第75期	第76期	第77期
	17年4月	17年5月	17年6月	17年7月	17年8月	17年9月	17年10月	17年11月	17年12月	18年1月	18年2月	18年3月
分配金	100円	100円	100円	100円	100円	100円	100円	100円	100円	100円	70円	70円

※分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額を分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

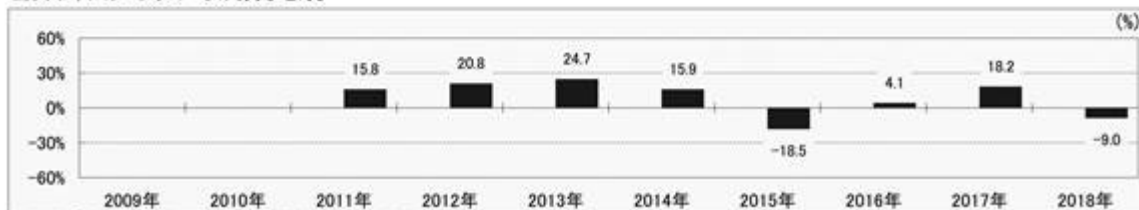
主要な資産の状況

※比率は、純資産総額に対するものです。

組入上位10ファンド		
運用会社名	ファンド名	比率
ムーア・マネジメント(バミューダ)リミテッド	クロッキーUSストラテジー・ファンド(豪ドル・クラス)	99.0%
大和証券投資信託委託	ダイワ・マネー・マザーファンド	0.0%
合計		99.0%

年間収益率の推移

当ファンドにはベンチマークはありません。



・ファンドの「年間収益率」は、「分配金再投資基準価額」の騰落率です。
・2011年は設定日(9月22日)から年末、2018年は3月30日までの騰落率を表しています。

最新の運用実績は、委託会社のホームページ、または販売会社でご確認いただけます。

【ダイワ米国株ストラテジー（通貨選択型）－トリプルリターンズ－ブラジル・リアル・コース（毎月分配型）】

(1) 【投資状況】（平成30年3月30日現在）

投資状況

投資資産の種類	時価(円)	投資比率(%)
---------	-------	---------

投資信託受益証券	67,641,833,034	98.67
内 ケイマン諸島	67,641,833,034	98.67
親投資信託受益証券	4,483,483	0.01
内 日本	4,483,483	0.01
コール・ローン、その他の資産(負債控除後)	909,154,262	1.33
純資産総額	68,555,470,779	100.00

(注1) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

(注2) 投資資産の内書きの時価および投資比率は、当該資産の地域別の内訳です。

(2) 【投資資産】(平成30年3月30日現在)

【投資有価証券の主要銘柄】

イ. 主要銘柄の明細

	銘柄名	地域	種類	株数、口数	簿価単価 簿価 (円)	評価単価 時価 (円)	投資 比率 (%)
				また は 額面金額			
1	CROCI US STRATEGY FUND BRL CLASS	ケイマン 諸島	投資信 託受益 証券	1,230,746,598.14	58.43 71,920,735,427	54.96 67,641,833,034	98.67
2	ダイワ・マネー・マザーファン ド	日本	親投資 信託受 益証券	4,401,613	1.0187 4,483,923	1.0186 4,483,483	0.01

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の時価の比率です。

ロ. 投資有価証券の種類別投資比率

投資有価証券の種類	投資比率
投資信託受益証券	98.67%
親投資信託受益証券	0.01%
合計	98.67%

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該有価証券の時価の比率です。

ハ. 投資株式の業種別投資比率

該当事項はありません。

【投資不動産物件】

該当事項はありません。

【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

(3) 【運用実績】

【純資産の推移】

	純資産総額 (分配落) (円)	純資産総額 (分配付) (円)	1口当たりの 純資産額 (分配落)(円)	1口当たりの 純資産額 (分配付)(円)
第1特定期間末 (平成24年3月7日)	1,531,732,555	1,556,798,758	1.2221	1.2421
第2特定期間末 (平成24年9月7日)	14,812,496,378	15,121,247,982	0.9595	0.9795
第3特定期間末 (平成25年3月7日)	131,391,840,895	133,808,828,212	1.0872	1.1072
第4特定期間末 (平成25年9月9日)	164,915,752,131	168,571,593,474	0.9022	0.9222
第5特定期間末 (平成26年3月7日)	207,762,737,764	212,275,456,100	0.9208	0.9408
第6特定期間末 (平成26年9月8日)	268,869,304,532	274,519,327,427	0.9517	0.9717
第7特定期間末 (平成27年3月9日)	272,339,533,483	280,195,493,412	0.6933	0.7133
第8特定期間末 (平成27年9月7日)	158,087,714,573	163,591,367,137	0.4309	0.4459
第9特定期間末 (平成28年3月7日)	128,718,055,972	132,043,491,797	0.3871	0.3971
第10特定期間末 (平成28年9月7日)	112,873,176,422	114,848,335,886	0.4000	0.4070
第11特定期間末 (平成29年3月7日)	111,233,932,070	112,871,637,615	0.4754	0.4824
平成29年3月末日	106,388,248,701	-	0.4644	-
4月末日	100,138,721,580	-	0.4507	-
5月末日	94,040,522,657	-	0.4326	-
6月末日	93,484,293,393	-	0.4387	-
7月末日	95,202,248,633	-	0.4571	-
8月末日	89,868,201,720	-	0.4419	-
第12特定期間末 (平成29年9月7日)	88,650,541,415	90,063,581,918	0.4392	0.4462
9月末日	90,278,854,493	-	0.4555	-
10月末日	84,502,538,971	-	0.4386	-

11月末日	83,971,848,229	-	0.4426	-
12月末日	80,749,245,406	-	0.4351	-
平成30年1月末日	80,990,554,858	-	0.4426	-
2月末日	74,841,323,816	-	0.4128	-
第13特定期間末 (平成30年3月7日)	72,555,331,908	73,816,561,991	0.4027	0.4097
3月末日	68,555,470,779	-	0.3833	-

【分配の推移】

	1口当たり分配金(円)
第1特定期間	0.0840
第2特定期間	0.1200
第3特定期間	0.1200
第4特定期間	0.1200
第5特定期間	0.1200
第6特定期間	0.1200
第7特定期間	0.1200
第8特定期間	0.0950
第9特定期間	0.0600
第10特定期間	0.0480
第11特定期間	0.0420
第12特定期間	0.0420
第13特定期間	0.0420

【収益率の推移】

	収益率(%)
第1特定期間	30.6
第2特定期間	11.7
第3特定期間	25.8
第4特定期間	6.0
第5特定期間	15.4
第6特定期間	16.4
第7特定期間	14.5
第8特定期間	24.1
第9特定期間	3.8
第10特定期間	15.7
第11特定期間	29.4

第12特定期間	1.2
第13特定期間	1.3

(4) 【設定及び解約の実績】

	設定数量(口)	解約数量(口)
第1特定期間	761,532,490	3,984,654,762
第2特定期間	14,577,278,668	393,008,599
第3特定期間	115,966,431,594	10,554,645,975
第4特定期間	83,713,528,876	21,770,827,563
第5特定期間	59,077,387,170	16,233,537,503
第6特定期間	80,240,454,672	23,375,226,717
第7特定期間	130,007,778,182	19,710,926,516
第8特定期間	51,557,639,918	77,445,465,428
第9特定期間	15,120,724,428	49,487,312,853
第10特定期間	11,741,135,780	62,119,080,477
第11特定期間	8,074,339,124	56,282,041,874
第12特定期間	5,608,571,229	37,703,577,186
第13特定期間	4,763,034,112	26,450,236,980

(注) 当初設定数量は4,476,432,439口です。

(参考) マザーファンド

ダイワ・マネー・マザーファンド

前記「ダイワ米国株ストラテジー（通貨選択型） - トリプルリターンズ - 日本円・コース（毎月分配型）」の記載と同じ。

(参考情報) 運用実績

●ダイワ米国株ストラテジーα（通貨選択型）－トリプルリターンズ－ブラジル・リアル・コース（毎月分配型）

2018年3月30日現在

※過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

基準価額・純資産の推移

基準価額	3,833円
純資産総額	685億円



基準価額の騰落率	
期間	ファンド
1カ月間	-5.5%
3カ月間	-7.4%
6カ月間	-7.2%
1年間	-0.0%
3年間	21.4%
5年間	22.9%
設定来	80.5%

※上記の「基準価額の騰落率」は、「分配金再投資基準価額」の騰落率です。

※「分配金再投資基準価額」は、分配金(税引前)を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。※基準価額の計算において実質的な運用管理費用(信託報酬)は控除しています。

分配の推移(10,000口当たり、税引前)

直近1年間分配金合計額: 840円 設定来分配金合計額: 11,330円

決算期	第66期	第67期	第68期	第69期	第70期	第71期	第72期	第73期	第74期	第75期	第76期	第77期
	17年4月	17年5月	17年6月	17年7月	17年8月	17年9月	17年10月	17年11月	17年12月	18年1月	18年2月	18年3月
分配金	70円	70円	70円	70円	70円	70円	70円	70円	70円	70円	70円	70円

※分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額を分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

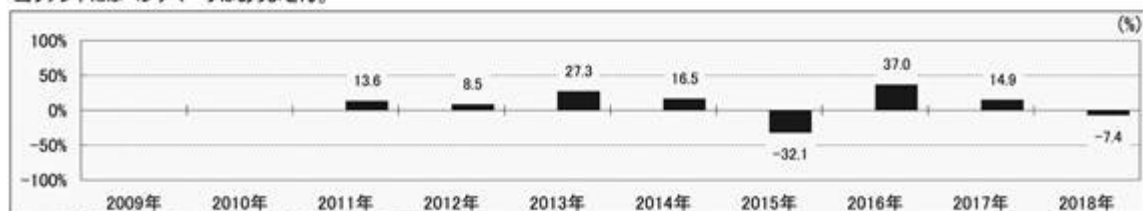
主要な資産の状況

※比率は、純資産総額に対するものです。

組入上位10ファンド		
運用会社名	ファンド名	比率
ムーア・マネジメント(バミューダ)リミテッド	クローキーUSストラテジー・ファンド(ブラジル・リアル・クラス)	98.7%
大和証券投資信託委託	ダイワ・マネー・マザーファンド	0.0%
合計		98.7%

年間収益率の推移

当ファンドにはベンチマークはありません。



・ファンドの「年間収益率」は、「分配金再投資基準価額」の騰落率です。
・2011年は設定日(9月22日)から年末、2018年は3月30日までの騰落率を表しています。

最新の運用実績は、委託会社のホームページ、または販売会社でご確認いただけます。

【ダイワ米国株ストラテジー（通貨選択型）－トリプルリターンズ－米ドル・コース（毎月分配型）】

(1) 【投資状況】（平成30年3月30日現在）

投資状況

投資資産の種類	時価(円)	投資比率(%)
投資信託受益証券	9,240,575,027	98.52
内 ケイマン諸島	9,240,575,027	98.52
親投資信託受益証券	13,021	0.00
内 日本	13,021	0.00
コール・ローン、その他の資産(負債控除後)	138,680,746	1.48
純資産総額	9,379,268,794	100.00

(注1) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

(注2) 投資資産の内書きの時価および投資比率は、当該資産の地域別の内訳です。

(2) 【投資資産】（平成30年3月30日現在）

【投資有価証券の主要銘柄】

イ．主要銘柄の明細

	銘柄名	地域	種類	株数、口数	簿価単価 簿価 (円)	評価単価 時価 (円)	投資 比率 (%)
				また は 額面金額			
1	CROCI US STRATEGY FUND USD CLASS	ケイマン 諸島	投資信 託受益 証券	73,154,430.37	129.96 9,507,372,898	126.31 9,240,575,027	98.52
2	ダイワ・マネー・マザーファンド	日本	親投資 信託受 益証券	12,784	1.0187 13,023	1.0186 13,021	0.00

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の時価の比率です。

ロ．投資有価証券の種類別投資比率

投資有価証券の種類	投資比率
投資信託受益証券	98.52%
親投資信託受益証券	0.00%
合計	98.52%

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該有価証券の時価の比率です。

ハ．投資株式の業種別投資比率

該当事項はありません。

【投資不動産物件】

該当事項はありません。

【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

(3) 【運用実績】

【純資産の推移】

	純資産総額 (分配落) (円)	純資産総額 (分配付) (円)	1口当たりの 純資産額 (分配落)(円)	1口当たりの 純資産額 (分配付)(円)
第1特定期間末 (平成24年3月7日)	19,037,218	19,180,843	1.1929	1.2019
第2特定期間末 (平成24年9月7日)	276,293,920	278,542,712	1.1058	1.1148
第3特定期間末 (平成25年3月7日)	2,125,729,144	2,140,497,825	1.2954	1.3044
第4特定期間末 (平成25年9月9日)	3,149,132,732	3,170,198,589	1.3454	1.3544
第5特定期間末 (平成26年3月7日)	4,163,367,597	4,188,807,961	1.4729	1.4819
第6特定期間末 (平成26年9月8日)	3,678,097,354	3,699,229,734	1.5665	1.5755
第7特定期間末 (平成27年3月9日)	10,839,570,980	11,046,928,282	1.5682	1.5982
第8特定期間末 (平成27年9月7日)	13,838,579,280	14,184,148,614	1.2014	1.2314
第9特定期間末 (平成28年3月7日)	15,137,011,914	15,584,941,519	1.0138	1.0438
第10特定期間末 (平成28年9月7日)	14,017,217,084	14,348,559,202	0.8461	0.8661
第11特定期間末 (平成29年3月7日)	14,910,562,190	15,246,958,011	0.8865	0.9065
平成29年3月末日	14,694,880,286	-	0.8632	-
4月末日	14,451,548,063	-	0.8407	-
5月末日	14,178,273,148	-	0.8139	-
6月末日	13,566,419,530	-	0.8277	-
7月末日	12,933,389,076	-	0.8177	-
8月末日	12,094,291,292	-	0.7908	-

第12特定期間末 (平成29年9月7日)	11,639,283,589	11,850,402,576	0.7718	0.7858
9月末日	11,840,143,556	-	0.8154	-
10月末日	11,318,211,233	-	0.8013	-
11月末日	11,063,928,799	-	0.7938	-
12月末日	10,972,611,369	-	0.7967	-
平成30年1月末日	10,590,544,087	-	0.7802	-
2月末日	9,998,593,518	-	0.7394	-
第13特定期間末 (平成30年3月7日)	9,614,005,350	9,802,499,052	0.7141	0.7281
3月末日	9,379,268,794	-	0.6994	-

【分配の推移】

	1口当たり分配金(円)
第1特定期間	0.0390
第2特定期間	0.0540
第3特定期間	0.0540
第4特定期間	0.0540
第5特定期間	0.0540
第6特定期間	0.0540
第7特定期間	0.1500
第8特定期間	0.1800
第9特定期間	0.1800
第10特定期間	0.1400
第11特定期間	0.1200
第12特定期間	0.0960
第13特定期間	0.0840

【収益率の推移】

	収益率(%)
第1特定期間	23.2
第2特定期間	2.8
第3特定期間	22.0
第4特定期間	8.0
第5特定期間	13.5
第6特定期間	10.0
第7特定期間	9.7

第8特定期間	11.9
第9特定期間	0.6
第10特定期間	2.7
第11特定期間	19.0
第12特定期間	2.1
第13特定期間	3.4

(4) 【設定及び解約の実績】

	設定数量(口)	解約数量(口)
第1特定期間	16,764,793	14,242,212
第2特定期間	294,084,679	60,177,216
第3特定期間	1,521,696,969	130,598,134
第4特定期間	2,138,378,609	1,438,692,447
第5特定期間	1,954,968,351	1,468,911,974
第6特定期間	691,033,225	1,169,698,151
第7特定期間	6,006,231,695	1,442,363,878
第8特定期間	7,325,818,109	2,718,750,388
第9特定期間	5,713,092,244	2,301,083,216
第10特定期間	4,751,004,709	3,114,885,618
第11特定期間	3,225,969,662	2,973,284,524
第12特定期間	2,519,686,459	4,259,549,880
第13特定期間	1,399,027,490	3,015,119,232

(注) 当初設定数量は13,435,778口です。

(参考) マザーファンド

ダイワ・マネー・マザーファンド

前記「ダイワ米国株ストラテジー (通貨選択型) - トリプルリターンズ - 日本円・コース (毎月分配型)」の記載と同じ。

(参考情報) 運用実績

●ダイワ米国株ストラテジーα（通貨選択型）－トリプルリターンズ－米ドル・コース（毎月分配型）

2018年3月30日現在

※過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

基準価額・純資産の推移

基準価額	6,994円
純資産総額	93億円



基準価額の騰落率	
期間	ファンド
1カ月間	-3.6%
3カ月間	-7.2%
6カ月間	-4.4%
1年間	1.5%
3年間	-0.1%
5年間	45.2%
設定来	117.5%

※上記の「基準価額の騰落率」は、「分配金再投資基準価額」の騰落率です。

※「分配金再投資基準価額」は、分配金(税引前)を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。※基準価額の計算において実質的な運用管理費用(信託報酬)は控除しています。

分配の推移（10,000口当たり、税引前）

直近1年間分配金合計額：1,800円 設定来分配金合計額：12,590円

決算期	第66期	第67期	第68期	第69期	第70期	第71期	第72期	第73期	第74期	第75期	第76期	第77期
	17年4月	17年5月	17年6月	17年7月	17年8月	17年9月	17年10月	17年11月	17年12月	18年1月	18年2月	18年3月
分配金	200円	200円	140円	140円	140円	140円	140円	140円	140円	140円	140円	140円

※分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

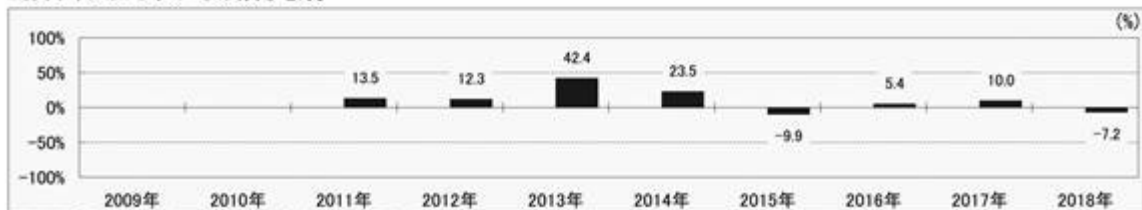
主要な資産の状況

※比率は、純資産総額に対するものです。

組入上位10ファンド		
運用会社名	ファンド名	比率
ムーア・マネジメント(バミューダ)リミテッド	クローキーUSストラテジー・ファンド(米ドル・クラス)	98.5%
大和証券投資信託委託	ダイワ・マネー・マザーファンド	0.0%
合計		98.5%

年間収益率の推移

当ファンドにはベンチマークはありません。



・ファンドの「年間収益率」は、「分配金再投資基準価額」の騰落率です。

・2011年は設定日(9月22日)から年末、2018年は3月30日までの騰落率を表しています。

最新の運用実績は、委託会社のホームページ、または販売会社でご確認いただけます。

【ダイワ米国株ストラテジー（通貨選択型）－トリプルリターンズ－通貨セレクト・コース（毎月分配型）】

(1) 【投資状況】（平成30年3月30日現在）

投資状況

投資資産の種類	時価(円)	投資比率(%)
投資信託受益証券	324,430,355	98.67
内 ケイマン諸島	324,430,355	98.67
親投資信託受益証券	100,000	0.03
内 日本	100,000	0.03
コール・ローン、その他の資産(負債控除後)	4,261,814	1.30
純資産総額	328,792,169	100.00

(注1) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

(注2) 投資資産の内書きの時価および投資比率は、当該資産の地域別の内訳です。

(2) 【投資資産】（平成30年3月30日現在）

【投資有価証券の主要銘柄】

イ．主要銘柄の明細

	銘柄名	地域	種類	株数、口数	簿価単価 簿価 (円)	評価単価 時価 (円)	投資 比率 (%)
				また は 額面金額			
1	CROCI US STRATEGY FUND CURRENCY SELECTION CLASS	ケイマン 諸島	投資信 託受益 証券	7,191,026.58	46.70 335,877,633	45.11 324,430,355	98.67
2	ダイワ・マネー・マザーファンド	日本	親投資 信託受 益証券	98,174	1.0187 100,009	1.0186 100,000	0.03

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の時価の比率です。

ロ．投資有価証券の種類別投資比率

投資有価証券の種類	投資比率
投資信託受益証券	98.67%
親投資信託受益証券	0.03%
合計	98.70%

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該有価証券の時価の比率です。

ハ．投資株式の業種別投資比率

該当事項はありません。

【投資不動産物件】

該当事項はありません。

【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

(3) 【運用実績】

【純資産の推移】

	純資産総額 (分配落) (円)	純資産総額 (分配付) (円)	1口当たりの 純資産額 (分配落)(円)	1口当たりの 純資産額 (分配付)(円)
第1特定期間末 (平成25年9月9日)	330,006,479	333,608,354	0.9162	0.9262
第2特定期間末 (平成26年3月7日)	1,004,381,843	1,014,750,145	0.9687	0.9787
第3特定期間末 (平成26年9月8日)	1,131,432,854	1,142,336,382	1.0377	1.0477
第4特定期間末 (平成27年3月9日)	834,786,904	844,528,495	0.8569	0.8669
第5特定期間末 (平成27年9月7日)	473,238,588	481,043,437	0.6063	0.6163
第6特定期間末 (平成28年3月7日)	407,327,117	414,767,188	0.5475	0.5575
第7特定期間末 (平成28年9月7日)	290,405,318	296,263,772	0.4957	0.5057
第8特定期間末 (平成29年3月7日)	312,331,558	318,312,596	0.5222	0.5322
平成29年3月末日	302,915,769	-	0.5184	-
4月末日	281,569,608	-	0.5060	-
5月末日	285,665,989	-	0.4944	-
6月末日	303,491,269	-	0.5026	-
7月末日	314,721,924	-	0.4990	-
8月末日	336,636,207	-	0.4887	-
第9特定期間末 (平成29年9月7日)	331,431,502	338,365,638	0.4780	0.4880
9月末日	349,295,439	-	0.4961	-
10月末日	334,000,305	-	0.4779	-
11月末日	333,549,019	-	0.4742	-
12月末日	384,896,839	-	0.4774	-
平成30年1月末日	397,870,950	-	0.4770	-

2月末日	363,903,007	-	0.4524	-
第10特定期間末 (平成30年3月7日)	347,643,776	353,203,602	0.4377	0.4447
3月末日	328,792,169	-	0.4279	-

【分配の推移】

	1口当たり分配金(円)
第1特定期間	0.0200
第2特定期間	0.0600
第3特定期間	0.0600
第4特定期間	0.0600
第5特定期間	0.0600
第6特定期間	0.0600
第7特定期間	0.0600
第8特定期間	0.0600
第9特定期間	0.0600
第10特定期間	0.0540

【収益率の推移】

	収益率(%)
第1特定期間	6.4
第2特定期間	12.3
第3特定期間	13.3
第4特定期間	11.6
第5特定期間	22.2
第6特定期間	0.2
第7特定期間	1.5
第8特定期間	17.5
第9特定期間	3.0
第10特定期間	2.9

(4) 【設定及び解約の実績】

	設定数量(口)	解約数量(口)
第1特定期間	355,362,777	95,175,253

第2特定期間	1,339,852,185	663,209,458
第3特定期間	333,338,396	279,815,759
第4特定期間	325,367,585	441,561,321
第5特定期間	127,071,823	320,746,067
第6特定期間	137,829,963	174,307,761
第7特定期間	28,828,967	186,990,672
第8特定期間	169,692,314	157,433,820
第9特定期間	206,636,250	111,326,536
第10特定期間	245,496,020	144,648,634

(注) 当初設定数量は100,000,000口です。

(参考) マザーファンド

ダイワ・マネー・マザーファンド

前記「ダイワ米国株ストラテジー (通貨選択型) - トリプルリターンズ - 日本円・コース(毎月分配型)」の記載と同じ。

(参考情報) 運用実績

●ダイワ米国株ストラテジーα(通貨選択型)ートリプルリターンズー通貨セレクト・コース(毎月分配型)

2018年3月30日現在

※過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

基準価額・純資産の推移

基準価額	4,279円
純資産総額	3.2億円



基準価額の騰落率	
期間	ファンド
1カ月間	-3.9%
3カ月間	-5.6%
6カ月間	-3.3%
1年間	4.5%
3年間	-3.1%
5年間	-
設定来	0.9%

※上記の「基準価額の騰落率」は、「分配金再投資基準価額」の騰落率です。

※「分配金再投資基準価額」は、分配金(税引前)を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。※基準価額の計算において実質的な運用管理費用(信託報酬)は控除しています。

分配の推移(10,000口当たり、税引前)

直近1年間分配金合計額: 1,140円 設定来分配金合計額: 5,540円

決算期	第46期	第47期	第48期	第49期	第50期	第51期	第52期	第53期	第54期	第55期	第56期	第57期
	17年4月	17年5月	17年6月	17年7月	17年8月	17年9月	17年10月	17年11月	17年12月	18年1月	18年2月	18年3月
分配金	100円	100円	100円	100円	100円	100円	100円	100円	100円	100円	70円	70円

※分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額を分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

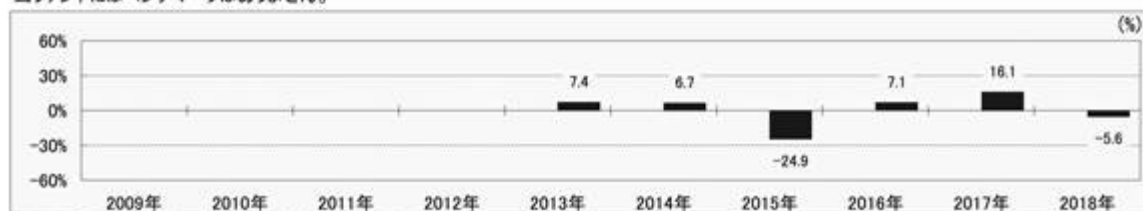
主要な資産の状況

※比率は、純資産総額に対するものです。

組入上位10ファンド		
運用会社名	ファンド名	比率
ムーア・マネジメント(バミューダ)リミテッド	クローキーUSストラテジー・ファンド(通貨セレクト・クラス)	98.7%
大和証券投資信託委託	ダイワ・マネー・マザーファンド	0.0%
合計		98.7%

年間収益率の推移

当ファンドにはベンチマークはありません。



・ファンドの「年間収益率」は、「分配金再投資基準価額」の騰落率です。

・2013年は設定日(5月31日)から年末、2018年は3月30日までの騰落率を表しています。

最新の運用実績は、委託会社のホームページ、または販売会社でご確認いただけます。

第2 【管理及び運営】

1 【申込(販売)手続等】

受益権の取得申込者は、販売会社において取引口座を開設のうえ、取得の申込みを行なうものとします。

当ファンドには、収益分配金を税金を差引いた後無手数料で自動的に再投資する「分配金再投資コース」と、収益の分配が行なわれるごとに収益分配金を受益者に支払う「分配金支払いコース」があります。

「分配金再投資コース」を利用する場合、取得申込者は、販売会社と別に定める積立投資約款にしたがい契約（以下「別に定める契約」といいます。）を締結します。

販売会社は、受益権の取得申込者に対し、最低単位を1円単位または1口単位として販売会社が定める単位をもって、取得の申込みに応じることができます。

ただし、販売会社は、次のイ．およびロ．に掲げる日を取得申込受付日とする受益権の取得申込みの受け付けを行ないません。

イ．ニューヨーク証券取引所、ロンドンの銀行またはニューヨークの銀行のいずれかの休業日と同じ日付の日

ロ．前イ．のほか、一部解約金の支払い等に支障を来すおそれがあるとして委託会社が定める日（当ファンドの運営および受益者に与える影響が軽微であるとして委託会社が定める日に限り除きます。）

お買付価額（1万口当たり）は、お買付申込受付日の翌営業日の基準価額です。

お買付時の申込手数料については、販売会社が別に定めるものとします。申込手数料には、消費税等が課されます。なお、「分配金再投資コース」の収益分配金の再投資の際には、申込手数料はかかりません。

委託会社の各営業日の午後3時までには受け付けた取得の申込み（当該申込みにかかる販売会社所定の事務手続きが完了したものを）、当日の受付分として取扱います。この時刻を過ぎて行なわれる申込みは、翌営業日の取扱いとなります。

委託会社は、金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止その他やむを得ない事情があるときは、受益権の取得申込みの受け付けを中止することができます。

取得申込者は販売会社に、取得申込みと同時にまたはあらかじめ、自己のために開設された当ファンドの受益権の振替を行なうための振替機関等の口座を示すものとし、当該口座に当該取得申込者にかかる口数の増加の記載または記録が行なわれます。なお、販売会社は、当該取得申込みの代金の支払いと引換えに、当該口座に当該取得申込者にかかる口数の増加の記載または記録を行なうことができます。委託会社は、追加信託により分割された受益権について、振替機関等の振替口座簿への新たな記載または記録をするため社振法に定める事項の振替機関への通知を行なうものとします。振替機関等は、委託会社から振替機関への通知があった場合、社振法の規定にしたがい、その備える振替口座簿への新たな記載または記録を行ないません。受託会社は、追加信託により生じた受益権については追加信託のつど、振替機関の定める方法により、振替機関へ当該受益権にかかる信託を設定した旨の通知を行ないません。

2 【換金(解約)手続等】

委託会社の各営業日の午後3時までには受付けた換金の申込み（当該申込みにかかる販売会社所定の事務手続きが完了したものを）、当日の受付分として取扱います。この時刻を過ぎて行なわれる申込みは、翌営業日の取扱いとなります。

なお、信託財産の資金管理を円滑に行なうために大口の解約請求には制限があります。

<一部解約>

受益者は、自己に帰属する受益権について、最低単位を1口単位として販売会社が定める単位をもって、委託会社に一部解約の実行を請求することができます。

ただし、販売会社は、次のイ・およびロ・に掲げる日を一部解約請求受付日とする一部解約の実行の請求の受け付けを行いません。

イ．ニューヨーク証券取引所、ロンドンの銀行またはニューヨークの銀行のいずれかの休業日と同じ日付の日

ロ．前イ．のほか、一部解約金の支払い等に支障を来すおそれがあるとして委託会社が定める日

受益者が一部解約の実行の請求をするときは、販売会社に対し、振替受益権をもって行なうものとします。

解約価額は、一部解約の実行の請求受付日の翌営業日の基準価額から、当該基準価額に0.5%の率を乗じて得た信託財産留保額を控除した価額とします。

解約価額は、原則として、委託会社の各営業日に計算されます。

解約価額は、販売会社または委託会社に問合わせるにより知ることができます。

基準価額は、販売会社または委託会社に問合わせるにより知ることができます。また、委託会社のホームページでご覧になることもできます。

・お電話によるお問い合わせ先（委託会社）

電話番号（コールセンター） 0120-106212

（営業日の9:00～17:00）

・委託会社のホームページ

アドレス <http://www.daiwa-am.co.jp/>

「ダイワ米国株ストラテジー（通貨選択型） - トリプルリターンズ - 」を構成する各ファンドの受益者が、当該ファンドの一部解約金の手取金をもって他の構成ファンドの受益権の取得申込みをする場合において、当該他の構成ファンドの受益権の取得申込みの受け付けが中止された場合、委託会社は、当該一部解約請求の申込みの受け付けを中止することができます。

委託会社は、金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止その他やむを得ない事情があるときは、一部解約の実行の請求の受け付けを中止することができます。

一部解約の実行の請求の受け付けが中止された場合には、受益者は当該受付中止以前に行なった当日の一部解約の実行の請求を撤回することができます。ただし、受益者がその一部解約の実行の請求を撤回しない場合には、当該振替受益権の解約価額は、当該受付中止を解除した後の最初の基準価額の計算日に一部解約の実行の請求を受けたものとして、上記に準じて算出した価額とします。

一部解約金は、販売会社の営業所等において、原則として一部解約の実行の請求受付日から起算して6営業日目から受益者に支払います。

受託会社は、一部解約金について、受益者への支払開始日までに、その全額を委託会社の指定する預金口座等に払込みます。受託会社は、委託会社の指定する預金口座等に一部解約金を払込んだ後は、受益者に対する支払いにつき、その責に任じません。

< 信託財産留保額について >

当ファンドにおいては、信託終了前の解約の際に1万口当たり一部解約の実行の請求受付日の翌営業日の基準価額の0.5%を信託財産留保額としてご負担いただきます。

一部解約に対応して有価証券等の取引を行なう場合には、売買委託手数料等のコストが発生するほか、組入有価証券等の市場価格が変動するリスクを信託財産が負うこととなります。

信託財産留保額は、こうしたコスト等の負担について、受益権を継続して保有される方との公平性に資する目的で導入されているもので、解約の際に控除され、信託財産に繰入れられます。

一部解約の実行の請求を行なう受益者は、その口座が開設されている振替機関等に対して当該受益者の請求にかかる信託契約の一部解約を委託会社が行なうのと引換えに、当該一部解約にかかる受益権の口数と同口数の抹消の申請を行なうものとし、社振法の規定にしたがい当該振替機関等の口座において当該口数の減少の記載または記録が行なわれます。

3 【資産管理等の概要】

(1) 【資産の評価】

基準価額とは、信託財産の純資産総額を計算日における受益権口数で除した1万口当たりの価額をいいます。

純資産総額とは、信託財産に属する資産を法令および一般社団法人投資信託協会規則にしたがって時価（注1、注2）により評価して得た信託財産の資産総額から負債総額を控除した金額をいいます。

（注1）当ファンドの主要な投資対象資産の評価方法の概要

- ・組入外国投資信託の受益証券：原則として計算時において知り得る直近の日の基準価額で評価します。
- ・マザーファンドの受益証券：計算日の基準価額で評価します。

（注2）マザーファンドの主要な投資対象資産の評価方法の概要

- ・本邦通貨表示の公社債：原則として、次に掲げるいずれかの価額で評価します。
 1. 日本証券業協会が発表する売買参考統計値（平均値）、
 2. 金融商品取引業者、銀行等の提示する価額（売気配相場を除く。）、
 3. 価格情報会社の提供する価額

基準価額は、原則として、委託会社の各営業日に計算されます。

基準価額は、販売会社または委託会社に問合わせることにより知ることができます。また、委託会社のホームページでご覧になることもできます。

- ・お電話によるお問合わせ先（委託会社）

電話番号(コールセンター) 0120-106212

(営業日の9:00~17:00)

・委託会社のホームページ

アドレス <http://www.daiwa-am.co.jp/>

(2) 【保管】

該当事項はありません。

(3) 【信託期間】

<「日本円・コース」「豪ドル・コース」「ブラジル・リアル・コース」「米ドル・コース」>

2011年9月22日から2021年9月7日までとします。ただし、(5)により信託契約を解約し、信託を終了させることがあります。

委託会社は、信託期間満了前に、信託期間の延長が受益者に有利であると認めるときは、受託会社と合意のうえ、信託期間を延長することができます。

<「通貨セレクト・コース」>

2013年5月31日から2021年9月7日までとします。ただし、(5)により信託契約を解約し、信託を終了させることがあります。

委託会社は、信託期間満了前に、信託期間の延長が受益者に有利であると認めるときは、受託会社と合意のうえ、信託期間を延長することができます。

(4) 【計算期間】

<「日本円・コース」「豪ドル・コース」「ブラジル・リアル・コース」「米ドル・コース」>

毎月8日から翌月7日までとします。ただし、第1計算期間は、2011年9月22日から2011年11月7日までとします。

上記にかかわらず、上記により各計算期間終了日に該当する日(以下「該当日」といいます。)が休業日の場合には、各計算期間終了日は該当日の翌営業日とし、その翌日から次の計算期間が開始されるものとします。ただし、最終計算期間の終了日には適用しません。

<「通貨セレクト・コース」>

毎月8日から翌月7日までとします。ただし、第1計算期間は、2013年5月31日から2013年7月7日までとします。

上記にかかわらず、上記により各計算期間終了日に該当する日(以下「該当日」といいます。)が休業日の場合には、各計算期間終了日は該当日の翌営業日とし、その翌日から次の計算期間が開始されるものとします。ただし、最終計算期間の終了日には適用しません。

(5) 【その他】

信託の終了

1. 委託会社は、受益権の口数が30億口を下ることとなった場合もしくは信託契約を解約することが受益者のため有利であると認めるときまたはやむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意のうえ、信託契約を解約し、信託を終了させることができます。この場合において、委託会社は、あらかじめ、解約しようとする旨を監督官庁に届出ます。

2. 委託会社は、当ファンドが主要投資対象とする組入外国投資信託が存続しないこととなる場合には、受託会社と合意のうえ、信託契約を解約し、信託を終了させます。この場合において、委託会社は、あらかじめ、解約しようとする旨を監督官庁に届出ます。
3. 委託会社は、前1.の事項について、書面による決議（以下「書面決議」といいます。）を行ないます。この場合において、あらかじめ、書面決議の日ならびに信託契約の解約の理由などの事項を定め、当該決議の日の2週間前までに、信託契約にかかる知れている受益者に対し、書面をもってこれらの事項を記載した書面決議の通知を發します。
4. 前3.の書面決議において、受益者（委託会社および当ファンドの信託財産に当ファンドの受益権が属するときの当該受益権にかかる受益者としての受託会社を除きます。以下本4.において同じ。）は受益権の口数に応じて、議決権を有し、これを行使することができます。なお、信託契約にかかる知れている受益者が議決権を行使しないときは、当該知れている受益者は書面決議について賛成するものとみなします。
5. 前3.の書面決議は議決権を行使することができる受益者の議決権の3分の2以上にあたる多数をもって行ないます。
6. 前3.から前5.までの規定は、前2.の規定に基づいて信託契約を解約するとき、あるいは、委託会社が信託契約の解約について提案をした場合において、当該提案につき、信託契約にかかるすべての受益者が書面または電磁的記録により同意の意思表示をしたときには適用しません。また、信託財産の状態に照らし、真にやむを得ない事情が生じている場合であって、前3.から前5.までの手続を行なうことが困難な場合も同じとします。
7. 委託会社は、監督官庁より信託契約の解約の命令を受けたときは、その命令にしたがい、信託契約を解約し、信託を終了させます。
8. 委託会社が監督官庁より登録の取消しを受けたとき、解散したときまたは業務を廃止したときは、委託会社は、信託契約を解約し、信託を終了させます。ただし、監督官庁が信託契約に関する委託会社の業務を他の投資信託委託会社に引継ぐことを命じたときは、の書面決議で否決された場合を除き、当該投資信託委託会社と受託会社との間において存続します。
9. 受託会社が辞任した場合または裁判所が受託会社を解任した場合において、委託会社が新受託会社を選任できないときは、委託会社は信託契約を解約し、信託を終了させます。

信託約款の変更等

1. 委託会社は、受益者の利益のため必要と認めるときまたはやむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意のうえ、信託約款を変更することまたは当ファンドと他のファンドとの併合（投資信託及び投資法人に関する法律第16条第2号に規定する「委託者指図型投資信託の併合」をいいます。以下同じ。）を行なうことができるものとし、あらかじめ、変更または併合しようとする旨およびその内容を監督官庁に届出ます。なお、信託約款は本の1.から7.までに定める以外の方法によって変更することができないものとします。
2. 委託会社は、前1.の事項（前1.の変更事項にあつては、その内容が重大なものに該当する場合に限り、前1.の併合事項にあつては、その併合が受益者の利益に及ぼす影響が軽微なものに該当する場合を除きます。以下「重大な信託約款の変更等」といいます。）について、書面決議を行ないます。この場合において、あらかじめ、書面決議の日ならびに重大な信託約款の変更等の内容およびその理由などの事項を定め、当該決議の日の2週間前までに、信託約款にかかる知れている受益者に対し、書面をもってこれらの事項を記載した書面決議の通知を發します。
3. 前2.の書面決議において、受益者（委託会社および当ファンドの信託財産に当ファンドの受益権が属するときの当該受益権にかかる受益者としての受託会社を除きます。以下本3.において同

じ。)は受益権の口数に応じて、議決権を有し、これを行行使することができます。なお、信託約款にかかる知れている受益者が議決権を行行使しないときは、当該知れている受益者は書面決議について賛成するものとみなします。

4. 前2. の書面決議は議決権を行行使することができる受益者の議決権の3分の2以上にあたる多数をもって行ないます。
5. 書面決議の効力は、当ファンドのすべての受益者に対してその効力を生じます。
6. 前2. から前5. までの規定は、委託会社が重大な信託約款の変更等について提案をした場合において、当該提案につき、信託約款にかかるすべての受益者が書面または電磁的記録により同意の意思表示をしたときには適用しません。
7. 前1. から前6. までの規定にかかわらず、当ファンドにおいて併合の書面決議が可決された場合にあっても、当該併合にかかる一または複数の他のファンドにおいて当該併合の書面決議が否決された場合は、当該他のファンドとの併合を行なうことはできません。
8. 委託会社は、監督官庁の命令に基づいて信託約款を変更しようとするときは、前1. から前7. までの規定にしたがいます。

反対受益者の受益権買取請求の不適用

当ファンドは、投資信託及び投資法人に関する法律第18条第1項に定める反対受益者による受益権買取請求の規定の適用を受けません。

運用報告書

1. 委託会社は、運用経過のほか信託財産の内容、有価証券売買状況、費用明細などのうち重要な事項を記載した交付運用報告書(投資信託及び投資法人に関する法律第14条第4項に定める運用報告書)を毎年3月および9月の計算期末に作成し、信託財産にかかる知れている受益者に対して交付します。また、電子交付を選択された場合には、所定の方法により交付します。
2. 委託会社は、運用報告書(全体版)(投資信託及び投資法人に関する法律第14条第1項に定める運用報告書)を作成し、委託会社のホームページに掲載します。
 - ・委託会社のホームページ
アドレス <http://www.daiwa-am.co.jp/>
3. 前2. の規定にかかわらず、受益者から運用報告書(全体版)の交付の請求があった場合には、これを交付します。

公告

1. 委託会社が受益者に対してする公告は、電子公告の方法により行ない、次のアドレスに掲載します。
<http://www.daiwa-am.co.jp/>
2. 前1. の電子公告による公告をすることができない事故その他やむを得ない事由が生じた場合の公告は、日本経済新聞に掲載します。

関係法人との契約の更改

委託会社と販売会社との間で締結される受益権の募集・販売の取扱い等に関する契約は、期間満了の1か月(または3か月)前までに、委託会社および販売会社いずれからも何ら意思の表示のないときは、自動的に1年間更新されるものとし、自動延長後の取扱いについてもこれと同様とします。

4 【受益者の権利等】

信託契約締結当初および追加信託当初の受益者は、委託会社の指定する受益権取得申込者とし、分割された受益権は、その取得申込口数に応じて、取得申込者に帰属します。

受益者の有する主な権利の内容、その行使の方法等は、次のとおりです。

収益分配金および償還金にかかる請求権

受益者は、収益分配金（分配金額は、委託会社が決定します。）および償還金（信託終了時における信託財産の純資産総額を受益権口数で除した額をいいます。以下同じ。）を持分にに応じて請求する権利を有します。

収益分配金は、（「通貨セレクト・コース」については第1計算期間の末日を除く）決算日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（当該収益分配金にかかる決算日以前において一部解約が行なわれた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該収益分配金にかかる計算期間の末日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者とします。）に、原則として決算日から起算して5営業日までに支払います。

上記にかかわらず、別に定める契約に基づいて収益分配金を再投資する受益者については、原則として毎計算期間終了日の翌営業日に収益分配金が再投資されます。再投資により増加した受益権は、振替口座簿に記載または記録されます。

償還金は、信託終了日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（信託終了日以前において一部解約が行なわれた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該信託終了日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者とします。）に、原則として信託終了日から起算して5営業日までに支払います。

収益分配金および償還金の支払いは、販売会社の営業所等において行なうものとします。

受益者が、収益分配金については支払開始日から5年間その支払いを請求しないときならびに信託終了による償還金については支払開始日から10年間その支払いを請求しないときは、その権利を失い、受託会社から交付を受けた金銭は、委託会社に帰属します。

換金請求権

受益者は、保有する受益権を換金する権利を有します。権利行使の方法等については、「2 換金（解約）手続等」をご参照下さい。

第3 【ファンドの経理状況】

【ダイワ米国株ストラテジー（通貨選択型） - トリプルリターンズ - 日本円・コース（毎月分配型）】

(1) 当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）並びに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）に基づいて作成しております。

なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。

(2) 当ファンドの計算期間は6か月未満であるため、財務諸表は6か月毎に作成しております。

(3) 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当特定期間（平成29年9月8日から平成30年3月7日まで）の財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人により監査を受けております。

1【財務諸表】

ダイワ米国株ストラテジー（通貨選択型） - トリプルリターンズ - 日本円・コース（毎月分配型）

(1)【貸借対照表】

（単位：円）

	前 期 平成29年9月7日現在	当 期 平成30年3月7日現在
資産の部		
流動資産		
コール・ローン	26,662,155	20,236,792
投資信託受益証券	883,662,880	771,044,883
親投資信託受益証券	135,279	135,239
流動資産合計	910,460,314	791,416,914
資産合計		
910,460,314		
負債の部		
流動負債		
未払収益分配金	10,810,232	6,435,900
未払解約金	-	90,540
未払受託者報酬	20,850	16,474
未払委託者報酬	1,001,140	790,935
その他未払費用	40,813	33,735
流動負債合計	11,873,035	7,367,584
負債合計		
11,873,035		
純資産の部		
元本等		
元本	1 1,201,136,980	1 1,072,650,125
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	2 302,549,701	2 288,600,795
元本等合計	898,587,279	784,049,330
純資産合計		
898,587,279		
負債純資産合計		
910,460,314		

(2) 【損益及び剰余金計算書】

(単位：円)

	前 期		当 期	
	自	平成29年3月8日	自	平成29年9月8日
	至	平成29年9月7日	至	平成30年3月7日
営業収益				
受取配当金		44,134,693		35,646,017
有価証券売買等損益		24,443,764		4,735,946
営業収益合計		19,690,929		40,381,963
営業費用				
支払利息		5,604		4,507
受託者報酬		136,345		112,695
委託者報酬		6,546,633		5,411,564
その他費用		40,869		33,735
営業費用合計		6,729,451		5,562,501
営業利益		12,961,478		34,819,462
経常利益		12,961,478		34,819,462
当期純利益		12,961,478		34,819,462
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額（ ）		1,936,537		854,476
期首剰余金又は期首欠損金（ ）		317,268,428		302,549,701
剰余金増加額又は欠損金減少額		86,992,746		75,680,565
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額		86,992,746		75,680,565
剰余金減少額又は欠損金増加額		17,452,627		42,382,048
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額		17,452,627		42,382,048
分配金		1 69,719,407		1 53,314,597
期末剰余金又は期末欠損金（ ）		302,549,701		288,600,795

(3) 【注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

区 分	当 期	
	自 平成29年9月8日	至 平成30年3月7日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>(1)投資信託受益証券</p> <p>移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。</p> <p>時価評価にあたっては、投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。</p> <p>なお、適正な評価額を入手できなかった場合又は入手した評価額が時価と認定できない事由が認められた場合は、委託会社が忠実義務に基づいて合理的な事由をもって時価と認めた価額又は受託会社と協議のうえ両者が合理的な事由をもって時価と認めた価額で評価しております。</p> <p>(2)親投資信託受益証券</p> <p>移動平均法に基づき、時価で評価しております。</p> <p>時価評価にあたっては、親投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。</p>	
2. 収益及び費用の計上基準	<p>受取配当金</p> <p>原則として、投資信託受益証券の配当落ち日において、確定配当金額を計上しております。</p>	

(貸借対照表に関する注記)

区 分	前 期	当 期
	平成29年9月7日現在	平成30年3月7日現在
1. 1 期首元本額	1,504,767,950円	1,201,136,980円
期中追加設定元本額	73,640,669円	169,957,573円
期中一部解約元本額	377,271,639円	298,444,428円
2. 特定期間末日における受益権の総数	1,201,136,980口	1,072,650,125口

3. 2 元本の欠損	貸借対照表上の純資産額が元本総額を下回っており、その差額は302,549,701円でありませす。	貸借対照表上の純資産額が元本総額を下回っており、その差額は288,600,795円でありませす。
------------	--	--

(損益及び剰余金計算書に関する注記)

区 分	前 期 自 平成29年3月8日 至 平成29年9月7日	当 期 自 平成29年9月8日 至 平成30年3月7日
1 分配金の計算過程	<p>(自平成29年3月8日 至平成29年4月7日)</p> <p>計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額(7,332,056円)、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額(0円)、投資信託約款に規定される収益調整金(118,195,719円)及び分配準備積立金(0円)より分配対象額は125,527,775円(1万口当たり902.22円)であり、うち12,521,918円(1万口当たり90円)を分配金額としております。</p>	<p>(自平成29年9月8日 至平成29年10月10日)</p> <p>計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額(5,690,774円)、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額(0円)、投資信託約款に規定される収益調整金(67,087,957円)及び分配準備積立金(0円)より分配対象額は72,778,731円(1万口当たり655.71円)であり、うち9,989,294円(1万口当たり90円)を分配金額としております。</p>

(自平成29年4月8日 至平成29年5月8日)

計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額(6,561,817円)、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額(0円)、投資信託約款に規定される収益調整金(108,876,963円)及び分配準備積立金(0円)より分配対象額は115,438,780円(1万口当たり861.17円)であり、うち12,064,394円(1万口当たり90円)を分配金額としております。

(自平成29年5月9日 至平成29年6月7日)

計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額(6,052,754円)、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額(0円)、投資信託約款に規定される収益調整金(100,957,790円)及び分配準備積立金(0円)より分配対象額は107,010,544円(1万口当たり818.66円)であり、うち11,764,268円(1万口当たり90円)を分配金額としております。

(自平成29年10月11日 至平成29年11月7日)

計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額(4,671,572円)、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額(0円)、投資信託約款に規定される収益調整金(64,192,822円)及び分配準備積立金(0円)より分配対象額は68,864,394円(1万口当たり608.69円)であり、うち10,182,158円(1万口当たり90円)を分配金額としております。

(自平成29年11月8日 至平成29年12月7日)

計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額(5,192,882円)、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額(0円)、投資信託約款に規定される収益調整金(57,764,465円)及び分配準備積立金(0円)より分配対象額は62,957,347円(1万口当たり565.35円)であり、うち10,022,421円(1万口当たり90円)を分配金額としております。

(自平成29年6月8日 至平成29年7月7日)

計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額(6,344,309円)、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額(0円)、投資信託約款に規定される収益調整金(92,269,965円)及び分配準備積立金(0円)より分配対象額は98,614,274円(1万口当たり778.83円)であり、うち11,395,635円(1万口当たり90円)を分配金額としております。

(自平成29年7月8日 至平成29年8月7日)

計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額(5,981,107円)、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額(0円)、投資信託約款に規定される収益調整金(85,440,214円)及び分配準備積立金(0円)より分配対象額は91,421,321円(1万口当たり737.07円)であり、うち11,162,960円(1万口当たり90円)を分配金額としております。

(自平成29年12月8日 至平成30年1月9日)

計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額(5,761,900円)、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額(0円)、投資信託約款に規定される収益調整金(53,219,518円)及び分配準備積立金(0円)より分配対象額は58,981,418円(1万口当たり527.14円)であり、うち10,070,114円(1万口当たり90円)を分配金額としております。

(自平成30年1月10日 至平成30年2月7日)

計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額(4,631,479円)、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額(0円)、投資信託約款に規定される収益調整金(48,196,239円)及び分配準備積立金(0円)より分配対象額は52,827,718円(1万口当たり479.18円)であり、うち6,614,710円(1万口当たり60円)を分配金額としております。

	<p>(自平成29年8月8日 至平成29年9月7日)</p> <p>計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額(5,607,383円)、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額(0円)、投資信託約款に規定される収益調整金(77,793,279円)及び分配準備積立金(0円)より分配対象額は83,400,662円(1万口当たり694.35円)であり、うち10,810,232円(1万口当たり90円)を分配金額としております。</p>	<p>(自平成30年2月8日 至平成30年3月7日)</p> <p>計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額(5,413,935円)、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額(0円)、投資信託約款に規定される収益調整金(44,968,444円)及び分配準備積立金(0円)より分配対象額は50,382,379円(1万口当たり469.70円)であり、うち6,435,900円(1万口当たり60円)を分配金額としております。</p>
--	---	--

(金融商品に関する注記)

金融商品の状況に関する事項

区 分	当 期 自 平成29年9月8日 至 平成30年3月7日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、「投資信託及び投資法人に関する法律」第2条第4項に定める証券投資信託であり、投資信託約款に規定する「運用の基本方針」に従っております。
2. 金融商品の内容及びリスク	当ファンドが保有する金融商品の種類は、有価証券、金銭債権及び金銭債務等であり、その詳細を附属明細表に記載しております。なお、当ファンドは、投資信託受益証券及び親投資信託受益証券を通じて有価証券、デリバティブ取引に投資しております。これらの金融商品に係るリスクは、市場リスク(価格変動、為替変動、金利変動等)、信用リスク、流動性リスクであります。
3. 金融商品に係るリスク管理体制	複数の部署と会議体が連携する組織的な体制によりリスク管理を行っております。信託財産全体としてのリスク管理を金融商品、リスクの種類毎に行っております。

4. 金融商品の時価等に関する事項 についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては、一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等に拠った場合、当該価額が異なることもあります。
--------------------------------	--

金融商品の時価等に関する事項

区 分	当 期 平成30年3月7日現在
1. 金融商品の時価及び貸借対照表 計上額との差額	金融商品はすべて時価で計上されているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2. 金融商品の時価の算定方法	(1)有価証券 重要な会計方針に係る事項に関する注記に記載しております。 (2)コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務等 これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。

（有価証券に関する注記）

売買目的有価証券

種 類	前 期 平成29年9月7日現在	当 期 平成30年3月7日現在
	最終の計算期間の損益に 含まれた評価差額（円）	最終の計算期間の損益に 含まれた評価差額（円）
投資信託受益証券	3,016,341	10,351,993
親投資信託受益証券	0	0
合計	3,016,341	10,351,993

（デリバティブ取引に関する注記）

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

前 期 平成29年9月7日現在	当 期 平成30年3月7日現在
該当事項はありません。	該当事項はありません。

（関連当事者との取引に関する注記）

当 期 自 平成29年9月8日 至 平成30年3月7日
市場価格その他当該取引に係る価格を勘案して、一般の取引条件と異なる関連当事者との取引は行なわれていないため、該当事項はありません。

（1口当たり情報）

	前 期 平成29年9月7日現在	当 期 平成30年3月7日現在
1口当たり純資産額 (1万口当たり純資産額)	0.7481円 (7,481円)	0.7309円 (7,309円)

(4) 【附属明細表】

第1 有価証券明細表

(1) 株式

該当事項はありません。

(2) 株式以外の有価証券

種 類	銘 柄	券面総額	評価額 (円)	備考
投資信託受益証券	CROCI US STRATEGY FUND JPY CLASS	8,601,379.750	771,044,883	
投資信託受益証券 合計			771,044,883	
親投資信託受益証券	ダイワ・マネー・マザーファンド	132,757	135,239	
親投資信託受益証券 合計			135,239	
合計			771,180,122	

投資信託受益証券及び親投資信託受益証券における券面総額欄の数値は、証券数を表示しております。

第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

（参考）

当ファンドは、ケイマン籍の外国投資信託「オージェンタム・トラスト・クロッキーUSストラテジー・ファンド（日本円・クラス）」受益証券（円建）を主要投資対象としており、貸借対照表の資産の部に計上された「投資信託受益証券」は、すべて同ファンドの受益証券であります。

また、当ファンドは、「ダイワ・マネー・マザーファンド」受益証券を主要投資対象としており、貸借対照表の資産の部に計上された「親投資信託受益証券」は、すべて同マザーファンドの受益証券であります。

なお、同ファンドの状況及び当ファンドの特定期間末日（以下、「期末日」）における同マザーファンドの状況は次のとおりであります。

「オージェンタム・トラスト - クロッキーUSストラテジー・ファンド（日本円・クラス）」の状況

以下に記載した同ファンドの情報は、会計監査人により監査を受けた財務諸表を委託会社で抜粋・翻訳したものであります。

以下に記載した情報は監査の対象外であります。

（日本円建て）

貸借対照表
2017年2月28日

資産		
投資資産の評価額（簿価 /129,872,788,163）	/	129,822,590,202
現金および現金同等物		103,964,823
スワップ契約による評価益		5,260,340
スワップ契約終了による未収金		3,260,343,610
資産合計		133,192,158,975
負債		
スワップ契約による評価損		1,052,248,656
未払：		
専門家報酬		12,806,258
管理会社報酬		11,368,998
運用会社報酬		11,058,323
設立費用		6,496,199
名義書換代理人報酬		2,138,008
受託会社報酬		187,624
為替投資アドバイザー報酬		105,696
負債合計		1,096,409,762
純資産	/	132,095,749,213
豪ドル・クラス	/	5,617,115,712
ブラジル・リアル・クラス		110,440,792,731
日本円・クラス		1,178,766,961
通貨セレクト・クラス		311,403,262
米ドル・クラス		14,547,670,547
	/	132,095,749,213
発行済み受益証券口数		
豪ドル・クラス		55,825,467
ブラジル・リアル・クラス		1,681,108,579
日本円・クラス		12,964,237
通貨セレクト・クラス		6,205,717
米ドル・クラス		105,398,107
1口当りの純資産		
豪ドル・クラス	/	100.62

ブラジル・リアル・クラス	/	65.70
日本円・クラス	/	90.93
通貨セレクト・クラス	/	50.18
米ドル・クラス	/	138.03

損益計算書
2017年2月28日に終了した年度

投資収益		
その他収益	/	873,757
投資収益合計		873,757
費用		
運用会社報酬		149,351,340
管理会社報酬		71,298,143
名義書換代理人報酬		13,826,985
専門家報酬		10,536,442
受託会社報酬		1,292,017
為替投資アドバイザー報酬		479,573
その他費用		1,348,871
費用合計		248,133,371
投資純損失		(247,259,614)
実現益/（損）と評価益/（損）：		
実現益/（損）の内訳：		
有価証券への投資		26,789,744,869
スワップ契約		39,795,272,349
外国為替取引および外国為替先渡契約		(468,417,177)
純実現益		66,116,600,041
評価益/（損）の純変動の内訳：		
証券投資		(1,956,950,459)
スワップ契約		249,997,356
外国為替換算および外国為替先渡契約		(216,092,152)
評価損の純変動		(1,923,045,255)
純実現・純評価益		64,193,554,786
運用による純資産の純増	/	63,946,295,172

（日本円建て）

投資明細表
2017年2月28日

ストラクチャード商品

投資資産の明細	受益証券 口数	純資産に 占める割合	評価額
CROCI Buy-Write Index* - トータル・リターン・スワップ	12,207,530	98.28%	/ 129,822,590,202
ストラクチャード商品計(簿価 /129,872,788,163)			129,822,590,202
投資資産計(簿価 /129,872,788,163)		98.28%	/ 129,822,590,202

*当ファンドはDeutsche Bank A.G., ロンドン支店との間で締結したファンドの残高と同金額の元本のパフォーマンス・スワップを通してCROCI Buy-Write Indexと同様のエクスポージャーを有しています。

豪ドル・クラス外国為替スワップ契約

買い	取引相手	想定元本	満期日	売り	想定元本	純評価益（損）	純資産に 占める割合
AUD	Deutsche Bank A.G.	65,709,976	2017年3月31日	USD	(50,450,498)	/ 1,147,502	0.00%

ブラジル・レアル・クラス外国為替スワップ契約

買い	取引相手	想定元本	満期日	売り	想定元本	純評価益（損）	純資産に 占める割合
BRL	Deutsche Bank A.G.	3,066,130,472	2017年3月31日	USD	(988,207,309)	/ (1,049,712,863)	(0.79%)

日本円・クラス外国為替スワップ契約

買い	取引相手	想定元本	満期日	売り	想定元本	純評価益（損）	純資産に 占める割合
JPY	Deutsche Bank A.G.	1,186,009,564	2017年3月31日	USD	(10,569,213)	/ 4,112,838	0.00%

通貨セレクト・クラス為替スワップ契約

買い	取引相手	想定元本	満期日	売り	想定元本	純評価益（損）	純資産に 占める割合
BRL	Deutsche Bank A.G.	1,533,679	2017年3月31日	USD	(494,333)	/ (528,612)	0.00%
IDR	Deutsche Bank A.G.	6,024,868,790	2017年3月31日	USD	(452,549)	(225,140)	0.00%
INR	Deutsche Bank A.G.	30,802,022	2017年3月31日	USD	(461,082)	(76,451)	0.00%
RUB	Deutsche Bank A.G.	27,175,138	2017年3月31日	USD	(466,705)	(573,340)	0.00%
TRY	Deutsche Bank A.G.	1,811,175	2017年3月31日	USD	(500,443)	(626,525)	0.00%
ZAR	Deutsche Bank A.G.	5,638,139	2017年3月31日	USD	(432,967)	(505,725)	0.00%
合計						/ (2,535,793)	0.00%

用語集:

AUD	豪ドル
BRL	ブラジル・レアル
IDR	インドネシア・ルピア
INR	インド・ルピー
JPY	日本円
RUB	ロシア・ルーブル
TRY	トルコ・リラ
USD	米ドル
ZAR	南アフリカ・ランド

「ダイワ・マネー・マザーファンド」の状況

以下に記載した情報は監査の対象外であります。

貸借対照表

	平成29年9月7日現在	平成30年3月7日現在
	金額（円）	金額（円）
資産の部		
流動資産		
コール・ローン	61,345,472,268	44,168,507,563
現先取引勘定	999,999,438	999,998,739
流動資産合計	62,345,471,706	45,168,506,302

資産合計		62,345,471,706	45,168,506,302
負債の部			
流動負債			
流動負債合計		-	-
負債合計		-	-
純資産の部			
元本等			
元本	1	61,185,457,793	44,339,396,095
剰余金			
期末剰余金又は期末欠損金（ ）		1,160,013,913	829,110,207
元本等合計		62,345,471,706	45,168,506,302
純資産合計		62,345,471,706	45,168,506,302
負債純資産合計		62,345,471,706	45,168,506,302

注記表

（重要な会計方針に係る事項に関する注記）

区 分	自 平成29年9月8日 至 平成30年3月7日
有価証券の評価基準及び評価方法	<p>国債証券</p> <p>個別法に基づき、時価で評価しております。</p> <p>時価評価にあたっては、金融商品取引業者、銀行等の提示する価額（但し、売気配相場は使用しない）、価格情報会社の提供する価額又は日本証券業協会発表の売買参考統計値（平均値）等で評価しております。</p> <p>なお、適正な評価額を入手できなかった場合又は入手した評価額が時価と認定できない事由が認められた場合は、委託会社が忠実義務に基づいて合理的な事由をもって時価と認めた価額又は受託会社と協議のうえ両者が合理的な事由をもって時価と認めた価額で評価しております。</p>

（貸借対照表に関する注記）

区 分	平成29年9月7日現在	平成30年3月7日現在
1. 1 期首	平成29年3月8日	平成29年9月8日
期首元本額	72,735,176,306円	61,185,457,793円
期中追加設定元本額	51,423,128,037円	90,854,737,907円
期中一部解約元本額	62,972,846,550円	107,700,799,605円

期末元本額の内訳		
ファンド名		
ダイワ・グローバルIoT関連株ファンド - AI新時代 - (為替ヘッジあり)	9,811,617円	977,694円
ダイワ・グローバルIoT関連株ファンド - AI新時代 - (為替ヘッジなし)	9,811,617円	977,694円
ダイワFEグローバル・バリュー(為替ヘッジあり)	98,069円	98,069円
ダイワFEグローバル・バリュー(為替ヘッジなし)	98,069円	98,069円
ダイワ/“RICI®”コモディティ・ファンド	8,952,508円	8,952,508円
US債券NB戦略ファンド(為替ヘッジあり/年1回決算型)	1,676円	1,676円
US債券NB戦略ファンド(為替ヘッジなし/年1回決算型)	1,330円	1,330円
NBストラテジック・インカム・ファンド<ラップ>米ドルコース	981円	981円
NBストラテジック・インカム・ファンド<ラップ>円コース	981円	981円
NBストラテジック・インカム・ファンド<ラップ>世界通貨分散コース	981円	981円
堅実バランスファンド - ハジメの一步 -	- 円	225,151,665円
DCダイワ・マネー・ポートフォリオ	2,860,229,019円	2,733,159,457円
ダイワファンドラップ コモディティセレクト	317,088,630円	317,088,630円
ダイワ米国株ストラテジー(通貨選択型) - トリプルリターンズ - 日本円・コース(毎月分配型)	132,757円	132,757円

ダイワ米国株ストラテジー (通貨選択型) - トリプル リターンズ - 豪ドル・コー ス(毎月分配型)	643,132円	643,132円
ダイワ米国株ストラテジー (通貨選択型) - トリプル リターンズ - ブラジル・レ アル・コース(毎月分配型)	4,401,613円	4,401,613円
ダイワ米国株ストラテジー (通貨選択型) - トリプル リターンズ - 米ドル・コー ス(毎月分配型)	12,784円	12,784円
ダイワ/フィデリティ北米株 式ファンド - パラダイムシ フト -	29,484,934円	9,853,995円
低リスク型アロケーション ファンド2(適格機関投資家 専用)	- 円	3,926,573,084円
ブルベア・マネー・ポート フォリオ	23,824,866,966円	16,833,416,715円
ブル3倍日本株ポートフォリ オ	27,937,780,345円	17,336,158,116円
ベア2倍日本株ポートフォリ オ	6,022,107,886円	2,880,762,702円
ダイワFEグローバル・バ リュ株ファンド(ダイワS MA専用)	4,090,590円	4,090,590円
ダイワ米国高金利社債ファン ド(通貨選択型)ブラジル・ レアル・コース(毎月分配 型)	155,317円	155,317円
ダイワ米国高金利社債ファン ド(通貨選択型)日本円・ コース(毎月分配型)	38,024円	38,024円
ダイワ米国高金利社債ファン ド(通貨選択型)米ドル・ コース(毎月分配型)	4,380円	4,380円
ダイワ米国高金利社債ファン ド(通貨選択型)豪ドル・ コース(毎月分配型)	22,592円	22,592円
ダイワ/アムンディ食糧増産 関連ファンド	4,974,315円	164,735円

ダイワ日本リート・ファン ド・マネー・ポートフォリオ	101,056,882円	46,478,614円
ダイワ新興国ハイインカム・ プラス - 金積立型 -	501,660円	- 円
ダイワ新興国ハイインカム債 券ファンド(償還条項付き) 為替ヘッジあり	1,004,378円	- 円
ダイワ新興国ソブリン債券 ファンド(資産成長コース)	33,689円	33,689円
ダイワ新興国ソブリン債券 ファンド(通貨 コース)	96,254円	96,254円
ダイワ・インフラビジネス・ ファンド - インフラ革命 - (為替ヘッジあり)	988,283円	988,283円
ダイワ・インフラビジネス・ ファンド - インフラ革命 - (為替ヘッジなし)	4,926,018円	4,926,018円
ダイワ米国MLPファンド (毎月分配型)米ドルコース	13,732,222円	285,029円
ダイワ米国MLPファンド (毎月分配型)日本円コース	3,874,449円	144,570円
ダイワ米国MLPファンド (毎月分配型)通貨 コース	13,437,960円	677,850円
ダイワ英国高配当株ツイン (毎月分配型)	98,107円	98,107円
ダイワ英国高配当株ファンド	98,107円	98,107円
ダイワ英国高配当株ファン ド・マネー・ポートフォリオ	9,134,295円	1,229,944円
ダイワ・世界コモディティ・ ファンド(ダイワSMA専 用)	382,630円	117,613円
ダイワ米国高金利社債ファン ド(通貨選択型)南アフリ カ・ランド・コース(毎月分 配型)	1,097円	1,097円
ダイワ米国高金利社債ファン ド(通貨選択型)トルコ・リ ラ・コース(毎月分配型)	2,690円	2,690円
ダイワ米国高金利社債ファン ド(通貨選択型)通貨セレクト ・コース(毎月分配型)	1,350円	1,350円

ダイワ・オーストラリア高配当株（毎月分配型）株式コース	98,203円	98,203円
ダイワ・オーストラリア高配当株（毎月分配型）通貨コース	98,203円	98,203円
ダイワ・オーストラリア高配当株（毎月分配型）株式&通貨ツインコース	982,029円	982,029円
ダイワ米国株ストラテジー（通貨選択型）-トリプルリターンズ-通貨セレクト・コース（毎月分配型）	98,174円	98,174円
計	61,185,457,793円	44,339,396,095円
2. 期末日における受益権の総数	61,185,457,793口	44,339,396,095口

（金融商品に関する注記）

金融商品の状況に関する事項

区 分	自 平成29年9月8日 至 平成30年3月7日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、「投資信託及び投資法人に関する法律」第2条第4項に定める証券投資信託であり、投資信託約款に規定する「運用の基本方針」に従っております。
2. 金融商品の内容及びリスク	当ファンドが保有する金融商品の種類は、有価証券、金銭債権及び金銭債務等であり、その詳細を附属明細表に記載しております。 これらの金融商品に係るリスクは、市場リスク（価格変動、金利変動等）、信用リスク、流動性リスクであります。
3. 金融商品に係るリスク管理体制	複数の部署と会議体が連携する組織的な体制によりリスク管理を行っております。信託財産全体としてのリスク管理を金融商品、リスクの種類毎に行っております。
4. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては、一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等に拠った場合、当該価額が異なることもあります。

金融商品の時価等に関する事項

区 分	平成30年3月7日現在
1. 金融商品の時価及び貸借対照表計上額との差額	金融商品はすべて時価で計上されているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2. 金融商品の時価の算定方法	コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務等 これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。

（有価証券に関する注記）

平成29年9月7日現在	平成30年3月7日現在
該当事項はありません。	該当事項はありません。

（デリバティブ取引に関する注記）

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

平成29年9月7日現在	平成30年3月7日現在
該当事項はありません。	該当事項はありません。

（1口当たり情報）

	平成29年9月7日現在	平成30年3月7日現在
1口当たり純資産額	1.0190円	1.0187円
（1万口当たり純資産額）	（10,190円）	（10,187円）

附属明細表

第1 有価証券明細表

(1) 株式

該当事項はありません。

(2) 株式以外の有価証券

該当事項はありません。

第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

【ダイワ米国株ストラテジー（通貨選択型） - トリプルリターンズ - 豪ドル・コース（毎月分配型）】

(1) 当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）並びに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）に基づいて作成しております。

なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。

(2) 当ファンドの計算期間は6か月未満であるため、財務諸表は6か月毎に作成しております。

(3) 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当特定期間（平成29年9月8日から平成30年3月7日まで）の財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人により監査を受けております。

1【財務諸表】

ダイワ米国株ストラテジー（通貨選択型） - トリプルリターンズ - 豪ドル・コース（毎月分配型）

(1)【貸借対照表】

（単位：円）

	前 期 平成29年9月7日現在	当 期 平成30年3月7日現在
資産の部		
流動資産		
コール・ローン	199,373,149	117,244,405
投資信託受益証券	4,403,647,156	3,459,855,804
親投資信託受益証券	655,351	655,158
流動資産合計	4,603,675,656	3,577,755,367
資産合計		
4,603,675,656		
負債の部		
流動負債		
未払収益分配金	76,608,846	46,213,924
未払解約金	63,811,480	16,015,731
未払受託者報酬	105,970	74,205
未払委託者報酬	5,086,721	3,562,189
その他未払費用	202,359	165,111
流動負債合計	145,815,376	66,031,160
負債合計		
145,815,376		
純資産の部		
元本等		
元本	1 7,660,884,600	1 6,601,989,160
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	2 3,203,024,320	2 3,090,264,953
元本等合計	4,457,860,280	3,511,724,207
純資産合計		
4,457,860,280		
負債純資産合計		
4,603,675,656		

(2) 【損益及び剰余金計算書】

(単位：円)

	前 期		当 期	
	自	平成29年3月8日	自	平成29年9月8日
	至	平成29年9月7日	至	平成30年3月7日
営業収益				
受取配当金		258,834,204		209,070,900
有価証券売買等損益		111,778,811		132,862,445
営業収益合計		147,055,393		76,208,455
営業費用				
支払利息		24,152		17,326
受託者報酬		674,816		550,653
委託者報酬		32,393,429		26,433,015
その他費用		202,508		165,111
営業費用合計		33,294,905		27,166,105
営業利益		113,760,488		49,042,350
経常利益		113,760,488		49,042,350
当期純利益		113,760,488		49,042,350
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額（ ）		245,943		7,301,580
期首剰余金又は期首欠損金（ ）		3,326,132,836		3,203,024,320
剰余金増加額又は欠損金減少額		651,438,624		587,421,770
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額		651,438,624		587,421,770
剰余金減少額又は欠損金増加額		147,775,726		137,886,756
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額		147,775,726		137,886,756
分配金		1 494,560,813		1 378,516,417
期末剰余金又は期末欠損金（ ）		3,203,024,320		3,090,264,953

(3) 【注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

区 分	当 期	
	自 平成29年9月8日	至 平成30年3月7日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>(1)投資信託受益証券</p> <p>移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。</p> <p>時価評価にあたっては、投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。</p> <p>なお、適正な評価額を入手できなかった場合又は入手した評価額が時価と認定できない事由が認められた場合は、委託会社が忠実義務に基づいて合理的な事由をもって時価と認めた価額又は受託会社と協議のうえ両者が合理的な事由をもって時価と認めた価額で評価しております。</p> <p>(2)親投資信託受益証券</p> <p>移動平均法に基づき、時価で評価しております。</p> <p>時価評価にあたっては、親投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。</p>	
2. 収益及び費用の計上基準	<p>受取配当金</p> <p>原則として、投資信託受益証券の配当落ち日において、確定配当金額を計上しております。</p>	

(貸借対照表に関する注記)

区 分	前 期	当 期
	平成29年9月7日現在	平成30年3月7日現在
1. 1 期首元本額	8,895,425,004円	7,660,884,600円
期中追加設定元本額	364,344,818円	328,414,527円
期中一部解約元本額	1,598,885,222円	1,387,309,967円
2. 特定期間末日における受益権の総数	7,660,884,600口	6,601,989,160口

3. 2 元本の欠損	貸借対照表上の純資産額が元本総額を下回っており、その差額は3,203,024,320円であります。	貸借対照表上の純資産額が元本総額を下回っており、その差額は3,090,264,953円であります。
------------	---	---

(損益及び剰余金計算書に関する注記)

区 分	前 期 自 平成29年3月8日 至 平成29年9月7日	当 期 自 平成29年9月8日 至 平成30年3月7日
1 分配金の計算過程	<p>(自平成29年3月8日 至平成29年4月7日)</p> <p>計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額(42,098,422円)、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額(0円)、投資信託約款に規定される収益調整金(972,268,456円)及び分配準備積立金(0円)より分配対象額は1,014,366,878円(1万口当たり1,170.36円)であり、うち86,671,404円(1万口当たり100円)を分配金額としております。</p>	<p>(自平成29年9月8日 至平成29年10月10日)</p> <p>計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額(34,910,449円)、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額(0円)、投資信託約款に規定される収益調整金(598,017,750円)及び分配準備積立金(0円)より分配対象額は632,928,199円(1万口当たり850.70円)であり、うち74,401,037円(1万口当たり100円)を分配金額としております。</p>

(自平成29年4月8日 至平成29年5月8日)

計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額(43,397,884円)、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額(0円)、投資信託約款に規定される収益調整金(913,640,674円)及び分配準備積立金(0円)より分配対象額は957,038,558円(1万口当たり1,121.21円)であり、うち85,357,718円(1万口当たり100円)を分配金額としております。

(自平成29年5月9日 至平成29年6月7日)

計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額(35,404,085円)、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額(0円)、投資信託約款に規定される収益調整金(857,760,368円)及び分配準備積立金(0円)より分配対象額は893,164,453円(1万口当たり1,063.51円)であり、うち83,983,033円(1万口当たり100円)を分配金額としております。

(自平成29年10月11日 至平成29年11月7日)

計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額(31,756,937円)、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額(0円)、投資信託約款に規定される収益調整金(534,025,648円)及び分配準備積立金(0円)より分配対象額は565,782,585円(1万口当たり795.40円)であり、うち71,131,988円(1万口当たり100円)を分配金額としております。

(自平成29年11月8日 至平成29年12月7日)

計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額(30,990,294円)、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額(0円)、投資信託約款に規定される収益調整金(489,698,014円)及び分配準備積立金(0円)より分配対象額は520,688,308円(1万口当たり739.62円)であり、うち70,399,409円(1万口当たり100円)を分配金額としております。

(自平成29年6月8日 至平成29年7月7日)

計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額(39,791,946円)、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額(0円)、投資信託約款に規定される収益調整金(794,995,352円)及び分配準備積立金(0円)より分配対象額は834,787,298円(1万口当たり1,011.75円)であり、うち82,509,003円(1万口当たり100円)を分配金額としております。

(自平成29年7月8日 至平成29年8月7日)

計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額(37,105,287円)、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額(0円)、投資信託約款に規定される収益調整金(724,348,328円)及び分配準備積立金(0円)より分配対象額は761,453,615円(1万口当たり958.64円)であり、うち79,430,809円(1万口当たり100円)を分配金額としております。

(自平成29年12月8日 至平成30年1月9日)

計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額(31,706,086円)、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額(0円)、投資信託約款に規定される収益調整金(443,389,820円)及び分配準備積立金(0円)より分配対象額は475,095,906円(1万口当たり686.05円)であり、うち69,251,027円(1万口当たり100円)を分配金額としております。

(自平成30年1月10日 至平成30年2月7日)

計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額(27,721,319円)、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額(0円)、投資信託約款に規定される収益調整金(394,543,667円)及び分配準備積立金(0円)より分配対象額は422,264,986円(1万口当たり627.32円)であり、うち47,119,032円(1万口当たり70円)を分配金額としております。

	<p>(自平成29年8月8日 至平成29年9月7日)</p> <p>計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額(34,467,500円)、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額(0円)、投資信託約款に規定される収益調整金(657,804,608円)及び分配準備積立金(0円)より分配対象額は692,272,108円(1万口当たり903.65円)であり、うち76,608,846円(1万口当たり100円)を分配金額としております。</p>	<p>(自平成30年2月8日 至平成30年3月7日)</p> <p>計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額(28,958,302円)、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額(0円)、投資信託約款に規定される収益調整金(367,953,088円)及び分配準備積立金(0円)より分配対象額は396,911,390円(1万口当たり601.20円)であり、うち46,213,924円(1万口当たり70円)を分配金額としております。</p>
--	---	--

(金融商品に関する注記)

金融商品の状況に関する事項

区 分	当 期 自 平成29年9月8日 至 平成30年3月7日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、「投資信託及び投資法人に関する法律」第2条第4項に定める証券投資信託であり、投資信託約款に規定する「運用の基本方針」に従っております。
2. 金融商品の内容及びリスク	当ファンドが保有する金融商品の種類は、有価証券、金銭債権及び金銭債務等であり、その詳細を附属明細表に記載しております。なお、当ファンドは、投資信託受益証券及び親投資信託受益証券を通じて有価証券、デリバティブ取引に投資しております。これらの金融商品に係るリスクは、市場リスク(価格変動、為替変動、金利変動等)、信用リスク、流動性リスクであります。
3. 金融商品に係るリスク管理体制	複数の部署と会議体が連携する組織的な体制によりリスク管理を行っております。信託財産全体としてのリスク管理を金融商品、リスクの種類毎に行っております。

4. 金融商品の時価等に関する事項 についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては、一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等に拠った場合、当該価額が異なることもあります。
--------------------------------	--

金融商品の時価等に関する事項

区 分	当 期
	平成30年3月7日現在
1. 金融商品の時価及び貸借対照表 計上額との差額	金融商品はすべて時価で計上されているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2. 金融商品の時価の算定方法	(1)有価証券 重要な会計方針に係る事項に関する注記に記載しております。 (2)コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務等 これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。

（有価証券に関する注記）

売買目的有価証券

種 類	前 期	当 期
	平成29年9月7日現在	平成30年3月7日現在
	最終の計算期間の損益に 含まれた評価差額（円）	最終の計算期間の損益に 含まれた評価差額（円）
投資信託受益証券	61,458,492	75,474,478
親投資信託受益証券	0	0
合計	61,458,492	75,474,478

（デリバティブ取引に関する注記）

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

前 期	当 期
平成29年9月7日現在	平成30年3月7日現在
該当事項はありません。	該当事項はありません。

（関連当事者との取引に関する注記）

当 期
自 平成29年9月8日
至 平成30年3月7日
市場価格その他当該取引に係る価格を勘案して、一般の取引条件と異なる関連当事者との取引は行なわれていないため、該当事項はありません。

（1口当たり情報）

	前 期 平成29年9月7日現在	当 期 平成30年3月7日現在
1口当たり純資産額 (1万口当たり純資産額)	0.5819円 (5,819円)	0.5319円 (5,319円)

(4) 【附属明細表】

第1 有価証券明細表

(1) 株式

該当事項はありません。

(2) 株式以外の有価証券

種 類	銘 柄	券面総額	評価額 (円)	備考
投資信託受益証券	CROCI US STRATEGY FUND AUD CLASS	36,231,891.720	3,459,855,804	
投資信託受益証券 合計			3,459,855,804	
親投資信託受益証券	ダイワ・マネー・マザーファンド	643,132	655,158	
親投資信託受益証券 合計			655,158	
合計			3,460,510,962	

投資信託受益証券及び親投資信託受益証券における券面総額欄の数値は、証券数を表示しております。

第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

（参考）

当ファンドは、ケイマン籍の外国投資信託「オージェンタム・トラスト・クロッキーUSストラテジー・ファンド（豪ドル・クラス）」受益証券（円建）を主要投資対象としており、貸借対照表の資産の部に計上された「投資信託受益証券」は、すべて同ファンドの受益証券であります。

また、当ファンドは、「ダイワ・マネー・マザーファンド」受益証券を主要投資対象としており、貸借対照表の資産の部に計上された「親投資信託受益証券」は、すべて同マザーファンドの受益証券であります。

なお、同ファンドの状況及び当ファンドの特定期間末日（以下、「期末日」）における同マザーファンドの状況は次のとおりであります。

「オージェンタム・トラスト - クロッキーUSストラテジー・ファンド（豪ドル・クラス）」の状況

前記「ダイワ米国株ストラテジー（通貨選択型） - トリプルリターンズ - 日本円・コース（毎月分配型）」に記載のとおりであります。

「ダイワ・マネー・マザーファンド」の状況

前記「ダイワ米国株ストラテジー（通貨選択型） - トリプルリターンズ - 日本円・コース（毎月分配型）」に記載のとおりであります。

【ダイワ米国株ストラテジー（通貨選択型） - トリプルリターンズ - ブラジル・リアル・コース
（毎月分配型）】

(1) 当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）並びに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）に基づいて作成しております。

なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。

(2) 当ファンドの計算期間は6か月未満であるため、財務諸表は6か月毎に作成しております。

(3) 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当特定期間（平成29年9月8日から平成30年3月7日まで）の財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人により監査を受けております。

1【財務諸表】

ダイワ米国株ストラテジー（通貨選択型） - トリプルリターンズ - ブラジル・リアル・コース（毎月分配型）

(1)【貸借対照表】

（単位：円）

	前 期 平成29年9月7日現在	当 期 平成30年3月7日現在
資産の部		
流動資産		
コール・ローン	3,050,055,168	2,638,978,156
投資信託受益証券	87,420,047,842	71,575,438,262
親投資信託受益証券	4,485,243	4,483,923
流動資産合計	90,474,588,253	74,218,900,341
資産合計	90,474,588,253	74,218,900,341
負債の部		
流動負債		
未払収益分配金	1,413,040,503	1,261,230,083
未払解約金	308,578,871	326,921,306
未払受託者報酬	2,068,997	1,516,441
未払委託者報酬	99,312,280	72,789,436
その他未払費用	1,046,187	1,111,167
流動負債合計	1,824,046,838	1,663,568,433
負債合計	1,824,046,838	1,663,568,433
純資産の部		
元本等		
元本	1 201,862,929,117	1 180,175,726,249
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	2 113,212,387,702	2 107,620,394,341
元本等合計	88,650,541,415	72,555,331,908
純資産合計	88,650,541,415	72,555,331,908
負債純資産合計	90,474,588,253	74,218,900,341

(2)【損益及び剰余金計算書】

(単位：円)

	前 期		当 期	
	自 平成29年3月8日 至 平成29年9月7日		自 平成29年9月8日 至 平成30年3月7日	
営業収益				
受取配当金		9,334,005,055		6,281,050,540
有価証券売買等損益		7,966,807,898		4,425,661,440
営業収益合計		1,367,197,157		1,855,389,100
営業費用				
支払利息		439,913		289,194
受託者報酬		13,191,417		11,119,336
委託者報酬		633,189,818		533,729,948
その他費用		1,050,595		1,111,167
営業費用合計		647,871,743		546,249,645
営業利益		719,325,414		1,309,139,455
経常利益		719,325,414		1,309,139,455
当期純利益		719,325,414		1,309,139,455
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額()		127,466,431		60,909,344
期首剰余金又は期首欠損金()		122,724,003,004		113,212,387,702
剰余金増加額又は欠損金減少額		20,740,777,933		14,888,931,557
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額		20,740,777,933		14,888,931,557
剰余金減少額又は欠損金増加額		3,089,892,553		2,681,999,993
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額		3,089,892,553		2,681,999,993
分配金		1 8,986,061,923		1 7,863,168,314
期末剰余金又は期末欠損金()		113,212,387,702		107,620,394,341

(3) 【注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

区 分	当 期	
	自 平成29年9月8日	至 平成30年3月7日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>(1)投資信託受益証券</p> <p>移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。</p> <p>時価評価にあたっては、投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。</p> <p>なお、適正な評価額を入手できなかった場合又は入手した評価額が時価と認定できない事由が認められた場合は、委託会社が忠実義務に基づいて合理的な事由をもって時価と認めた価額又は受託会社と協議のうえ両者が合理的な事由をもって時価と認めた価額で評価しております。</p> <p>(2)親投資信託受益証券</p> <p>移動平均法に基づき、時価で評価しております。</p> <p>時価評価にあたっては、親投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。</p>	
2. 収益及び費用の計上基準	<p>受取配当金</p> <p>原則として、投資信託受益証券の配当落ち日において、確定配当金額を計上しております。</p>	

(貸借対照表に関する注記)

区 分	前 期	当 期
	平成29年9月7日現在	平成30年3月7日現在
1. 1 期首元本額	233,957,935,074円	201,862,929,117円
期中追加設定元本額	5,608,571,229円	4,763,034,112円
期中一部解約元本額	37,703,577,186円	26,450,236,980円
2. 特定期間末日における受益権の総数	201,862,929,117口	180,175,726,249口

3. 2 元本の欠損	貸借対照表上の純資産額が元本総額を下回っており、その差額は113,212,387,702円であります。	貸借対照表上の純資産額が元本総額を下回っており、その差額は107,620,394,341円であります。
------------	---	---

(損益及び剰余金計算書に関する注記)

区 分	前 期 自 平成29年3月8日 至 平成29年9月7日	当 期 自 平成29年9月8日 至 平成30年3月7日
	1 分配金の計算過程	<p>(自平成29年3月8日 至平成29年4月7日)</p> <p>計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額(1,634,121,321円)、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額(0円)、投資信託約款に規定される収益調整金(35,189,173,448円)及び分配準備積立金(263,473,925円)より分配対象額は37,086,768,694円(1万口当たり1,640.77円)であり、うち1,582,232,789円(1万口当たり70円)を分配金額としております。</p>

(自平成29年4月8日 至平成29年5月8日)

計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額(1,729,512,183円)、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額(0円)、投資信託約款に規定される収益調整金(34,429,195,879円)及び分配準備積立金

(307,467,001円)より分配対象額は36,466,175,063円(1万口当たり1,649.00円)であり、うち1,547,988,164円(1万口当たり70円)を分配金額としております。

(自平成29年5月9日 至平成29年6月7日)

計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額(1,343,063,074円)、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額(0円)、投資信託約款に規定される収益調整金(33,650,096,916円)及び分配準備積立金

(476,099,455円)より分配対象額は35,469,259,445円(1万口当たり1,641.22円)であり、うち1,512,810,414円(1万口当たり70円)を分配金額としております。

(自平成29年10月11日 至平成29年11月7日)

計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額(1,072,594,949円)、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額(0円)、投資信託約款に規定される収益調整金(29,571,064,696円)及び分配準備積立金(0円)より

分配対象額は30,643,659,645円(1万口当たり1,596.72円)であり、うち1,343,416,652円(1万口当たり70円)を分配金額としております。

(自平成29年11月8日 至平成29年12月7日)

計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額(972,380,011円)、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額(0円)、投資信託約款に規定される収益調整金(28,778,282,785円)及び分配準備積立金(0円)より

分配対象額は29,750,662,796円(1万口当たり1,578.33円)であり、うち1,319,458,170円(1万口当たり70円)を分配金額としております。

(自平成29年6月8日 至平成29年7月7日)

計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額(1,358,292,504円)、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額(0円)、投資信託約款に規定される収益調整金(32,935,017,049円)及び分配準備積立金(298,559,940円)より分配対象額は34,591,869,493円(1万口当たり1,635.52円)であり、うち1,480,523,559円(1万口当たり70円)を分配金額としております。

(自平成29年7月8日 至平成29年8月7日)

計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額(1,417,420,056円)、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額(0円)、投資信託約款に規定される収益調整金(32,247,641,057円)及び分配準備積立金(171,748,141円)より分配対象額は33,836,809,254円(1万口当たり1,634.10円)であり、うち1,449,466,494円(1万口当たり70円)を分配金額としております。

(自平成29年12月8日 至平成30年1月9日)

計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額(935,043,326円)、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額(0円)、投資信託約款に規定される収益調整金(27,913,258,848円)及び分配準備積立金(0円)より分配対象額は28,848,302,174円(1万口当たり1,558.89円)であり、うち1,295,400,287円(1万口当たり70円)を分配金額としております。

(自平成30年1月10日 至平成30年2月7日)

計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額(870,546,092円)、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額(0円)、投資信託約款に規定される収益調整金(27,125,512,321円)及び分配準備積立金(0円)より分配対象額は27,996,058,413円(1万口当たり1,536.69円)であり、うち1,275,287,774円(1万口当たり70円)を分配金額としております。

	<p>(自平成29年8月8日 至平成29年9月7日)</p> <p>計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額(1,213,271,834円)、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額(0円)、投資信託約款に規定される収益調整金(31,438,296,696円)及び分配準備積立金(135,814,037円)より分配対象額は32,787,382,567円(1万口当たり1,624.24円)であり、うち1,413,040,503円(1万口当たり70円)を分配金額としております。</p>	<p>(自平成30年2月8日 至平成30年3月7日)</p> <p>計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額(856,951,464円)、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額(0円)、投資信託約款に規定される収益調整金(26,426,730,862円)及び分配準備積立金(0円)より分配対象額は27,283,682,326円(1万口当たり1,514.28円)であり、うち1,261,230,083円(1万口当たり70円)を分配金額としております。</p>
--	--	--

(金融商品に関する注記)

金融商品の状況に関する事項

区 分	当 期 自 平成29年9月8日 至 平成30年3月7日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、「投資信託及び投資法人に関する法律」第2条第4項に定める証券投資信託であり、投資信託約款に規定する「運用の基本方針」に従っております。
2. 金融商品の内容及びリスク	当ファンドが保有する金融商品の種類は、有価証券、金銭債権及び金銭債務等であり、その詳細を附属明細表に記載しております。なお、当ファンドは、投資信託受益証券及び親投資信託受益証券を通じて有価証券、デリバティブ取引に投資しております。これらの金融商品に係るリスクは、市場リスク(価格変動、為替変動、金利変動等)、信用リスク、流動性リスクであります。
3. 金融商品に係るリスク管理体制	複数の部署と会議体が連携する組織的な体制によりリスク管理を行っております。信託財産全体としてのリスク管理を金融商品、リスクの種類毎に行っております。

4. 金融商品の時価等に関する事項 についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては、一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等に拠った場合、当該価額が異なることもあります。
--------------------------------	--

金融商品の時価等に関する事項

区 分	当 期 平成30年3月7日現在
1. 金融商品の時価及び貸借対照表 計上額との差額	金融商品はすべて時価で計上されているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2. 金融商品の時価の算定方法	(1)有価証券 重要な会計方針に係る事項に関する注記に記載しております。 (2)コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務等 これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。

(有価証券に関する注記)

売買目的有価証券

種 類	前 期 平成29年9月7日現在	当 期 平成30年3月7日現在
	最終の計算期間の損益に 含まれた評価差額（円）	最終の計算期間の損益に 含まれた評価差額（円）
投資信託受益証券	2,007,612,458	343,014,339
親投資信託受益証券	0	0
合計	2,007,612,458	343,014,339

(デリバティブ取引に関する注記)

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

前 期 平成29年9月7日現在	当 期 平成30年3月7日現在
該当事項はありません。	該当事項はありません。

(関連当事者との取引に関する注記)

当 期
自 平成29年9月8日
至 平成30年3月7日

市場価格その他当該取引に係る価格を勘案して、一般の取引条件と異なる関連当事者との取引は行なわれていないため、該当事項はありません。

(1口当たり情報)

	前 期 平成29年9月7日現在	当 期 平成30年3月7日現在
1口当たり純資産額 (1万口当たり純資産額)	0.4392円 (4,392円)	0.4027円 (4,027円)

(4) 【附属明細表】

第1 有価証券明細表

(1) 株式

該当事項はありません。

(2) 株式以外の有価証券

種 類	銘 柄	券面総額	評価額 (円)	備考
投資信託受益証券	CROCI US STRATEGY FUND BRL CLASS	1,224,579,347.170	71,575,438,262	
投資信託受益証券 合計			71,575,438,262	
親投資信託受益証券	ダイワ・マネー・マザーファンド	4,401,613	4,483,923	
親投資信託受益証券 合計			4,483,923	
合計			71,579,922,185	

投資信託受益証券及び親投資信託受益証券における券面総額欄の数値は、証券数を表示しております。

第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

(参考)

当ファンドは、ケイマン籍の外国投資信託「オージェンタム・トラスト - クロッキーUSストラテジー・ファンド(ブラジル・リアル・クラス)」受益証券(円建)を主要投資対象としており、貸借対照表の資産の部に計上された「投資信託受益証券」は、すべて同ファンドの受益証券であります。

また、当ファンドは、「ダイワ・マネー・マザーファンド」受益証券を主要投資対象としており、貸借対照表の資産の部に計上された「親投資信託受益証券」は、すべて同マザーファンドの受益証券であります。

なお、同ファンドの状況及び当ファンドの特定期間末日(以下、「期末日」)における同マザーファンドの状況は次のとおりであります。

「オージェンタム・トラスト - クロッキーUSストラテジー・ファンド(ブラジル・リアル・クラス)」の状況

前記「ダイワ米国株ストラテジー (通貨選択型) - トリプルリターンズ - 日本円・コース(毎月分配型)」に記載のとおりであります。

「ダイワ・マネー・マザーファンド」の状況

前記「ダイワ米国株ストラテジー (通貨選択型) - トリプルリターンズ - 日本円・コース(毎月分配型)」に記載のとおりであります。

【ダイワ米国株ストラテジー（通貨選択型） - トリプルリターンズ - 米ドル・コース（毎月分配型）】

(1) 当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）並びに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）に基づいて作成しております。

なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。

(2) 当ファンドの計算期間は6か月未満であるため、財務諸表は6か月毎に作成しております。

(3) 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当特定期間（平成29年9月8日から平成30年3月7日まで）の財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人により監査を受けております。

1【財務諸表】

ダイワ米国株ストラテジー（通貨選択型） - トリプルリターンズ - 米ドル・コース（毎月分配型）

(1)【貸借対照表】

（単位：円）

	前 期 平成29年9月7日現在	当 期 平成30年3月7日現在
資産の部		
流動資産		
コール・ローン	496,149,238	378,592,527
投資信託受益証券	11,502,913,248	9,489,755,620
親投資信託受益証券	13,026	13,023
流動資産合計	11,999,075,512	9,868,361,170
資産合計	11,999,075,512	9,868,361,170
負債の部		
流動負債		
未払収益分配金	211,118,987	188,493,702
未払解約金	134,466,341	55,466,901
未払受託者報酬	278,502	203,110
未払委託者報酬	13,368,328	9,749,721
その他未払費用	559,765	442,386
流動負債合計	359,791,923	254,355,820
負債合計	359,791,923	254,355,820
純資産の部		
元本等		
元本	¹ 15,079,927,644	¹ 13,463,835,902
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	² 3,440,644,055	² 3,849,830,552
元本等合計	11,639,283,589	9,614,005,350
純資産合計	11,639,283,589	9,614,005,350
負債純資産合計	11,999,075,512	9,868,361,170

(2) 【損益及び剰余金計算書】

(単位：円)

	前 期		当 期	
	自	平成29年3月8日	自	平成29年9月8日
	至	平成29年9月7日	至	平成30年3月7日
営業収益				
受取配当金		673,589,020		542,410,095
有価証券売買等損益		898,631,766		55,567,726
営業収益合計		225,042,746		486,842,369
営業費用				
支払利息		90,850		46,465
受託者報酬		1,866,135		1,474,888
委託者報酬		89,576,549		70,796,698
その他費用		560,873		442,386
営業費用合計		92,094,407		72,760,437
営業利益又は営業損失（ ）		317,137,153		414,081,932
経常利益又は経常損失（ ）		317,137,153		414,081,932
当期純利益又は当期純損失（ ）		317,137,153		414,081,932
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額（ ）		9,882,651		26,103,180
期首剰余金又は期首欠損金（ ）		1,909,228,875		3,440,644,055
剰余金増加額又は欠損金減少額		777,019,473		660,417,942
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額		777,019,473		660,417,942
剰余金減少額又は欠損金増加額		412,946,068		294,070,473
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額		412,946,068		294,070,473
分配金	1	1,588,234,083	1	1,163,512,718
期末剰余金又は期末欠損金（ ）		3,440,644,055		3,849,830,552

(3) 【注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

区 分	当 期	
	自 平成29年9月8日	至 平成30年3月7日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>(1)投資信託受益証券</p> <p>移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。</p> <p>時価評価にあたっては、投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。</p> <p>なお、適正な評価額を入手できなかった場合又は入手した評価額が時価と認定できない事由が認められた場合は、委託会社が忠実義務に基づいて合理的な事由をもって時価と認めた価額又は受託会社と協議のうえ両者が合理的な事由をもって時価と認めた価額で評価しております。</p> <p>(2)親投資信託受益証券</p> <p>移動平均法に基づき、時価で評価しております。</p> <p>時価評価にあたっては、親投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。</p>	
2. 収益及び費用の計上基準	<p>受取配当金</p> <p>原則として、投資信託受益証券の配当落ち日において、確定配当金額を計上しております。</p>	

(貸借対照表に関する注記)

区 分	前 期	当 期
	平成29年9月7日現在	平成30年3月7日現在
1. 1 期首元本額	16,819,791,065円	15,079,927,644円
期中追加設定元本額	2,519,686,459円	1,399,027,490円
期中一部解約元本額	4,259,549,880円	3,015,119,232円
2. 特定期間末日における受益権の総数	15,079,927,644口	13,463,835,902口

3. 2 元本の欠損	貸借対照表上の純資産額が元本総額を下回っており、その差額は3,440,644,055円であります。	貸借対照表上の純資産額が元本総額を下回っており、その差額は3,849,830,552円であります。
------------	---	---

(損益及び剰余金計算書に関する注記)

区 分	前 期 自 平成29年3月8日 至 平成29年9月7日	当 期 自 平成29年9月8日 至 平成30年3月7日
	1 分配金の計算過程	<p>(自平成29年3月8日 至平成29年4月7日)</p> <p>計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額(102,204,098円)、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額(0円)、投資信託約款に規定される収益調整金(5,138,872,342円)及び分配準備積立金(0円)より分配対象額は5,241,076,440円(1万口当たり3,050.29円)であり、うち343,645,004円(1万口当たり200円)を分配金額としております。</p>

(自平成29年4月8日 至平成29年5月8日)

計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額(112,374,384円)、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額(0円)、投資信託約款に規定される収益調整金(4,883,252,398円)及び分配準備積立金(0円)より分配対象額は4,995,626,782円(1万口当たり2,916.17円)であり、うち342,616,095円(1万口当たり200円)を分配金額としております。

(自平成29年5月9日 至平成29年6月7日)

計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額(94,912,853円)、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額(0円)、投資信託約款に規定される収益調整金(4,721,587,315円)及び分配準備積立金(0円)より分配対象額は4,816,500,168円(1万口当たり2,771.79円)であり、うち243,276,377円(1万口当たり140円)を分配金額としております。

(自平成29年10月11日 至平成29年11月7日)

計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額(78,028,018円)、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額(0円)、投資信託約款に規定される収益調整金(3,278,550,569円)及び分配準備積立金(0円)より分配対象額は3,356,578,587円(1万口当たり2,369.44円)であり、うち198,326,120円(1万口当たり140円)を分配金額としております。

(自平成29年11月8日 至平成29年12月7日)

計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額(80,446,887円)、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額(0円)、投資信託約款に規定される収益調整金(3,109,144,511円)及び分配準備積立金(0円)より分配対象額は3,189,591,398円(1万口当たり2,287.52円)であり、うち195,208,361円(1万口当たり140円)を分配金額としております。

(自平成29年6月8日 至平成29年7月7日)

計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額(105,612,111円)、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額(0円)、投資信託約款に規定される収益調整金(4,287,147,338円)及び分配準備積立金(0円)より分配対象額は4,392,759,449円(1万口当たり2,696.96円)であり、うち228,029,296円(1万口当たり140円)を分配金額としております。

(自平成29年7月8日 至平成29年8月7日)

計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額(87,238,133円)、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額(0円)、投資信託約款に規定される収益調整金(4,010,110,528円)及び分配準備積立金(0円)より分配対象額は4,097,348,661円(1万口当たり2,612.77円)であり、うち219,548,324円(1万口当たり140円)を分配金額としております。

(自平成29年12月8日 至平成30年1月9日)

計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額(84,875,050円)、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額(0円)、投資信託約款に規定される収益調整金(2,944,738,829円)及び分配準備積立金(0円)より分配対象額は3,029,613,879円(1万口当たり2,210.52円)であり、うち191,875,927円(1万口当たり140円)を分配金額としております。

(自平成30年1月10日 至平成30年2月7日)

計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額(74,824,024円)、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額(0円)、投資信託約款に規定される収益調整金(2,806,838,496円)及び分配準備積立金(0円)より分配対象額は2,881,662,520円(1万口当たり2,126.71円)であり、うち189,698,065円(1万口当たり140円)を分配金額としております。

	<p>(自平成29年8月8日 至平成29年9月7日)</p> <p>計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額(88,077,543円)、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額(0円)、投資信託約款に規定される収益調整金(3,729,116,659円)及び分配準備積立金(0円)より分配対象額は3,817,194,202円(1万口当たり2,531.31円)であり、うち211,118,987円(1万口当たり140円)を分配金額としております。</p>	<p>(自平成30年2月8日 至平成30年3月7日)</p> <p>計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額(75,804,135円)、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額(0円)、投資信託約款に規定される収益調整金(2,675,277,046円)及び分配準備積立金(0円)より分配対象額は2,751,081,181円(1万口当たり2,043.31円)であり、うち188,493,702円(1万口当たり140円)を分配金額としております。</p>
--	--	--

(金融商品に関する注記)

金融商品の状況に関する事項

区 分	当 期 自 平成29年9月8日 至 平成30年3月7日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、「投資信託及び投資法人に関する法律」第2条第4項に定める証券投資信託であり、投資信託約款に規定する「運用の基本方針」に従っております。
2. 金融商品の内容及びリスク	当ファンドが保有する金融商品の種類は、有価証券、金銭債権及び金銭債務等であり、その詳細を附属明細表に記載しております。なお、当ファンドは、投資信託受益証券及び親投資信託受益証券を通じて有価証券、デリバティブ取引に投資しております。これらの金融商品に係るリスクは、市場リスク(価格変動、為替変動、金利変動等)、信用リスク、流動性リスクであります。
3. 金融商品に係るリスク管理体制	複数の部署と会議体が連携する組織的な体制によりリスク管理を行っております。信託財産全体としてのリスク管理を金融商品、リスクの種類毎に行っております。

4. 金融商品の時価等に関する事項 についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては、一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等に拠った場合、当該価額が異なることもあります。
--------------------------------	--

金融商品の時価等に関する事項

区 分	当 期
	平成30年3月7日現在
1. 金融商品の時価及び貸借対照表 計上額との差額	金融商品はすべて時価で計上されているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2. 金融商品の時価の算定方法	(1)有価証券 重要な会計方針に係る事項に関する注記に記載しております。 (2)コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務等 これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。

（有価証券に関する注記）

売買目的有価証券

種 類	前 期	当 期
	平成29年9月7日現在	平成30年3月7日現在
	最終の計算期間の損益に 含まれた評価差額（円）	最終の計算期間の損益に 含まれた評価差額（円）
投資信託受益証券	258,075,807	148,315,833
親投資信託受益証券	0	0
合計	258,075,807	148,315,833

（デリバティブ取引に関する注記）

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

前 期	当 期
平成29年9月7日現在	平成30年3月7日現在
該当事項はありません。	該当事項はありません。

（関連当事者との取引に関する注記）

当 期
自 平成29年9月8日
至 平成30年3月7日
市場価格その他当該取引に係る価格を勘案して、一般の取引条件と異なる関連当事者との取引は行なわれていないため、該当事項はありません。

（1口当たり情報）

	前 期 平成29年9月7日現在	当 期 平成30年3月7日現在
1口当たり純資産額 (1万口当たり純資産額)	0.7718円 (7,718円)	0.7141円 (7,141円)

(4) 【附属明細表】

第1 有価証券明細表

(1) 株式

該当事項はありません。

(2) 株式以外の有価証券

種 類	銘 柄	券面総額	評価額 (円)	備考
投資信託受益証券	CROCI US STRATEGY FUND USD CLASS	73,021,711.790	9,489,755,620	
投資信託受益証券 合計			9,489,755,620	
親投資信託受益証券	ダイワ・マネー・マザーファンド	12,784	13,023	
親投資信託受益証券 合計			13,023	
合計			9,489,768,643	

投資信託受益証券及び親投資信託受益証券における券面総額欄の数値は、証券数を表示しております。

第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

（参考）

当ファンドは、ケイマン籍の外国投資信託「オージェンタム・トラスト・クロッキーUSストラテジー・ファンド（米ドル・クラス）」受益証券（円建）を主要投資対象としており、貸借対照表の資産の部に計上された「投資信託受益証券」は、すべて同ファンドの受益証券であります。

また、当ファンドは、「ダイワ・マネー・マザーファンド」受益証券を主要投資対象としており、貸借対照表の資産の部に計上された「親投資信託受益証券」は、すべて同マザーファンドの受益証券であります。

なお、同ファンドの状況及び当ファンドの特定期間末日（以下、「期末日」）における同マザーファンドの状況は次のとおりであります。

「オージェンタム・トラスト - クロッキーUSストラテジー・ファンド(米ドル・クラス)」の状況

前記「ダイワ米国株ストラテジー (通貨選択型) - トリプルリターンズ - 日本円・コース(毎月分配型)」に記載のとおりであります。

「ダイワ・マネー・マザーファンド」の状況

前記「ダイワ米国株ストラテジー (通貨選択型) - トリプルリターンズ - 日本円・コース(毎月分配型)」に記載のとおりであります。

【ダイワ米国株ストラテジー（通貨選択型） - トリプルリターンズ - 通貨セレクト・コース（毎月分配型）】

(1) 当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）並びに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）に基づいて作成しております。

なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。

(2) 当ファンドの計算期間は6か月未満であるため、財務諸表は6か月毎に作成しております。

(3) 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当特定期間（平成29年9月8日から平成30年3月7日まで）の財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人により監査を受けております。

1【財務諸表】

ダイワ米国株ストラテジー（通貨選択型） - トリプルリターンズ - 通貨セレクト・コース（毎月分配型）

(1)【貸借対照表】

（単位：円）

	前 期 平成29年9月7日現在	当 期 平成30年3月7日現在
資産の部		
流動資産		
コール・ローン	11,664,382	14,219,358
投資信託受益証券	326,981,861	343,686,074
親投資信託受益証券	100,039	100,009
流動資産合計	338,746,282	358,005,441
資産合計	338,746,282	358,005,441
負債の部		
流動負債		
未払収益分配金	6,934,136	5,559,826
未払解約金	-	4,416,287
未払受託者報酬	7,510	7,570
未払委託者報酬	360,873	363,633
その他未払費用	12,261	14,349
流動負債合計	7,314,780	10,361,665
負債合計	7,314,780	10,361,665
純資産の部		
元本等		
元本	¹ 693,413,613	¹ 794,260,999
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	² 361,982,111	² 446,617,223
元本等合計	331,431,502	347,643,776
純資産合計	331,431,502	347,643,776
負債純資産合計	338,746,282	358,005,441

(2) 【損益及び剰余金計算書】

(単位：円)

	前 期		当 期	
	自	平成29年3月8日 至 平成29年9月7日	自	平成29年9月8日 至 平成30年3月7日
営業収益				
受取配当金		24,629,740		28,214,933
有価証券売買等損益		13,390,483		18,510,750
営業収益合計		11,239,257		9,704,183
営業費用				
支払利息		2,279		1,993
受託者報酬		41,118		48,071
委託者報酬		1,975,824		2,309,805
その他費用		12,289		14,349
営業費用合計		2,031,510		2,374,218
営業利益		9,207,747		7,329,965
経常利益		9,207,747		7,329,965
当期純利益		9,207,747		7,329,965
一部解約に伴う当期純損失金額の分配額()		581,978		185,496
期首剰余金又は期首欠損金()		285,772,341		361,982,111
剰余金増加額又は欠損金減少額		55,335,023		77,445,827
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額		55,335,023		77,445,827
剰余金減少額又は欠損金増加額		104,366,942		128,866,854
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額		104,366,942		128,866,854
分配金		1 36,967,576		1 40,729,546
期末剰余金又は期末欠損金()		361,982,111		446,617,223

(3) 【注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

区 分	当 期	
	自 平成29年9月8日	至 平成30年3月7日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>(1)投資信託受益証券</p> <p>移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。</p> <p>時価評価にあたっては、投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。</p> <p>なお、適正な評価額を入手できなかった場合又は入手した評価額が時価と認定できない事由が認められた場合は、委託会社が忠実義務に基づいて合理的な事由をもって時価と認めた価額又は受託会社と協議のうえ両者が合理的な事由をもって時価と認めた価額で評価しております。</p> <p>(2)親投資信託受益証券</p> <p>移動平均法に基づき、時価で評価しております。</p> <p>時価評価にあたっては、親投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。</p>	
2. 収益及び費用の計上基準	<p>受取配当金</p> <p>原則として、投資信託受益証券の配当落ち日において、確定配当金額を計上しております。</p>	

(貸借対照表に関する注記)

区 分	前 期	当 期
	平成29年9月7日現在	平成30年3月7日現在
1. 1 期首元本額	598,103,899円	693,413,613円
期中追加設定元本額	206,636,250円	245,496,020円
期中一部解約元本額	111,326,536円	144,648,634円
2. 特定期間末日における受益権の総数	693,413,613口	794,260,999口

3. 2 元本の欠損	貸借対照表上の純資産額が元本総額を下回っており、その差額は361,982,111円でありませす。	貸借対照表上の純資産額が元本総額を下回っており、その差額は446,617,223円でありませす。
------------	--	--

(損益及び剰余金計算書に関する注記)

区 分	前 期 自 平成29年3月8日 至 平成29年9月7日	当 期 自 平成29年9月8日 至 平成30年3月7日
1 分配金の計算過程	<p>(自平成29年3月8日 至平成29年4月7日)</p> <p>計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額(3,783,716円)、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額(0円)、投資信託約款に規定される収益調整金(54,703,019円)及び分配準備積立金(0円)より分配対象額は58,486,735円(1万口当たり1,003.71円)であり、うち5,827,077円(1万口当たり100円)を分配金額としております。</p>	<p>(自平成29年9月8日 至平成29年10月10日)</p> <p>計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額(4,026,237円)、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額(0円)、投資信託約款に規定される収益調整金(50,804,515円)及び分配準備積立金(0円)より分配対象額は54,830,752円(1万口当たり778.34円)であり、うち7,044,534円(1万口当たり100円)を分配金額としております。</p>

(自平成29年4月8日 至平成29年5月8日)

計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額(4,208,385円)、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額(0円)、投資信託約款に規定される収益調整金(50,287,799円)及び分配準備積立金(0円)より分配対象額は54,496,184円(1万口当たり979.34円)であり、うち5,564,571円(1万口当たり100円)を分配金額としております。

(自平成29年5月9日 至平成29年6月7日)

計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額(3,186,896円)、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額(0円)、投資信託約款に規定される収益調整金(49,882,954円)及び分配準備積立金(0円)より分配対象額は53,069,850円(1万口当たり936.80円)であり、うち5,664,992円(1万口当たり100円)を分配金額としております。

(自平成29年10月11日 至平成29年11月7日)

計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額(4,392,669円)、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額(0円)、投資信託約款に規定される収益調整金(47,709,170円)及び分配準備積立金(0円)より分配対象額は52,101,839円(1万口当たり741.81円)であり、うち7,023,588円(1万口当たり100円)を分配金額としております。

(自平成29年11月8日 至平成29年12月7日)

計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額(4,133,020円)、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額(0円)、投資信託約款に規定される収益調整金(45,354,113円)及び分配準備積立金(0円)より分配対象額は49,487,133円(1万口当たり700.59円)であり、うち7,063,648円(1万口当たり100円)を分配金額としております。

(自平成29年6月8日 至平成29年7月7日)

計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額(3,628,908円)、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額(0円)、投資信託約款に規定される収益調整金(52,789,756円)及び分配準備積立金(0円)より分配対象額は56,418,664円(1万口当たり900.41円)であり、うち6,265,870円(1万口当たり100円)を分配金額としております。

(自平成29年7月8日 至平成29年8月7日)

計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額(3,849,082円)、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額(0円)、投資信託約款に規定される収益調整金(53,967,087円)及び分配準備積立金(0円)より分配対象額は57,816,169円(1万口当たり861.52円)であり、うち6,710,930円(1万口当たり100円)を分配金額としております。

(自平成29年12月8日 至平成30年1月9日)

計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額(4,365,994円)、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額(0円)、投資信託約款に規定される収益調整金(49,082,501円)及び分配準備積立金(0円)より分配対象額は53,448,495円(1万口当たり658.58円)であり、うち8,115,748円(1万口当たり100円)を分配金額としております。

(自平成30年1月10日 至平成30年2月7日)

計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額(4,783,197円)、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額(0円)、投資信託約款に規定される収益調整金(47,383,978円)及び分配準備積立金(0円)より分配対象額は52,167,175円(1万口当たり616.61円)であり、うち5,922,202円(1万口当たり70円)を分配金額としております。

	<p>(自平成29年8月8日 至平成29年9月7日)</p> <p>計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額(3,916,273円)、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額(0円)、投資信託約款に規定される収益調整金(52,915,009円)及び分配準備積立金(0円)より分配対象額は56,831,282円(1万口当たり819.59円)であり、うち6,934,136円(1万口当たり100円)を分配金額としております。</p>	<p>(自平成30年2月8日 至平成30年3月7日)</p> <p>計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額(4,249,501円)、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額(0円)、投資信託約款に規定される収益調整金(43,416,206円)及び分配準備積立金(0円)より分配対象額は47,665,707円(1万口当たり600.13円)であり、うち5,559,826円(1万口当たり70円)を分配金額としております。</p>
--	---	--

(金融商品に関する注記)

金融商品の状況に関する事項

区 分	当 期 自 平成29年9月8日 至 平成30年3月7日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、「投資信託及び投資法人に関する法律」第2条第4項に定める証券投資信託であり、投資信託約款に規定する「運用の基本方針」に従っております。
2. 金融商品の内容及びリスク	当ファンドが保有する金融商品の種類は、有価証券、金銭債権及び金銭債務等であり、その詳細を附属明細表に記載しております。なお、当ファンドは、投資信託受益証券及び親投資信託受益証券を通じて有価証券、デリバティブ取引に投資しております。これらの金融商品に係るリスクは、市場リスク(価格変動、為替変動、金利変動等)、信用リスク、流動性リスクであります。
3. 金融商品に係るリスク管理体制	複数の部署と会議体が連携する組織的な体制によりリスク管理を行っております。信託財産全体としてのリスク管理を金融商品、リスクの種類毎に行っております。

4. 金融商品の時価等に関する事項 についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては、一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等に拠った場合、当該価額が異なることもあります。
--------------------------------	--

金融商品の時価等に関する事項

区 分	当 期
	平成30年3月7日現在
1. 金融商品の時価及び貸借対照表 計上額との差額	金融商品はすべて時価で計上されているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2. 金融商品の時価の算定方法	(1)有価証券 重要な会計方針に係る事項に関する注記に記載しております。 (2)コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務等 これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。

（有価証券に関する注記）

売買目的有価証券

種 類	前 期	当 期
	平成29年9月7日現在	平成30年3月7日現在
	最終の計算期間の損益に 含まれた評価差額（円）	最終の計算期間の損益に 含まれた評価差額（円）
投資信託受益証券	2,257,383	7,477,803
親投資信託受益証券	0	0
合計	2,257,383	7,477,803

（デリバティブ取引に関する注記）

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

前 期	当 期
平成29年9月7日現在	平成30年3月7日現在
該当事項はありません。	該当事項はありません。

（関連当事者との取引に関する注記）

当 期
自 平成29年9月8日
至 平成30年3月7日
市場価格その他当該取引に係る価格を勘案して、一般の取引条件と異なる関連当事者との取引は行なわれていないため、該当事項はありません。

（1口当たり情報）

	前 期 平成29年9月7日現在	当 期 平成30年3月7日現在
1口当たり純資産額 (1万口当たり純資産額)	0.4780円 (4,780円)	0.4377円 (4,377円)

(4) 【附属明細表】

第1 有価証券明細表

(1) 株式

該当事項はありません。

(2) 株式以外の有価証券

種 類	銘 柄	券面総額	評価額 (円)	備考
投資信託受益証券	CROCI US STRATEGY FUND CURRENCY SELECTION CLASS	7,357,711.760	343,686,074	
投資信託受益証券 合計			343,686,074	
親投資信託受益証券	ダイワ・マネー・マザーファンド	98,174	100,009	
親投資信託受益証券 合計			100,009	
合計			343,786,083	

投資信託受益証券及び親投資信託受益証券における券面総額欄の数値は、証券数を表示しております。

第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

（参考）

当ファンドは、ケイマン籍の外国投資信託「オージェンタム・トラスト・クロッキーUSストラテジー・ファンド（通貨セレクト・クラス）」受益証券（円建）を主要投資対象としており、貸借対照表の資産の部に計上された「投資信託受益証券」は、すべて同ファンドの受益証券であります。

また、当ファンドは、「ダイワ・マネー・マザーファンド」受益証券を主要投資対象としており、貸借対照表の資産の部に計上された「親投資信託受益証券」は、すべて同マザーファンドの受益証券であります。

なお、同ファンドの状況及び当ファンドの特定期間末日（以下、「期末日」）における同マザーファンドの状況は次のとおりであります。

「オージェンタム・トラスト - クロッキーUSストラテジー・ファンド（通貨セレクト・クラス）」の
状況

前記「ダイワ米国株ストラテジー（通貨選択型） - トリプルリターンズ - 日本円・コース（毎月
分配型）」に記載のとおりであります。

「ダイワ・マネー・マザーファンド」の状況

前記「ダイワ米国株ストラテジー（通貨選択型） - トリプルリターンズ - 日本円・コース（毎月
分配型）」に記載のとおりであります。

2 【ファンドの現況】

ダイワ米国株ストラテジー（通貨選択型） - トリプルリターンズ - 日本円・コース（毎月分配型）

【純資産額計算書】

平成30年3月30日

資産総額	738,176,577円
負債総額	859,550円
純資産総額（ - ）	737,317,027円
発行済数量	1,033,551,550口
1単位当たり純資産額（ / ）	0.7134円

(参考) ダイワ・マネー・マザーファンド

純資産額計算書

平成30年3月30日

資産総額	69,322,701,924円
負債総額	112,960円
純資産総額（ - ）	69,322,588,964円
発行済数量	68,053,412,376口
1単位当たり純資産額（ / ）	1.0186円

ダイワ米国株ストラテジー（通貨選択型） - トリプルリターンズ - 豪ドル・コース（毎月分配型）

純資産額計算書

平成30年3月30日

資産総額	3,322,301,931円
負債総額	17,505,639円
純資産総額（ - ）	3,304,796,292円
発行済数量	6,473,888,825口
1単位当たり純資産額（ / ）	0.5105円

(参考) ダイワ・マネー・マザーファンド

前記「ダイワ米国株ストラテジー（通貨選択型） - トリプルリターンズ - 日本円・コース（毎月分配型）」の記載と同じ。

ダイワ米国株ストラテジー (通貨選択型) - トリプルリターンズ - ブラジル・リアル・コース(毎月分配型)

純資産額計算書

平成30年3月30日

資産総額	68,728,703,513円
負債総額	173,232,734円
純資産総額(-)	68,555,470,779円
発行済数量	178,859,138,380口
1単位当たり純資産額(/)	0.3833円

(参考) ダイワ・マネー・マザーファンド

前記「ダイワ米国株ストラテジー (通貨選択型) - トリプルリターンズ - 日本円・コース(毎月分配型)」の記載と同じ。

ダイワ米国株ストラテジー (通貨選択型) - トリプルリターンズ - 米ドル・コース(毎月分配型)

純資産額計算書

平成30年3月30日

資産総額	9,391,648,442円
負債総額	12,379,648円
純資産総額(-)	9,379,268,794円
発行済数量	13,410,591,231口
1単位当たり純資産額(/)	0.6994円

(参考) ダイワ・マネー・マザーファンド

前記「ダイワ米国株ストラテジー (通貨選択型) - トリプルリターンズ - 日本円・コース(毎月分配型)」の記載と同じ。

ダイワ米国株ストラテジー (通貨選択型) - トリプルリターンズ - 通貨セレクト・コース(毎月分配型)

純資産額計算書

平成30年3月30日

資産総額	329,354,394円
負債総額	562,225円
純資産総額(-)	328,792,169円

発行済数量	768,378,006口
1単位当たり純資産額（ / ）	0.4279円

(参考) ダイワ・マネー・マザーファンド

前記「ダイワ米国株ストラテジー（通貨選択型） - トリプルリターンズ - 日本円・コース（毎月分配型）」の記載と同じ。

第4 【内国投資信託受益証券事務の概要】

(1) 名義書換えの手続き等
該当事項はありません。

(2) 受益者に対する特典
ありません。

(3) 譲渡制限の内容
譲渡制限はありません。

(4) 受益証券の再発行

受益者は、委託会社がやむを得ない事情等により受益証券を発行する場合を除き、無記名式受益証券から記名式受益証券への変更の請求、記名式受益証券から無記名式受益証券への変更の請求、受益証券の再発行の請求を行なわないものとします。

(5) 受益権の譲渡

受益者は、その保有する受益権を譲渡する場合には、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿にかかる振替機関等に振替の申請をするものとします。

上記の申請のある場合には、上記の振替機関等は、当該譲渡にかかる譲渡人の保有する受益権の口数の減少および譲受人の保有する受益権の口数の増加につき、その備える振替口座簿に記載または記録するものとします。ただし、上記の振替機関等が振替先口座を開設したものでない場合には、譲受人の振替先口座を開設した他の振替機関等（当該他の振替機関等の上位機関を含みます。）に社振法の規定にしたがい、譲受人の振替先口座に受益権の口数の増加の記載または記録が行なわれるよう通知するものとします。

上記の振替について、委託会社は、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿にかかる振替機関等と譲受人の振替先口座を開設した振替機関等が異なる場合等において、委託会社が必要と認めるときまたはやむを得ない事情があると判断したときは、振替停止日や振替停止期間を設けることができます。

(6) 受益権の譲渡の対抗要件

受益権の譲渡は、振替口座簿への記載または記録によらなければ、委託会社および受託会社に対抗することができません。

(7) 受益権の再分割

委託会社は、受託会社と協議のうえ、社振法に定めるところにしたがい、一定日現在の受益権を均等に再分割できるものとします。

受益権の再分割を行なうにあたり、各受益者が保有する受益権口数に1口未満の端数が生じることとなる場合には、当該端数を切り捨てるものとし、当該端数処理は口座管理機関ごとに行ないます。また、各受益者が保有することとなる受益権口数の合計数と、受益権の再分割の比率に基づき委託会社が計算する受益権口数の合計数との間に差が生じることとなる場合には、委託会社が計算する受益権口数を当該差分減らし、当該口数にかかる金額については益金として計上することとします。

(8) 償還金

償還金は、償還日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（償還日以前において一部解約が行なわれた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該償還日以前に設定された

受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者としてします。)に支払います。

(9) 質権口記載または記録の受益権の取扱いについて

振替機関等の振替口座簿の質権口に記載または記録されている受益権にかかる収益分配金の支払い、一部解約の実行の請求の受付け、一部解約金および償還金の支払い等については、約款の規定によるほか、民法その他の法令等にしたがって取扱われます。

第二部 【委託会社等の情報】

第1 【委託会社等の概況】

1 【委託会社等の概況】

a. 資本金の額

2018年3月末日現在

資本金の額 151億7,427万2,500円

発行可能株式総数 799万9,980株

発行済株式総数 260万8,525株

過去5年間における資本金の額の増減：該当事項はありません。

b. 委託会社の機構

会社の意思決定機構

業務執行上重要な事項は、取締役会の決議をもって決定します。取締役は、株主総会において選任され、その任期は選任後1年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結のときまでです。

取締役会は、4名以内の代表取締役を選定し、代表取締役は、会社を代表し、取締役会の決議にしたがい業務を執行します。

また、取締役、役付執行役員等から構成される経営会議は、経営全般にかかる基本的事項を審議し、決定します。経営会議は、分科会を設置し、専門的な事項についてはその権限を委ねることができます。

投資運用の意思決定機構

投資運用の意思決定機構の概要は、以下のとおりとなっています。

イ. ファンド個別会議

ファンド運営上の諸方針を記載した基本計画書を経営会議の分科会であるファンド個別会議において審議・決定します。

ロ. 投資環境検討会

運用最高責任者であるCIO (Chief Investment Officer) が議長となり、原則として月1回投資環境検討会を開催し、投資環境について検討します。

ハ. 運用会議

CIOが議長となり、原則として月1回運用会議を開催し、基本的な運用方針を決定します。

ニ. 運用部長・ファンドマネージャー

ファンドマネージャーは、基本計画書に定められた各ファンドの諸方針と運用会議で決定された基本的な運用方針にしたがって運用計画書を作成します。運用部長は、ファンドマネージャーから提示を受けた運用計画書について、基本計画書および運用会議の決定事項との整合性等を確認し、承認します。

ホ. ファンド評価会議、運用審査会議、リスクマネジメント会議および執行役員会議

・ファンド評価会議

運用実績・運用リスクの状況について、分析・検討を行ない、運用部にフィードバックします。

・運用審査会議

経営会議の分科会として、ファンドの運用実績の状況についての報告を行ない、必要事項を審議・決定します。

・リスクマネジメント会議

経営会議の分科会として、ファンドの運用リスクの状況・運用リスク管理等の状況についての報告を行ない、必要事項を審議・決定します。

・執行役員会議

経営会議の分科会として、法令等の遵守状況についての報告を行ない、必要事項を審議・決定します。

2 【事業の内容及び営業の概況】

委託会社は、「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社として、証券投資信託の設定を行なうとともに「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者としてその運用（投資運用業）を行なっています。また「金融商品取引法」に定める投資助言業務等の関連する業務を行なっています。

2018年3月末日現在、委託会社が運用を行なっている投資信託（親投資信託を除きます。）は次のとおりです。

基本的性格	本数（本）	純資産額の合計額（百万円）
単位型株式投資信託	81	194,879
追加型株式投資信託	701	14,968,640
株式投資信託 合計	782	15,163,519
単位型公社債投資信託	24	102,614
追加型公社債投資信託	14	1,465,034
公社債投資信託 合計	38	1,567,648
総合計	820	16,731,166

3 【委託会社等の経理状況】

1. 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。）並びに同規則第2条の規定に基づき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年8月6日内閣府令第52号）に基づいて作成しております。

また、当社の中間財務諸表は、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和52年大蔵省令第38号。以下「中間財務諸表等規則」という。）並びに同規則第38条及び第57条の規定により、「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年8月6日内閣府令第52号）に基づいて作成しております。

2. 当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第58期事業年度（平成28年4月1日から平成29年3月31日まで）の財務諸表についての監査を、有限責任 あずさ監査法人により受けております。

また、第59期事業年度に係る中間会計期間（平成29年4月1日から平成29年9月30日まで）の中間財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人により中間監査を受けております。

3. 財務諸表及び中間財務諸表の記載金額は、百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

(1) 【貸借対照表】

(単位:百万円)

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当事業年度 (平成29年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金・預金	31,715	31,260
有価証券	1,137	110
前払費用	159	190
未収委託者報酬	9,896	10,453
未収収益	87	72
繰延税金資産	468	439
その他	83	34
流動資産計	43,547	42,560
固定資産		
有形固定資産	1	229
建物	18	15
器具備品	224	214
無形固定資産	2,706	2,650
ソフトウェア	2,385	2,323
ソフトウェア仮勘定	321	327
投資その他の資産	14,223	12,353

投資有価証券	7,872	5,920
関係会社株式	5,129	5,129
出資金	123	185
長期差入保証金	1,049	1,050
繰延税金資産	-	31
その他	47	37
固定資産計	17,173	15,234
資産合計	60,720	57,795

(単位:百万円)

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当事業年度 (平成29年3月31日)
負債の部		
流動負債		
預り金	61	79
未払金	8,789	9,466
未払収益分配金	5	7
未払償還金	63	59
未払手数料	4,330	4,453
その他未払金	2 4,390	2 4,946
未払費用	4,215	4,077
未払法人税等	1,155	980
未払消費税等	538	223
賞与引当金	937	945
その他	22	3
流動負債計	15,720	15,776
固定負債		
退職給付引当金	2,209	2,318
役員退職慰労引当金	93	151
繰延税金負債	1,410	-
その他	-	7
固定負債計	3,714	2,477
負債合計	19,435	18,254
純資産の部		
株主資本		
資本金	15,174	15,174
資本剰余金		

資本準備金	11,495	11,495
資本剰余金合計	11,495	11,495
利益剰余金		
利益準備金	374	374
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	13,960	12,231
利益剰余金合計	14,334	12,606
株主資本合計	41,004	39,276
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	280	264
評価・換算差額等合計	280	264
純資産合計	41,284	39,540
負債・純資産合計	60,720	57,795

(2) 【損益計算書】

(単位:百万円)

	前事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
営業収益		
委託者報酬	88,850	79,747
その他営業収益	799	727
営業収益計	89,650	80,474
営業費用		
支払手数料	46,165	40,110
広告宣伝費	646	549
調査費	10,116	9,436
調査費	925	904
委託調査費	9,191	8,531
委託計算費	761	793
営業雑経費	1,346	1,375
通信費	249	251
印刷費	515	501
協会費	53	50
諸会費	14	13
その他営業雑経費	513	557
営業費用計	59,036	52,265
一般管理費		
給料	5,797	5,833

役員報酬	354	416
給料・手当	3,850	3,940
賞与	654	531
賞与引当金繰入額	937	945
福利厚生費	837	807
交際費	70	60
旅費交通費	211	178
租税公課	325	531
不動産賃借料	1,258	1,273
退職給付費用	394	463
役員退職慰労引当金繰入額	37	60
固定資産減価償却費	1,110	1,045
諸経費	1,486	1,400
一般管理費計	11,531	11,655
営業利益	19,082	16,554

(単位:百万円)

	前事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
営業外収益		
受取配当金	109	92
受取利息	25	12
投資有価証券売却益	115	224
有価証券償還益	0	94
外国税関連費用引当金戻入益	171	-
その他	72	56
営業外収益計	496	481
営業外費用		
投資有価証券売却損	14	24
その他	94	75
営業外費用計	108	100
経常利益	19,471	16,935
特別損失		
MMF等償還関連費用	-	305
特別損失計	-	305
税引前当期純利益	19,471	16,629
法人税、住民税及び事業税	6,215	6,501
法人税等調整額	6	1,405

法人税等合計	6,209	5,096
当期純利益	13,262	11,533

(3) 【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日）

（単位：百万円）

	株主資本					株主資本合計
	資本金	資本剰余金 資本準備金	利益剰余金 利益準備金	利益剰余金		
				その他利益 剰余金 繰越利益 剰余金	利益剰余金 合計	
当期首残高	15,174	11,495	374	14,126	14,501	41,171
当期変動額						
剰余金の配当	-	-	-	13,428	13,428	13,428
当期純利益	-	-	-	13,262	13,262	13,262
株主資本以外の 項目の当期変動 額（純額）	-	-	-	-	-	-
当期変動額合計	-	-	-	166	166	166
当期末残高	15,174	11,495	374	13,960	14,334	41,004

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価 証券評価 差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	702	702	41,873
当期変動額			
剰余金の配当	-	-	13,428
当期純利益	-	-	13,262
株主資本以外の 項目の当期変動 額（純額）	422	422	422
当期変動額合計	422	422	589
当期末残高	280	280	41,284

当事業年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

（単位：百万円）

	株主資本					
	資本金	資本剰余金	利益剰余金			株主資本合計
		資本準備金	利益準備金	その他利益 剰余金 繰越利益 剰余金	利益剰余金 合計	
当期首残高	15,174	11,495	374	13,960	14,334	41,004
当期変動額						
剰余金の配当	-	-	-	13,261	13,261	13,261
当期純利益	-	-	-	11,533	11,533	11,533
株主資本以外の 項目の当期変動 額（純額）	-	-	-	-	-	-
当期変動額合計	-	-	-	1,728	1,728	1,728
当期末残高	15,174	11,495	374	12,231	12,606	39,276

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価 証券評価 差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	280	280	41,284
当期変動額			
剰余金の配当	-	-	13,261
当期純利益	-	-	11,533
株主資本以外の 項目の当期変動 額（純額）	15	15	15
当期変動額合計	15	15	1,743
当期末残高	264	264	39,540

注記事項

（重要な会計方針）

1．有価証券の評価基準及び評価方法

（1）子会社株式

移動平均法による原価法により計上しております。

（2） 其他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）を採用しております。

時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

2． 固定資産の減価償却の方法

（1） 有形固定資産

定額法によっております。

なお、主な耐用年数は以下の通りであります。

建物	10～18年
器具備品	4～20年

（2） 無形固定資産

定額法によっております。なお、自社利用のソフトウェアについては社内における利用可能期間（5年間）に基づく定額法によっております。

3． 引当金の計上基準

（1） 賞与引当金

役員及び従業員に対する賞与の支給に備えるため、支給見込額を計上しております。

（2） 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当社の退職金規程に基づく当事業年度末要支給額を計上しております。これは、当社の退職金は、将来の昇給等による給付額の変動がなく、貢献度、能力及び実績等に応じて各事業年度毎に各人別の勤務費用が確定するためであります。また、執行役員・参与についても、当社の退職金規程に基づく当事業年度末要支給額を計上しております。

（3） 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支給に備えるため、当社の役員退職慰労金規程に基づく当事業年度末要支給額を計上しております。

4． 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっております。

5． 連結納税制度の適用

連結納税制度を適用しております。

（表示方法の変更）

（損益計算書）

前事業年度において、「営業外収益」の「その他」に含めておりました「有価証券償還益」は、営業外収益の総額の100分の10を超えたため、当事業年度より独立掲記することとしております。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の財務諸表において、「営業外収益」の「その他」に表示していた73百万円は、「有価証券償還益」0百万円、「その他」72百万円として組替えております。

（追加情報）

「繰延税金資産の回収可能性に関する摘要指針（企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日）」を当期から適用しております。

（貸借対照表関係）

1 有形固定資産の減価償却累計額

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当事業年度 (平成29年3月31日)
建物	23百万円	26百万円
器具備品	232百万円	264百万円

2 関係会社項目

関係会社に対する資産及び負債には区分掲記されたもののほか次のものがあります。

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当事業年度 (平成29年3月31日)
未払金	4,320百万円	4,877百万円

3 保証債務

前事業年度（平成28年3月31日）

子会社であるDaiwa Asset Management(Singapore)Ltd.の債務1,749百万円に対して保証を行っております。

当事業年度（平成29年3月31日）

子会社であるDaiwa Asset Management(Singapore)Ltd.の債務1,685百万円に対して保証を行っております。

（株主資本等変動計算書関係）

前事業年度（自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

（単位：千株）

	当事業年度期首 株式数	当事業年度 増加株式数	当事業年度 減少株式数	当事業年度末 株式数
発行済株式				
普通株式	2,608	-	-	2,608
合計	2,608	-	-	2,608

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	剰余金の配当の総額（百万円）	1株当たり配当額（円）	基準日	効力発生日
平成27年6月23日 定時株主総会	普通株式	13,428	5,148	平成27年 3月31日	平成27年 6月24日

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

平成28年6月23日開催の定時株主総会の議案として、普通株式の配当に関する事項を次のとおり提案しております。

剰余金の配当の総額	13,262百万円
配当の原資	利益剰余金
1株当たり配当額	5,084円
基準日	平成28年3月31日
効力発生日	平成28年6月24日

当事業年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

（単位：千株）

	当事業年度期首 株式数	当事業年度 増加株式数	当事業年度 減少株式数	当事業年度末 株式数
発行済株式				
普通株式	2,608	-	-	2,608
合計	2,608	-	-	2,608

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	剰余金の配当の総額（百万円）	1株当たり配当額（円）	基準日	効力発生日
平成28年6月23日 定時株主総会	普通株式	13,261	5,084	平成28年 3月31日	平成28年 6月24日

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

平成29年6月26日開催の定時株主総会の議案として、普通株式の配当に関する事項を次のとおり提案しております。

剰余金の配当の総額	11,532百万円
配当の原資	利益剰余金
1株当たり配当額	4,421円
基準日	平成29年3月31日
効力発生日	平成29年6月27日

（金融商品関係）

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は、投資運用業及び投資助言・代理業などの資産運用に関する事業を行っております。資金運用については安全性の高い金融商品に限定しております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

証券投資信託に係る運用報酬の未決済額である未収委託者報酬は、運用するファンドの財産が信託されており、「投資信託及び投資法人に関する法律」、その他関係法令等により一定の制限が設けられているためリスクは極めて軽微であります。有価証券及び投資有価証券は、証券投資信託、株式であります。証券投資信託は余資運用及び事業推進目的で保有しており、価格変動リスク及び為替変動リスクに晒されております。株式は上場株式、非上場株式並びに子会社株式を保有しており、上場株式は価格変動リスク及び発行体の信用リスクに、非上場株式及び子会社株式は発行体の信用リスクに晒されております。

未払手数料は証券投資信託の販売に係る手数料の未払額であります。その他未払金は主に連結納税の親会社へ支払う法人税の未払額であります。未払費用は主にファンド運用に係る業務を委託したこと等により発生する費用の未払額であります。これらは、そのほとんどが1年以内の支払期日であります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

市場リスクの管理

() 為替変動リスクの管理

当社は、財務リスク管理規程に従い、個別の案件ごとに為替変動リスク管理の検討を行っております。

() 価格変動リスクの管理

当社は、財務リスク管理規程に従い、個別の案件ごとに価格変動リスク管理の検討を行っており、定期的に時価や発行体の財務状況等を把握しリスクマネジメント会議において報告を行っております。

信用リスクの管理

発行体の信用リスクは財務リスク管理規程に従い、定期的に財務状況等を把握しリスクマネジメント会議において報告を行っております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません（（注2）参照のこと）。

前事業年度（平成28年3月31日）

（単位：百万円）

	貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 現金・預金	31,715	31,715	-
(2) 未収委託者報酬	9,896	9,896	-
(3) 有価証券及び投資有価証券 その他有価証券	7,987	7,987	-
資産計	49,599	49,599	-
(1) 未払手数料	4,330	4,330	-
(2) その他未払金	4,390	4,390	-

(3) 未払費用(*)	3,420	3,420	-
負債計	12,141	12,141	-

(*) 未払費用のうち金融商品で時価開示の対象となるものを表示しております。

当事業年度(平成29年3月31日)

(単位:百万円)

	貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 現金・預金	31,260	31,260	-
(2) 未収委託者報酬	10,453	10,453	-
(3) 有価証券及び投資有価証券 その他有価証券	5,060	5,060	-
資産計	46,774	46,774	-
(1) 未払手数料	4,453	4,453	-
(2) その他未払金	4,946	4,946	-
(3) 未払費用(*)	3,409	3,409	-
負債計	12,809	12,809	-

(*) 未払費用のうち金融商品で時価開示の対象となるものを表示しております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法

資 産

(1) 現金・預金、並びに(2) 未収委託者報酬

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額とほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 有価証券及び投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっております。また、証券投資信託については、基準価額によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項(有価証券関係)をご参照下さい。

負 債

(1) 未払手数料、(2) その他未払金、並びに(3) 未払費用

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位:百万円)

区分	前事業年度 (平成28年3月31日)	当事業年度 (平成29年3月31日)
(1) その他有価証券 非上場株式	1,021	970
(2) 子会社株式及び関連会社株式 非上場株式	5,129	5,129
(3) 長期差入保証金	1,049	1,050

これらは、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積ることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるものであるため、時価開示の対象としておりません。

（注3）金銭債権及び満期がある有価証券の決算日後の償還予定額

前事業年度（平成28年3月31日）

（単位：百万円）

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金・預金	31,715	-	-	-
未収委託者報酬	9,896	-	-	-
有価証券及び投資有価証券 その他有価証券のうち満期があるもの	1,115	4,570	1,712	141
合計	42,727	4,570	1,712	141

当事業年度（平成29年3月31日）

（単位：百万円）

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金・預金	31,260	-	-	-
未収委託者報酬	10,453	-	-	-
有価証券及び投資有価証券 その他有価証券のうち満期があるもの	110	2,876	1,139	110
合計	41,824	2,876	1,139	110

（有価証券関係）

1．子会社株式及び関連会社株式

前事業年度（平成28年3月31日）

子会社株式（貸借対照表計上額 5,129百万円）は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

当事業年度（平成29年3月31日）

子会社株式（貸借対照表計上額 5,129百万円）は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

2．その他有価証券

前事業年度（平成28年3月31日）

	貸借対照表計上額 （百万円）	取得原価 （百万円）	差額 （百万円）
貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの （1）株式	141	55	86

(2) その他 証券投資信託	3,875	3,408	466
小計	4,016	3,463	553
貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの その他 証券投資信託	3,970	4,119	148
小計	3,970	4,119	148
合計	7,987	7,583	404

(注) 非上場株式(貸借対照表計上額 1,021百万円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

当事業年度(平成29年3月31日)

	貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの (1) 株式	122	55	67
(2) その他 証券投資信託	3,107	2,697	410
小計	3,230	2,752	478
貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの その他 証券投資信託	1,829	1,926	96
小計	1,829	1,926	96
合計	5,060	4,679	381

(注) 非上場株式(貸借対照表計上額 970百万円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

3. 売却したその他有価証券

前事業年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

種類	売却額 (百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
(1) 株式	3	-	0
(2) その他 証券投資信託	19,069	115	13
合計	19,072	115	14

当事業年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

種類	売却額 (百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
(1) 株式	50	-	1
(2) その他			

証券投資信託	4,371	224	23
合計	4,421	224	24

4. 減損処理を行った有価証券

前事業年度において、証券投資信託について4百万円の減損処理を行っております。
当事業年度において、該当事項はありません。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、非積立型の確定給付制度(退職一時金制度であります)及び確定拠出制度を採用していません。

2. 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

	前事業年度	当事業年度
	(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
退職給付債務の期首残高	2,072百万円	2,209百万円
勤務費用	222	202
退職給付の支払額	120	122
その他	35	29
退職給付債務の期末残高	2,209	2,318

(2) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金の調整表

	前事業年度	当事業年度
	(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
非積立型制度の退職給付債務	2,209百万円	2,318百万円
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	2,209	2,318
退職給付引当金	2,209	2,318
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	2,209	2,318

(3) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	前事業年度	当事業年度
	(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
勤務費用	222百万円	202百万円
その他	-	87
確定給付制度に係る退職給付費用	222	289

3. 確定拠出制度

当社の確定拠出制度への要拠出額は、前事業年度172百万円、当事業年度173百万円であります。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別内訳

(単位：百万円)

	前事業年度	当事業年度
	(平成28年3月31日)	(平成29年3月31日)
繰延税金資産		
退職給付引当金	676	709
賞与引当金	225	224
未払事業税	224	169
連結法人間取引(譲渡損)	121	5
出資金評価損	98	98
投資有価証券評価損	95	65
その他	173	185
繰延税金資産小計	1,615	1,458
評価性引当額	347	201
繰延税金資産合計	1,268	1,257
繰延税金負債		
連結法人間取引(譲渡益)	2,086	639
その他有価証券評価差額金	124	146
繰延税金負債合計	2,210	786
繰延税金資産の純額	941	470

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度	当事業年度
	(平成28年3月31日)	(平成29年3月31日)

法定実効税率 (調整)	33.06%	法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.77%	
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	0.02%	
評価性引当額の増減額	1.29%	
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	0.19%	
その他	0.43%	
税効果会計適用後の法人税等の負担率	31.89%	

(セグメント情報等)

[セグメント情報]

当社は、資産運用に関する事業の単一セグメントであるため記載を省略しております。

[関連情報]

1. サービスごとの情報

単一のサービス区分の営業収益が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略していません。

2. 地域ごとの情報

(1) 営業収益

内国籍証券投資信託又は本邦顧客からの営業収益が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略していません。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略していません。

3. 主要な顧客ごとの情報

営業収益のうち、損益計算書の営業収益の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

[報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報]

前事業年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

該当事項はありません。

当事業年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

該当事項はありません。

[報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報]

該当事項はありません。

[報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報]

該当事項はありません。

(関連当事者情報)

1 . 関連当事者との取引

(ア) 財務諸表提出会社の子会社

前事業年度（自 平成27年 4 月 1 日 至 平成28年 3 月31日）

種類	会社等の名称	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容	議決権等の所有 (被所有) 割合 (%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
子会社	Daiwa Asset Management (Singapore) Ltd.	Singapore	133	金融商品取引業	(所有) 直接100.0	経営管理	債務保証 (注)	1,749	-	-

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注) シンガポール通貨庁 (MAS) に対する当社からの保証状により、当該関連当事者の債務不履行等に関するMASへの損害等に対して保証しております。なお、債務総額は当該関連当事者の総運用資産額に応じて保証状にて定められております。

当事業年度（自 平成28年 4 月 1 日 至 平成29年 3 月31日）

種類	会社等の名称	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容	議決権等の所有 (被所有) 割合 (%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
子会社	Daiwa Asset Management (Singapore) Ltd.	Singapore	133	金融商品取引業	(所有) 直接100.0	経営管理	債務保証 (注)	1,685	-	-

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注) シンガポール通貨庁 (MAS) に対する当社からの保証状により、当該関連当事者の債務不履行等に関するMASへの損害等に対して保証しております。なお、債務総額は当該関連当事者の総運用資産額に応じて保証状にて定められております。

(イ) 財務諸表提出会社と同一の親会社をもつ会社

前事業年度（自 平成27年 4 月 1 日 至 平成28年 3 月31日）

種類	会社等の名称	所在地	資本金または出資金 (百万円)	事業の内容	議決権等の所有 (被所有) 割合 (%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 (百万円) (注1)	科目	期末残高 (百万円)
同一の親会社をもつ会社	大和証券(株)	東京都千代田区	100,000	金融商品取引業	-	証券投資信託受益証券の募集販売	証券投資信託の代行手数料 (注2)	27,062	未払手数料	3,188
同一の親会社をもつ会社	(株)大和総研ビジネス・イノベーション	東京都江東区	3,000	情報サービス業	-	ソフトウェアの開発	ソフトウェアの購入(注3)	593	未払費用	252

同一の親会社をもつ会社	大和プロパティ(株)	東京都中央区	100	不動産管理業	-	本社ビルの管理	不動産の賃借料(注4)	1,028	長期差入保証金	1,027
-------------	------------	--------	-----	--------	---	---------	-------------	-------	---------	-------

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注1)上記金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

(注2)証券投資信託の代行手数料については、証券投資信託の信託約款に定める受益者が負担する信託報酬のうち、当社が受け取る委託者報酬から代理事務に係る手数料として代行手数料を支払います。委託者報酬の配分は、両者協議のうえ合理的に決定しております。

(注3)ソフトウェアの購入については、市場の実勢価格を勘案して、その都度交渉の上、購入価格を決定しております。

(注4)差入保証金および賃借料については、近隣相場等を勘案し、交渉の上、決定しております。

当事業年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

種類	会社等の名称	所在地	資本金または出資金(百万円)	事業の内容	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(百万円)(注1)	科目	期末残高(百万円)
同一の親会社をもつ会社	大和証券(株)	東京都千代田区	100,000	金融商品取引業	-	証券投資信託受益証券の募集販売	証券投資信託の代行手数料(注2)	23,238	未払手数料	3,298
同一の親会社をもつ会社	(株)大和総研ビジネス・イノベーション	東京都江東区	3,000	情報サービス業	-	ソフトウェアの開発	ソフトウェアの購入(注3)	768	未払費用	218
同一の親会社をもつ会社	大和プロパティ(株)	東京都中央区	100	不動産管理業	-	本社ビルの管理	不動産の賃借料(注4)	1,036	長期差入保証金	1,028

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注1)上記金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

(注2)証券投資信託の代行手数料については、証券投資信託の信託約款に定める受益者が負担する信託報酬のうち、当社が受け取る委託者報酬から代理事務に係る手数料として代行手数料を支払います。委託者報酬の配分は、両者協議のうえ合理的に決定しております。

(注3)ソフトウェアの購入については、市場の実勢価格を勘案して、その都度交渉の上、購入価格を決定しております。

(注4)差入保証金および賃借料については、近隣相場等を勘案し、交渉の上、決定しております。

2. 親会社に関する注記

株式会社大和証券グループ本社(東京証券取引所、名古屋証券取引所に上場)

(1株当たり情報)

前事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)		当事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	
1株当たり純資産額	15,826.85円	1株当たり純資産額	15,158.25円
1株当たり当期純利益	5,084.10円	1株当たり当期純利益	4,421.51円

(注1) 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

(注2) 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下の通りであります。

	前事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
当期純利益(百万円)	13,262	11,533
普通株式の期中平均株式数(株)	2,608,525	2,608,525

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

中間財務諸表

(1) 中間貸借対照表

(単位:百万円)

当中間会計期間 (平成29年9月30日)	
資産の部	
流動資産	
現金・預金	22,206
有価証券	98
未収委託者報酬	11,259
繰延税金資産	391
その他	278
流動資産合計	34,233
固定資産	
有形固定資産	1 231
無形固定資産	
ソフトウェア	2,066
その他	446
無形固定資産合計	2,512
投資その他の資産	
投資有価証券	6,874
関係会社株式	5,129
その他	1,262

投資その他の資産合計	13,266
固定資産合計	16,010
資産合計	50,244

(単位:百万円)

当中間会計期間
(平成29年9月30日)

負債の部	
流動負債	
未払金	7,070
未払費用	3,973
未払法人税等	916
賞与引当金	692
その他	2 606
流動負債合計	13,260
固定負債	
退職給付引当金	2,324
役員退職慰労引当金	134
繰延税金負債	21
その他	6
固定負債合計	2,487
負債合計	15,747
純資産の部	
株主資本	
資本金	15,174
資本剰余金	
資本準備金	11,495
資本剰余金合計	11,495
利益剰余金	
利益準備金	374
その他利益剰余金	
繰越利益剰余金	7,116
利益剰余金合計	7,490
株主資本合計	34,160
評価・換算差額等	
その他有価証券評価差額金	336

評価・換算差額等合計	336
純資産合計	34,496
負債・純資産合計	50,244

(2) 中間損益計算書

(単位:百万円)

当中間会計期間	
(自 平成29年 4月 1日	
至 平成29年 9月30日)	
営業収益	
委託者報酬	40,996
その他営業収益	364
営業収益合計	41,360
営業費用	
支払手数料	20,216
その他営業費用	6,325
営業費用合計	26,542
一般管理費	1 5,665
営業利益	9,152
営業外収益	2 222
営業外費用	9
経常利益	9,365
特別利益	-
特別損失	-
税引前中間純利益	9,365
法人税、住民税及び事業税	2,879
法人税等調整額	69
中間純利益	6,416

(3) 中間株主資本等変動計算書

当中間会計期間(自 平成29年 4月 1日 至 平成29年 9月30日)

(単位:百万円)

	株主資本					
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		株主資本合計
		資本準備金	利益準備金	その他利益 剰余金	利益剰余金 合計	
				繰越利益 剰余金		
当期首残高	15,174	11,495	374	12,231	12,606	39,276
当中間期変動額						
剰余金の配当	-	-	-	11,532	11,532	11,532
中間純利益	-	-	-	6,416	6,416	6,416
株主資本以外の 項目の当中間期 変動額（純額）	-	-	-	-	-	-
当中間期変動額合計	-	-	-	5,115	5,115	5,115
当中間期末残高	15,174	11,495	374	7,116	7,490	34,160

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価 証券評価 差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	264	264	39,540
当中間期変動額			
剰余金の配当	-	-	11,532
中間純利益	-	-	6,416
株主資本以外の 項目の当中間期 変動額（純額）	72	72	72
当中間期変動額合計	72	72	5,043
当中間期末残高	336	336	34,496

注記事項

(重要な会計方針)

- 有価証券の評価基準及び評価方法
 - 子会社

移動平均法による原価法により計上しております。

(2) 其他有価証券

時価のあるもの

中間決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）を採用しております。

時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

定額法によっております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物	10～18年
器具備品	4～20年

(2) 無形固定資産

定額法によっております。

ただし、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年間）に基づく定額法によっております。

3. 引当金の計上基準

(1) 賞与引当金

役員及び従業員に対する賞与の支給に備えるため、支給見込額の当中間会計期間負担額を計上しております。

(2) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当社の退職金規程に基づく当中間会計期間末要支給額を計上しております。これは、当社の退職金は、将来の昇給等による給付額の変動がなく、貢献度、能力及び実績等に応じて事業年度ごとに各人別の勤務費用が確定するためであります。また、執行役員・参与についても、当社の退職金規程に基づく当中間会計期間末要支給額を計上しております。

(3) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支給に備えるため、当社の役員退職慰労金規程に基づく当中間会計期間末要支給額を計上しております。

4. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっております。

(2) 連結納税制度の適用

連結納税制度を適用しております。

(中間貸借対照表関係)

1 減価償却累計額

	当中間会計期間 (平成29年9月30日現在)
有形固定資産	307百万円

2 消費税等の取扱い

仮払消費税等及び仮受消費税等は、相殺のうえ、金額的重要性が乏しいため、流動負債の「その他」に含めて表示しております。

3 保証債務

当中間会計期間（平成29年9月30日現在）

子会社であるDaiwa Asset Management(Singapore)Ltd.の債務1,744百万円に対して保証を行っております。

(中間損益計算書関係)

1 減価償却実施額

	当中間会計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)
有形固定資産	16百万円
無形固定資産	471百万円

2 営業外収益の主要項目

	当中間会計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)
受取配当金	49百万円
投資有価証券売却益	134百万円

(中間株主資本等変動計算書関係)

当中間会計期間（自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日）

1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

(単位：千株)

	当事業年度期首 株式数	当中間会計期間 増加株式数	当中間会計期間 減少株式数	当中間会計期間末 株式数
発行済株式				

普通株式	2,608	-	-	2,608
合計	2,608	-	-	2,608

2. 配当に関する事項

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成29年6月26日 定時株主総会	普通株式	11,532	4,421	平成29年 3月31日	平成29年 6月27日

(金融商品関係)

当中間会計期間(平成29年9月30日)

金融商品の時価等に関する事項

中間貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません(注2)参照のこと)。

(単位:百万円)

	中間貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金・預金	22,206	22,206	-
(2) 未収委託者報酬	11,259	11,259	-
(3) 有価証券及び投資有価証券 その他有価証券	6,002	6,002	-
資産合計	39,467	39,467	-
(1) 未払金(*)	7,002	7,002	-
(2) 未払費用(*)	3,424	3,424	-
負債合計	10,427	10,427	-

(*) 金融商品で時価開示の対象となるものを表示しております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法

資 産

(1) 現金・預金及び(2) 未収委託者報酬

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額とほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 有価証券及び投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっております。また、証券投資信託については、基準価額によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項(有価証券関係)をご参照下さい。

負債

(1) 未払金及び(2) 未払費用

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額とほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：百万円)

区分	当中間会計期間
非上場株式	970
子会社株式	5,129
差入保証金	1,044

これらは、市場価格がなく、かつ将来キャッシュフローを見積ることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるものであるため、時価開示の対象としておりません。

(有価証券関係)

当中間会計期間（平成29年9月30日）

1. 子会社株式及び関連会社株式

子会社株式（中間貸借対照表計上額 5,129百万円）は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

2. その他有価証券

	中間貸借対照表 計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
中間貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの			
(1) 株式	124	55	69
(2) その他			
証券投資信託	4,458	3,979	479
小計	4,582	4,034	548
中間貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの			
その他			
証券投資信託	1,419	1,482	63
小計	1,419	1,482	63
合計	6,002	5,517	485

(注) 非上場株式（中間貸借対照表計上額 970百万円）については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

〔セグメント情報等〕

〔セグメント情報〕

当中間会計期間（自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日）

当社は、資産運用に関する事業の単一セグメントであるため記載を省略しております。

〔関連情報〕

当中間会計期間（自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日）

1. サービスごとの情報

単一のサービス区分の営業収益が中間損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 営業収益

内国籍投資信託又は本邦顧客からの営業収益が中間損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が中間貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

営業収益のうち、中間損益計算書の営業収益の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

〔報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報〕

当中間会計期間（自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日）

該当事項はありません。

〔報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報〕

当中間会計期間（自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日）

該当事項はありません。

〔報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報〕

当中間会計期間（自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日）

該当事項はありません。

〔1株当たり情報〕

当中間会計期間 （自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日）
--

1株当たり純資産額	13,224.69円
1株当たり中間純利益金額	2,459.79円

(注1) 潜在株式調整後1株当たり中間純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

(注2) 1株当たり中間純利益金額の算定上の基礎は、以下の通りであります。

当中間会計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)	
中間純利益(百万円)	6,416
普通株式に係る中間純利益(百万円)	6,416
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-
普通株式の期中平均株式数(株)	2,608,525

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

4 【利害関係人との取引制限】

委託会社は、「金融商品取引法」の定めるところにより、利害関係人との取引について、次に掲げる行為が禁止されています。

自己又はその取締役若しくは執行役との間における取引を行なうことを内容とした運用を行なうこと（投資者の保護に欠け、若しくは取引の公正を害し、又は金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。）。

運用財産相互間において取引を行なうことを内容とした運用を行なうこと（投資者の保護に欠け、若しくは取引の公正を害し、又は金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。）。

通常の取引の条件と異なる条件であって取引の公正を害するおそれのある条件で、委託会社の親法人等（委託会社の総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下において同じ。）又は子法人等（委託会社が総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下同じ。）と有価証券の売買その他の取引又は店頭デリバティブ取引を行なうこと。

委託会社の親法人等又は子法人等の利益を図るため、その行なう投資運用業に関して運用の方針、運用財産の額若しくは市場の状況に照らして不必要な取引を行なうことを内容とした運用を行なうこと。

上記に掲げるもののほか、委託会社の親法人等又は子法人等が関与する行為であって、投資者の保護に欠け、若しくは取引の公正を害し、又は金融商品取引業の信用を失墜させるおそれのあるものとして内閣府令で定める行為。

5 【その他】

a. 定款の変更、事業譲渡または事業譲受、出資の状況その他の重要事項

提出日前1年以内において、定款の変更、事業譲渡または事業譲受、出資の状況その他の重要事項に該当する事実はありません。

b. 訴訟事件その他委託会社に重要な影響を及ぼすことが予想される事実

訴訟事件その他委託会社に重要な影響を及ぼすことが予想される事実はありません。

第2 【その他の関係法人の概況】

1 【名称、資本金の額及び事業の内容】

(1) 受託会社

名称 三井住友信託銀行株式会社

資本金の額 342,037百万円（2017年3月末日現在）

事業の内容

銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律に基づき信託業務を営んでいます。

(2) 販売会社

名 称	資本金の額 単位：百万円 (2017年3月末日 現在)	事業の内容
大和証券株式会社	100,000	(注)

(注) 金融商品取引法に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。

2 【関係業務の概要】

受託会社は、信託契約の受託者であり、委託会社の指図に基づく信託財産の管理・処分、信託財産の計算等を行いません。なお、外国における資産の保管は、その業務を行なうに十分な能力を有すると認められる外国の金融機関が行なう場合があります。

販売会社は、受益権の募集の取扱い、信託契約の一部解約に関する事務、収益分配金・償還金・一部解約金の支払いに関する事務等を行いません。

3 【資本関係】

該当事項はありません。

<再信託受託会社の概要>

名称：日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社

資本金の額：51,000百万円（2017年3月末日現在）

事業の内容：銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律に基づき信託業務を営んでいます。

再信託の目的：原信託契約にかかる信託事務の一部（信託財産の管理）を原信託受託会社から再信託受託会社へ委託するため、原信託財産のすべてを再信託受託会社へ移管することを目的とします。

第3 【参考情報】

ファンドについては、当計算期間において以下の書類が関東財務局長に提出されております。

(提出年月日)	(書類名)
2017年9月19日	臨時報告書
2017年11月30日	有価証券報告書、有価証券届出書の訂正届出書
2017年12月18日	臨時報告書

独立監査人の監査報告書

平成29年 5月26日

大和証券投資信託委託株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	高波 博之	印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	貞廣 篤典	印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	内田 和男	印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられている大和証券投資信託委託株式会社の平成28年4月1日から平成29年3月31日までの第58期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、大和証券投資信託委託株式会社の平成29年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

(注) 2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成30年4月6日

大和証券投資信託委託株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 貞廣 篤典 印
業務執行社員指定有限責任社員 公認会計士 小林 英之 印
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているダイワ米国株ストラテジー（通貨選択型）-トリプルリターンズ-豪ドル・コース（毎月分配型）の平成29年9月8日から平成30年3月7日までの特定期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、ダイワ米国株ストラテジー（通貨選択型）-トリプルリターンズ-豪ドル・コース（毎月分配型）の平成30年3月7日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する特定期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

大和証券投資信託委託株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 . 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

(注) 2 . XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成30年4月6日

大和証券投資信託委託株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 貞廣 篤典 印
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 小林 英之 印
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているダイワ米国株ストラテジー（通貨選択型）-トリプルリターンズ-ブラジル・リアル・コース（毎月分配型）の平成29年9月8日から平成30年3月7日までの特定期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、ダイワ米国株ストラテジー（通貨選択型）-トリプルリターンズ-ブラジル・リアル・コース（毎月分配型）の平成30年3月7日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する特定期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

大和証券投資信託委託株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 . 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

(注) 2 . XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成30年4月6日

大和証券投資信託委託株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 貞廣 篤典 印
業務執行社員指定有限責任社員 公認会計士 小林 英之 印
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているダイワ米国株ストラテジー（通貨選択型）-トリプルリターンズ-日本円・コース（毎月分配型）の平成29年9月8日から平成30年3月7日までの特定期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、ダイワ米国株ストラテジー（通貨選択型）-トリプルリターンズ-日本円・コース（毎月分配型）の平成30年3月7日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する特定期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

大和証券投資信託委託株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 . 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

(注) 2 . XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成30年4月6日

大和証券投資信託委託株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 貞廣 篤典 印
業務執行社員指定有限責任社員 公認会計士 小林 英之 印
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているダイワ米国株ストラテジー（通貨選択型）-トリプルリターンズ-米ドル・コース（毎月分配型）の平成29年9月8日から平成30年3月7日までの特定期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、ダイワ米国株ストラテジー（通貨選択型）-トリプルリターンズ-米ドル・コース（毎月分配型）の平成30年3月7日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する特定期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

大和証券投資信託委託株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 . 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

(注) 2 . XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成30年4月6日

大和証券投資信託委託株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 貞廣 篤典 印
業務執行社員指定有限責任社員 公認会計士 小林 英之 印
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているダイワ米国株ストラテジー（通貨選択型）-トリプルリターンズ-通貨セレクト・コース（毎月分配型）の平成29年9月8日から平成30年3月7日までの特定期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、ダイワ米国株ストラテジー（通貨選択型）-トリプルリターンズ-通貨セレクト・コース（毎月分配型）の平成30年3月7日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する特定期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

大和証券投資信託委託株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 . 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

(注) 2 . XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の中間監査報告書

平成29年11月22日

大和証券投資信託委託株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	高波 博之	印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	貞廣 篤典	印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	内田 和男	印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられている大和証券投資信託委託株式会社の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの第59期事業年度の中間会計期間（平成29年4月1日から平成29年9月30日まで）に係る中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益計算書、中間株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について中間監査を行った。

中間財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した中間監査に基づいて、独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準は、当監査法人に中間財務諸表には全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得るために、中間監査に係る監査計画を策定し、これに基づき中間監査を実施することを求めている。

中間監査においては、中間財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するために年度監査と比べて監査手続の一部を省略した中間監査手続が実施される。中間監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要に応じて追加の監査手続が選択及び適用される。中間監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。また、中間監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め中間財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間監査意見

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、大和証券投資信託委託株式会社の平成29年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する中間会計期間（平成29年4月1日から平成29年9月30日まで）の経営成績に関する有用な情報を表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

(注) 2. XBRLデータは中間監査の対象には含まれていません。